

林 田 遺 跡 I

緊急地方道整備事業による県道宮ノ口深淵線改良工事に伴う林田遺跡発掘調査報告書

2002年 2月

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

林 田 遺 跡 I

緊急地方道整備事業による県道宮ノ口深淵線改良工事に伴う林田遺跡発掘調査報告書

2002年 2月

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター



丹の付着した礫 (ST5 出土)

序

林田遺跡のある土佐山田町は、高知県下でも有数の遺跡の集中するところであり、林田遺跡の北東には、弥生時代の壺がそのまま鍾乳石に覆われていることで知られている龍河洞遺跡があり、物部川を挟んで対岸には林田遺跡と同時代のひびのき遺跡やひびのきサウジ遺跡が存在しています。また北部の山麓には古墳群や古代の古窯跡が数多く残されています。このような遺跡の存在は、物部川によって育まれた当地の安定した気候風土が、私たちの祖先に豊かな生活の場を提供してきたことの何よりの証しだと思います。

今回調査した林田遺跡は、昭和58年以来2度目の調査となります。前回の調査と合わせて、弥生時代後期の竪穴住居が15棟確認され、集落の広がりを見ることができました。物部川左岸は、右岸に較べると調査例の少ないところであり、流域の歴史に新たな1ページを加えることができました。

埋蔵文化財は、私たちの祖先の営みの今日に伝える掛け替えのない文化遺産であると共に地域の歴史を復元していく為の貴重な歴史資料であります。地域の現在と未来の豊かな発展のためには、地域の土台であるその歴史を知ることから始めなければならないと思います。

本報告書が、地域の歴史資料として、また斯学の向上に寄与することができれば、この上ない喜びであります。今後とも埋蔵文化財に対しまして一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、炎天下、現地調査に携わって下さいました多くの方々ならびに整理作業員の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成14年2月

財団法人 高知県文化財団 埋蔵文化財センター

所長 門田 伍朗

本文目次

第Ⅰ章 調査に至る経過	1
第Ⅱ章 周辺の歴史・地理的環境	2
第Ⅲ章 調査の概要	6
1 調査の方法	
2 調査の概要	
第Ⅳ章 Ⅰ区の調査成果	9
1 基本層序	
2 検出遺構と遺物	
第Ⅴ章 Ⅱ区の調査成果	44
1 基本層序	
2 検出遺構と遺物	
第Ⅵ章 まとめ	53
付編	77

挿図目次

- Fig. 1 : 高知県及び土佐山田町位置図
Fig. 2 : 周辺の遺跡分布(S= 1 /25000)
Fig. 3 : 調査区位置図 1
Fig. 4 : 調査区位置図 2
Fig. 5 : I 区検出遺構全体図及び基本層序位置図
Fig. 6 : I 区基本層序(調査区東壁)
Fig. 7 : ST 1・2 平面図
Fig. 8 : ST 2 中央ピット平面・セクション図
Fig. 9 : ST 1 第 3 群土器実測図 1
Fig.10 : ST 1 第 3 群土器実測図 2
Fig.11 : ST 1 中央ピット・同埋土出土土器実測図
Fig.12 : ST 1 西壁出土土器実測図
Fig.13 : ST 2 第 1 群土器実測図
Fig.14 : ST 2 第 2 群出土土器実測図 1
Fig.15 : ST 2 第 2 群出土土器実測図 2
Fig.16 : ST 2 第 2 群出土土器実測図 3
Fig.17 : ST 2 中央ピット・P 1・床面出土土器実測図
Fig.18 : ST 2 西壁出土土器・石器実測図
Fig.19 : ST 2 埋土出土土器実測図 1
Fig.20 : ST 2 埋土出土土器実測図 2
Fig.21 : ST 2 埋土出土土器実測図 3
Fig.22 : ST 3 平面・セクション及び中央ピット平面・エレベーション図
Fig.23 : ST 3 出土土器実測図
Fig.24 : ST 4 平面・セクション図
Fig.25 : ST 4 床面中央の集石及び中央ピット平面・エレベーション図
Fig.26 : ST 4 出土土器実測図 1
Fig.27 : ST 4 出土土器実測図 2
Fig.28 : ST 4 出土遺物実測図 3
Fig.29 : ST 5 平面・セクション・エレベーション及び出土遺物実測図
Fig.30 : ST 6 集石平面エレベーション図
Fig.31 : ST 6 平面・セクション・中央ピット平面・同エレベーション図
Fig.32 : ST 6 出土土器実測図 1
Fig.33 : ST 6 出土土器実測図 2
Fig.34 : ST 6 出土土器実測図 3
Fig.35 : ST 7 平面・エレベーション図
Fig.36 : ST 7 出土土器実測図 1
Fig.37 : ST 7 出土土器実測図 2
Fig.38 : SX 1 平面・エレベーション及び出土土器実測図
Fig.39 : 土坑平面・セクション・エレベーション図
Fig.40 : 鉄器実測図
Fig.41 : II 区検出遺構全体図及び基本層序位置図

第 I 章 調査に至る経過

県道宮ノ口深淵線は、土佐山田町宮ノ口と野市町深淵を結ぶ一般県道で物部川沿いの国道195号線と県道南国野市線とを結ぶ路線である。沿線には高知工科大学や中核工業団地があり、工科大等と高知空港とを結ぶ最短ルートとして整備するものである。平成9年度に工科大前の区間が部分開通しており、県道龍河洞公園線～県道神母木野市線間を平成10年度より事業化し、同15年度に農林合同庁舎付近までの部分開通に向けて事業が進められている。

11年度事業予定地の土佐山田町林田、同加茂地区には林田遺跡や林田シタノヂ遺跡、山本前田窯跡、ハイタノクボ遺跡など縄文時代から古代・中世に至る遺跡が所在している。林田遺跡は1983年の明治地区県営圃場整備に伴う発掘調査において弥生時代後期の竪穴住居5棟を検出し、当時としては物部川左岸に展開する初めての集落例として注目された。林田シタノヂ遺跡は土佐山田町では数少ない縄文時代の遺跡であり、ハイタノクボ遺跡からは古代の瓦などが検出される。当地域は物部川中流域右岸における重要な遺跡群として位置付けることができよう。

工事が予定通り行われたならば、これら遺跡群は大きな影響を受けることになる。文化財保護部局である高知県教育委員会は、高知県南国土木事務所と協議を行い、先ず平成11年度事業工区内に入る林田遺跡については、記録保存の為の全面発掘調査を実施することとなり、以後の工事予定地内についても順次試掘調査を行うことを確認した。

11年度の林田遺跡の発掘調査は、財団法人埋蔵文化財センターが実施することになり、同センターは平成11年8月26日に高知県南国土木事務所と委託契約を締結し、買収の完了している地点2000㎡について発掘調査を実施する運びとなった。契約締結直ちに調査に入る予定であったが、ビニールハウス機材等の撤去の遅れから、現地調査の開始は9月7日となった。調査着手後は順調に進み11月23日に現地調査を終了した。

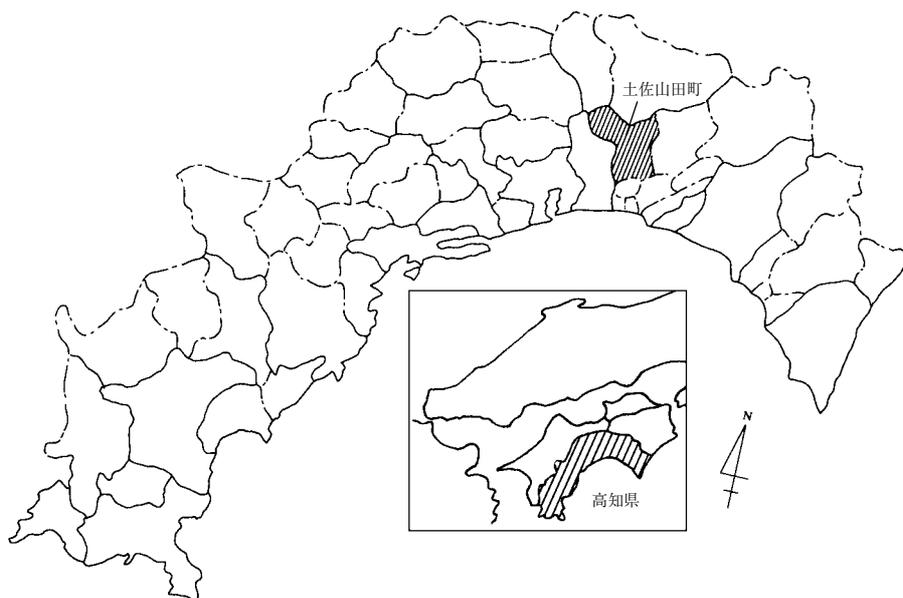


Fig.1 高知県及び土佐山田町位置図

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

林田遺跡の所在する土佐山田町林田及び加茂は、物部川左岸に形成された低位段丘上にある。遺跡の標高は54m前後を測り、沖積平野面との比高差は15mである。物部川河口からは12km上流に位置する。林田遺跡の載っている段丘は、物部川の流が南に大きく方向を変える杉田から広がる低位段丘の最も南に位置し、遺跡の北を流れる空谷川によって隔されている。この種の段丘は右岸側においてさらに広く展開しており、南国市後免付近の長岡台地へと続く。下流域には香長平野の主要部を形成する扇状地や自然堤防が発達し、各時代を通して県下でも最も遺跡の多く分布する地域である。

物部川流域の歴史は、後期旧石器時代まで遡ることができるが、旧石器時代の遺跡数は僅少であり発掘調査の例はない。その中で右岸の中位段丘にある佐野楠目山遺跡からは角錐状石器が十数点採集されており最も有望視されている。この他に中流域の香北町永野南岡遺跡において旧石器の可能性のある石器が採集されている。県中央部に視野を広げれば、南国市の奥谷南遺跡からナイフ形石器など質・量ともに良好な資料が得られ注目すべき成果を挙げている⁽¹⁾。

縄文時代の遺跡は、県西部の海岸段丘や四万十川流域に数多く分布しており、物部川流域を含む中央部は分布密度の稀薄な地域とされてきた。しかしながら近年では、香長平野において新たな遺跡の発見例が増えつつある。草創期の事例は僅少であるが、奥谷南遺跡から隆帯文土器や尖頭器などが出土し注目を集めている。早期になると物部川の低位段丘に点在し始めるが、現状では左岸のみに分布しており右岸においては未確認である。中流域の香北町美良布遺跡⁽²⁾からは僅少ながら厚手無文土器が出土しており、同じく中流域の太郎丸遺跡からは黄島式土器が比較的まとまって出土している。続く前期の遺跡は、物部川流域の段丘からは発見されておらず、奥谷南遺跡⁽³⁾や栄エ田遺跡⁽⁴⁾など香長平野北端の山麓部から少量を土器が出土しているに過ぎない。中期の遺跡も少ないが、林田シタノヂ遺跡⁽⁵⁾から土坑に伴って中期末葉の土器が出土しており、下流域で

1	林田遺跡	弥生・古代	14	ひびのき遺跡	弥生	27	山本前田窯跡	古代
2	宮ノ口遺跡	古墳～古代	15	ヒビツキ岡の神母遺跡	弥生～中世	28	加茂遺跡	古墳～中世
3	林田1号墳	古墳	16	ひびのきサウジ遺跡	弥生～近世	29	加茂神社西遺跡	古墳～中世
4	林田2号墳	古墳	17	伏原大塚古墳	古墳	30	ガニウド遺跡	古墳～中世
5	林田シタノヂ遺跡	縄文～古代	18	大塚遺跡	弥生～近世	31	町田遺跡	弥生～中世
6	宮田遺跡	弥生～近世	19	小倉山古墳	古墳	32	町田堰遺跡	縄文～中世
7	小田島遺跡	古代	20	鏡野学園前古墳	弥生～中世	33	ノツゴ遺跡	弥生・古代
8	郷本遺跡	弥生・古墳	21	メウカイ遺跡	弥生～中世	34	小山谷古墳	古墳
9	横田遺跡	弥生～中世	22	伏原遺跡	弥生～古代	35	鬼ヶ岩屋洞穴遺跡	弥生
10	田所神社裏遺跡	弥生～中世	23	楠目遺跡	弥生～近世	36	上分古墳	古墳
11	前ノ芝遺跡	弥生～平安	24	稲荷前遺跡	弥生～近世	37	東佐古遺跡	弥生
12	大西土居遺跡	弥生	25	高柳遺跡	弥生～中世	38	西佐古遺跡	平安・中世
13	ひびのき大河内遺跡	弥生～近世	26	日吉神社遺跡	古代	39	加茂ハイタノクボ遺跡	古代

林田遺跡周辺遺跡名一覧

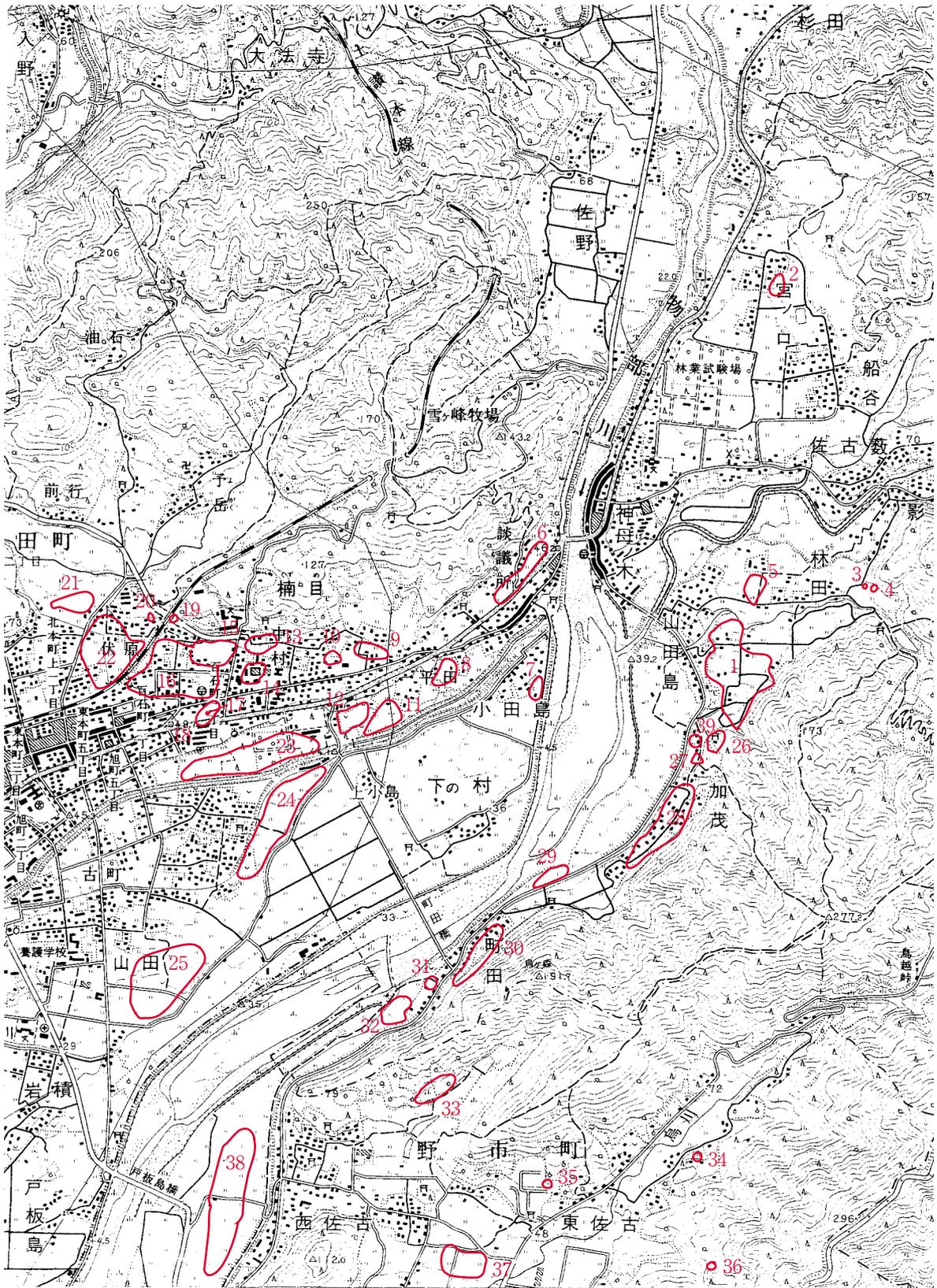


Fig.2 周辺の遺跡分布 (S=1/25000)

は田村遺跡から船元式土器が出土している。また奥谷南遺跡からは中期末葉と考えられる貯蔵穴が7基検出されている⁽³⁾。香長平野においては中期頃から沖積平野へ進出しはじめることが考えられる。後期になると県下の遺跡の飛躍的な増加が見られるが、香長平野では田村遺跡や栄エ田遺跡、奥谷南遺跡などでまとまった遺物が出土している。田村遺跡からは後期中葉の片粕式土器とともに多量の打製石斧や石錘が出土しており⁽⁶⁾、最近の調査では九州の鐘崎式土器がまとまって出土するなど注目すべき成果を挙げている。晩期は美良布遺跡から中葉の八反坪式土器と同時期の土坑が数基検出されており⁽²⁾、栄エ田遺跡や林田シタノヂ遺跡⁽⁵⁾では、中葉から突帯文土器期の土器が出土している。

弥生時代になると香長平野は県下で最も遺跡が集中する。しかも時期によって分布地点に明瞭な変化が現れるなど興味深い現象が生じるのである。先ず田村遺跡群に前期初頭の集落が忽然と出現する。いわゆる松菊里型住居を含む10棟の竪穴住居と大小15棟の掘立柱建物からなる集落である。この段階で大陸系磨製石器はすべて揃っており、土器は縄文晩期土器を伴わず初期の遠賀川式土器が展開するという特徴を有している。続いて地点を変えて環濠を有する集落が営まれ、以後の発展の基礎が培われる⁽⁷⁾。前期末から中期中葉にかけては比較的遺構も少ないが、横線文土器が盛行しはじめる中期後葉から後期前半にかけて田村遺跡は拠点集落として最大の盛況期を迎える。最近の調査結果によると竪穴住居400棟以上、掘立柱建物200棟以上が検出されている⁽⁸⁾が、これらのほとんどが後期前半に属するものである。当該期は周辺部においても集落遺跡が増加し、物部川左岸の下ノ坪遺跡⁽⁹⁾や上岡遺跡に後期前半を中心とする集落が営まれる。またこの時期は平野を見下ろす丘陵や山腹にも集落遺跡が出現する。奥谷南遺跡⁽³⁾や野市町の本村遺跡⁽¹⁰⁾を好例として挙げることができよう。香長平野の青銅器は、最も古い例として野市町兎田八幡宮の中細銅剣が挙げられる⁽¹¹⁾。しかし、当地域の青銅器の特徴は、銅鐸と中広・広形銅矛が混在して分布するところに最も大きな特徴を見出すことができる。物部川上流の物部村大栃には中広銅矛が2本、中流域の美良布神社には近畿式銅鐸2個、下流域右岸からの出土が想定されている伝香美郡出土銅鐸を挙げることができる。田村遺跡とその周辺からも近畿式1個と扁平鈕式銅鐸が1個出土しており、銅矛は中広形2本と広形6本が出土している。南四国中央部における青銅祭器のこのような分布は、従来のような九州と近畿の東西の対峙の象徴として位置付けるのではなく、最近では拠点集落田村遺跡に代表されるような南四国中央部の求心性の産物としての解釈が出されている⁽¹²⁾。

弥生時代後期後半に至ると香長平野の集落には大きな変化が現れる。すなわち拠点集落田村遺跡が突然消滅すると共に周辺部の集落も同時し終焉を迎え、集落はそれまでほとんど集落のなかった内陸部へと移動し遺跡数が飛躍的に増加するのである。短期間に集落の再編を遂げるのである。林田遺跡の弥生後期集落はこのような背景の中で登場する。対岸のひびのき遺跡⁽¹³⁾やひびのきサウジ遺跡⁽¹⁴⁾、岩村遺跡⁽¹⁵⁾、金地遺跡⁽¹⁶⁾、小籠遺跡⁽¹⁷⁾、東崎遺跡⁽¹⁸⁾などを挙げることができる。さらにこれらの遺跡は多くの場合古墳時代初頭まで営まれるが、その後に継続することはほとんどなく短命な遺跡であるところに特徴がある。当地域は周知のように前期古墳の空白地帯である

が、集落址の動向と如何なる関連があるのか今後追究していくべき課題である。

当地域に古墳が登場するのは古墳時代後期からである。南国市や土佐山田町の山麓部には横穴式石室をもった大小の古墳が営まれ、県下では最も周密な分布を示している。林田遺跡の周辺にも林田1号・2号墳が築かれている。このような古墳を営んだ勢力がやがて地域の有力者層を形成するようになり政治的にも成長を遂げ、律令体制の地域支配の一翼を担うようになる。土佐における古代史の中心舞台は南国市比江とその周辺が挙げられるが、下ノ坪遺跡では官衙のような規格性を持った大型掘立柱建物群が検出されており、最近田村遺跡においても当該期の掘立柱建物群の検出が相次いでいる。このことは物部川流域が、古代においても特に水運に関連して重要な役割を果たしていたことが窺える。林田遺跡の南の加茂ハイタノクボ遺跡⁽¹⁹⁾からは讃岐の善通寺や仲村廃寺出土と同汎の軒丸瓦が出土しており、付近には当該期の山本前田窯跡もある。これまで土佐山田町の古代史は、須江古窯址群など土佐国衙推定地周辺の西部で語られることが多かったが、林田遺跡付近は、物部川右岸に展開するもう一つの舞台として注目すべき地域である。

(註)

- 1) 松村信博・山本純代「高知県奥谷南遺跡」『日本考古学年報49』日本考古学協会1996年
- 2) 出原恵三『美良布遺跡』高知県香北町教育委員会1991年
- 3) 松村信博・山本純代『奥谷南遺跡Ⅰ』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター1999年
- 4) 松村信博『栄エ田遺跡』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター1995年
- 5) 山崎正明『林田シタノヂ遺跡』高知県土佐山田町教育委員会1993年
- 6) 高知県教育委員会『高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 田村遺跡群』第Ⅰ分冊 1986年
- 7) 高知県教育委員会『高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 田村遺跡群』第Ⅱ・Ⅲ分冊 1986年
- 8) (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター『平成9年度高知空港発掘調査田村遺跡群現地説明会資料』1998年
- 9) 小松大洋・出原恵三・池澤俊幸『下ノ坪遺跡Ⅱ』高知県野市町教育委員会1998年
- 10) 坂本憲昭『本村遺跡』高知県野市町教育委員会1993年
- 11) 岡本健児・岡本桂典「高知県香美郡野市町兎田八幡宮と絵画をもつ銅剣」『高知県立歴史民俗資料館研究紀要 第3号』高知県立歴史民俗資料館1993年
- 12) 出原恵三「南四国の古墳時代－前期古墳成立期前後の動向を中心に－」『古代学協会四国支部第14回大会研究発表要旨集』古代学協会四国支部2000年
- 13) 岡本健児『高知県ひびのき遺跡』高知県土佐山田町教育委員会1977年
- 14) 高橋啓明『ひびのきサウジ遺跡発掘調査報告書』高知県土佐山田町教育委員会1990年
- 15) 三谷民雄『岩村遺跡群Ⅳ』高知県南国市教育委員会1999年
- 16) 吉原達成『金地遺跡』高知県南国市教育委員会1992年
- 17) 出原恵三・泉幸代・浜田恵子・藤方正治『小籠遺跡Ⅱ』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター1996年
- 18) 山本哲也『東崎遺跡Ⅰ』(財)高知県文化財団1991年
- 19) 川端清司『加茂ハイタノクボ遺跡』高知県土佐山田町教育委員会2000年

第Ⅲ章 調査の概要

1 調査の方法 (Fig.3・4)

北の調査区をⅠ区、水田を隔てて南の調査区をⅡ区とした。Ⅰ区は長さ76m、幅16mで面積約1200㎡の調査区である。Ⅱ区は長さ50m、幅16mで面積800㎡の調査区である。今次調査区は昭和58年に行った地点から西に50m余りのところであり、前回の調査結果から見て、同様の遺構遺物の分布が想定されたところから、試掘調査は行わずに、最初から全面発掘を行うこととした。

Ⅰ区はビニールハウスの跡地であったことから機材の残片が散乱しており、手作業でそれらの撤去を行った後に重機を入れた。当該調査区も既に圃場整備が行われており、現耕作土の下は削平や客土による整地がなされていた。圃場整備で改変された土層の直上まで重機掘削を行い、それより下層は人力で下げた。Ⅱ区は、荒れ地の状態であり草刈後に重機掘削を開始した。Ⅱ区は圃場整備による改変を受けておらず、表土層除去後に人力掘削に切り替えた。遺物の取上げや遺構実測は、公共座標によって4m×4mのメッシュを設け、南から北に向かって1・2・3・4・・・、東から西に向かってA・B・C・D・・・を付した。遺構や層序の実測は20分の1縮尺を基本とし必要によって縮尺を変えた。竪穴住居の遺物取上げは、埋土の分層が困難であったために、5～10cmの厚さの人工層位によって、上から1回目、2回目・・・として取上げた。

2 調査の概要 (Fig.5～41)

今次調査区の地形は、低位段丘面の西南部に位置し標高54m前後を測る。1983年の圃場整備によってかなり改変を受けているが、Ⅱ区の西側は崖になっており、Ⅰ区も合同庁舎を挟んで西側は急峻な傾斜地となっている。Ⅰ区の北側は、小さな谷状の凹地があり、Ⅱ区の南は日吉神社のある小谷に向かって緩やかに傾斜している。従ってⅠ区の遺構検出面である地山面は、西側と北側とに向かって緩やかに傾斜しており、調査区の東壁の地山レベルと西側のそれとでは、50cmの差が認められる。Ⅱ区の北部は耕作土直下が地山面になっており、南に向かって堆積が厚くなっている。

Ⅰ区は既に述べたように、圃場整備でかなり改変されており、調査区東側では遺物包含層のほとんどが削平されている。加えて、その後のビニールハウス建設による攪乱を受けおり、竪穴住居の床面よりも深く攪乱が及んでいるところがある。しかしながら弥生時代後期から古墳時代前期初頭にかけての竪穴住居址を7棟検出し、中世のピットも僅少なながら存在した。立地環境から見て、Ⅰ区あたりが林田遺跡弥生集落の西端部にあたるものと考えられる。

Ⅱ区からは弥生時代の遺構は少なく、調査区西壁に沿うように戦国期の溝と縄文時代の土坑を検出した。林田遺跡の竪穴住居群はⅡ区までは広がっていないと考えられる。また遺物は僅少なながら、古代の坏なども出土しており南側に分布している山本前田古窯址やハイタノクボ遺跡との関連が考えられよう。

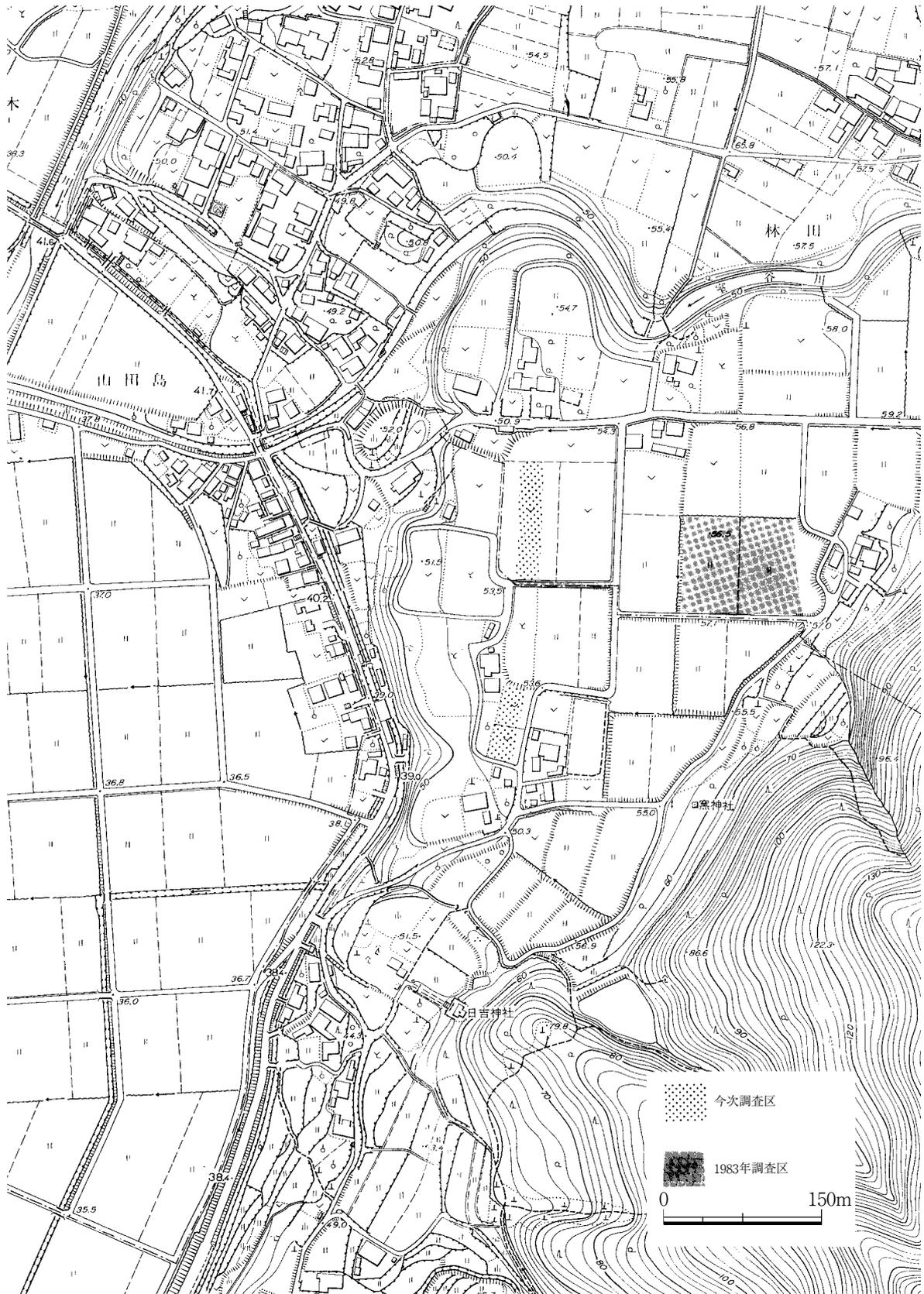


Fig.3 調査区位置図1

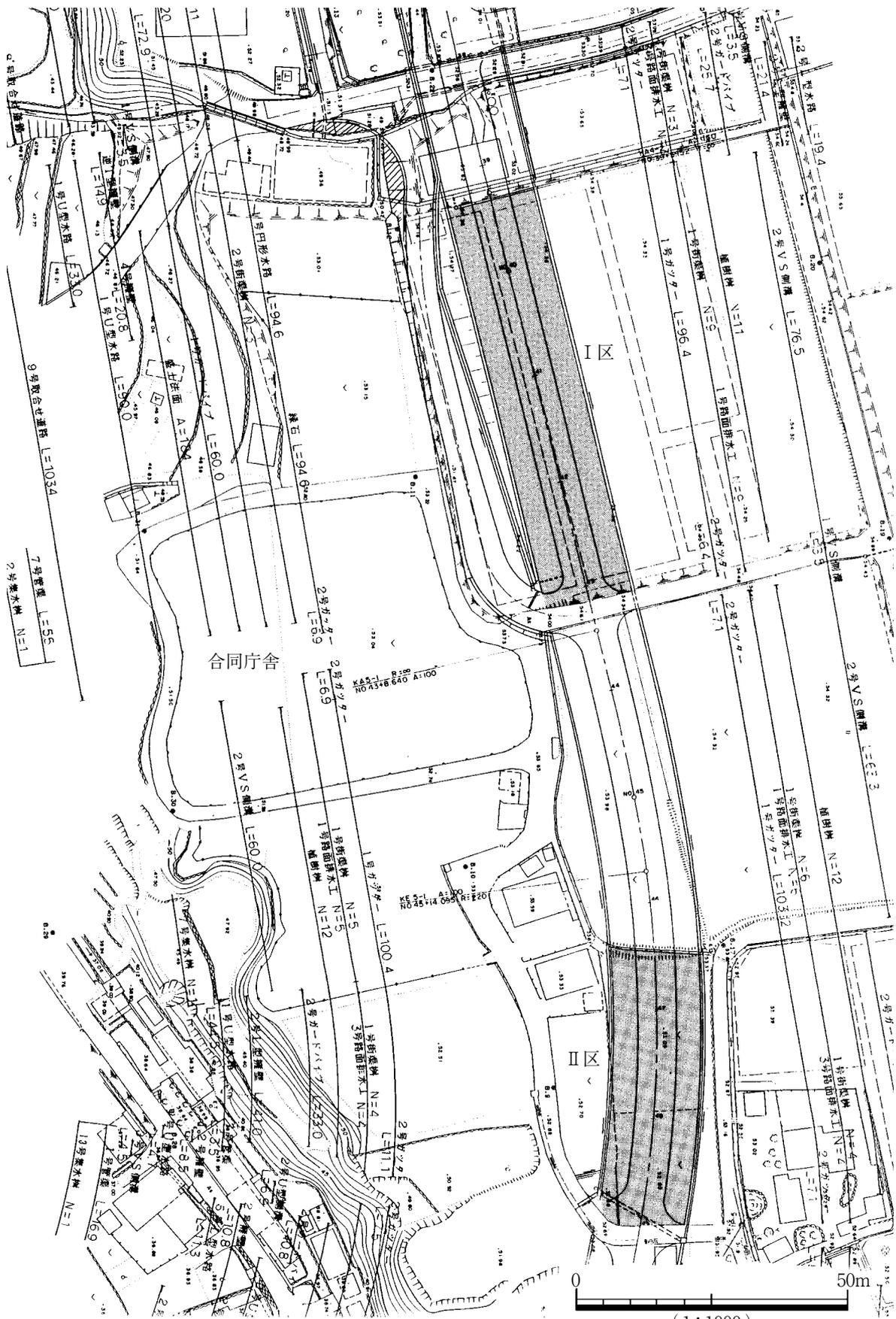


Fig.4 調査区位置図2

第Ⅳ章 1区の調査成果

1 基本層序 (Fig. 6)

調査区東壁の層準を示す。

V層：黄色粘土に砂岩を中心とした拳大の円礫を含む地山層であり、基盤を形成している。弥生時代後期の遺構検出面である。

IV層：茶褐色粘土層の遺物包含層である。最大層厚15cm前後を測るが部分的にしか認めることができない。本来は全体に堆積していたと考えられるが圃場整備、或いはそれ以前の整地によって削平されている。

Ⅲ層：旧耕作土である。層厚0～15cmを測り、V層及びIV層の上に堆積している。

Ⅱ層：客土層である。昭和58年に行われた圃場整備によるものである。最大層厚20cmを測る。

I層：現耕作土で層厚20～40cmを測る。

2 検出遺構と遺物

(1) 竪穴住居

ST 1 (Fig. 7・9～12・40)

調査区の北西にあり、ST 2 と同時に検出した。半分近くが調査区外に出ているが、直径5 m前後の円形または隅丸方形の竪穴住居である。西壁を精査しST 2 との新旧関係の把握に努めたが、セクションで両者の先後関係を明確にすることはできなかった。ただ遺物の出土状況から見るとST 1 が新しい可能性がある。埋土は黒褐色の黒ボク層で、深さは30cm前後を測るが、基本層準Ⅱ層の客土下で検出していることから圃場整備の際に削平を受けており、本来はもっと深く残存していたものと思われる。床面は平坦で2個の小ピットを検出した。

遺物は、ST 2 と峻別して取上げることはできなかったが、図示したように3群の遺物は、長さ3 m、幅0.7mの範囲から集中して出土したものである。これらの土器は、床面から10～20cm程浮いていることから竪穴住居の廃棄の過程で一括して捨てられたものと考えられる。甕(5～10)と鉢(11～24)を中心に壺(1～4)、高杯(25)が出土している。これらの他、埋土中(35～59)、西壁面(60～74)からも多くの土器が出土している。また壁面の土器を取り出す中で、中央ピットと考えられる長軸70cm前後の土坑の一部を検出した。31～34が土坑出土の土器である。この他、西壁中から鉄鏃(378)が出土している。出土土器の器種組成を口縁部で見ると、図示し得なかったかったものも含めて壺21点(11.5%)、甕82点(44.8%)、鉢78点(42.6%)、高杯3点(1.6%)、蓋1点(0.5%)である。各器種の型態を見ると壺は口縁部がラッパ状に開く広口壺が9点、口縁部が「く」字状に開く広口壺が4点、二重口縁壺が5点、その他のタイプが3点である。前者の広口壺のうち3点には口唇部に櫛描波線文が施されている。甕は、叩き成形で、口縁部が「く」字状に外反する長胴のタイプで占められている。鉢はすべて単純な椀形である。甕、鉢などの底部は、丸底・尖底が数点(13、52、53)認められるのみで、ほとんどすべてが平底を保っている。これらの土器は、弥生後期末のⅥ-2期に属するものである。

ST 2 (Fig. 7・8・13～21・40)

半分近くが調査区外に出ているが直径5.6mの円形住居である。埋土は黒ボクの単純1層で、上層の一部が攪乱を受けている。深さは50cmを測るが、ST 1と同様に削平を受けており本来はもっと深く残存していたと考えられる。床面はほぼ平坦であるが、南側に地山削り出しによる高さ20cmのテラス状の高まりが認められる。ベッド状遺構の可能性もある。北側の一部には壁溝が見られる。

中央ピットは床面中央よりも南寄りに設けられており、長軸1.3m、短軸1.05mの隅丸形状のプランを有し、南側の立ち上がりが段状をなしている。深さ30cmを測る。中央ピットの底には炭化物が堆積している。この他にP 1、P 2が認められるが、柱穴の位置関係を明らかにすることはできなかった。

遺物は、1群、2群の集中が見られ、2群は調査区外の壁の中にも広がっている。1・2群の土器は検出面直下で検出したものであり、床面からは20～30cm浮いている。ST 1の3群と同じように竪穴住居の廃棄の過程で一括して捨てられたものである。また西壁出土として図示した遺物(159～178)は2群と一体のものである。出土遺物の中で最も多い2群の器種組成を口縁部の点数で見ると甕133点(78.2%)、壺14点(8.2%)、鉢21点(12.4%)、高杯2点(1.2%)である。甕は、口縁部が「く」字状に外反し、荒い叩き目を残した長胴のタイプがほとんどであるが、滑らかなカーブを有して外反するもの(108)や口縁端部を上方に摘み上げて丁寧な横ナデ調整をするもの(111)も見られる。前者の内面にはヘラ削りが認められる。壺は口縁部がラッパ状に開く広口壺(88～92、94、96)が多く、長頸壺(86)や二重口縁壺(93)も認められる。広口壺(92)の口唇部には3条の凹線文が施され二重口縁壺(93)には鋸歯文が施されている。鉢は単純な碗形が多いが、口縁部外反のタイプ(115、117)も認められる。底部は例外なくすべて平底である。この他埋土中層から鉄鏃(377)が出土している。

床面出土の遺物は、甕(145～147、150、152、155、156、158)、壺(141、142、157)、鉢(144)、中央ピット出土のものは壺(140)、甕(149、153、154)、高杯或いは鉢(143)、P1出土のものは甕(148)を図示した。なお甕(151)はP1と床面との接合資料である。これらの他埋土中より壺(179～190)、甕(191～208)、鉢(209～217)、蓋(219)、ミニチュア(218)を図示し得た。これらのうち甕(195)は前期末の甕で混入遺物である。

ST 2出土の土器を図示し得なかったものも含めて機種別に口縁部の点数で示すと、甕340点(69.5%)、壺47点(9.6%)、鉢88点(18%)、高杯11点(2.3%)、その他3点で、甕が圧倒的多数を占めている。また確認し得た底部形態は、すべて平底である。これらの土器は弥生後期VI-1期に属する。

ST 3 (Fig.22・23)

調査区中央部にあり、ST 4・5と近接している。随所にビニールハウスの支柱などによって攪乱されているが全体を把握することができる。直径7mのやや不整な円形住居で、壁の立ち上がりは北東部で20cm前後、南西部で10cm前後である。基本的な埋土は、I層：灰茶色粘土とⅢ層：黒褐色粘土～シルトで、部分的に音地がブロック(Ⅱ層)で入っている。床面は概ね平坦であるが南壁近くで3～4cm程高くなっているところがある。この高まりはセクションベルトで確認できた

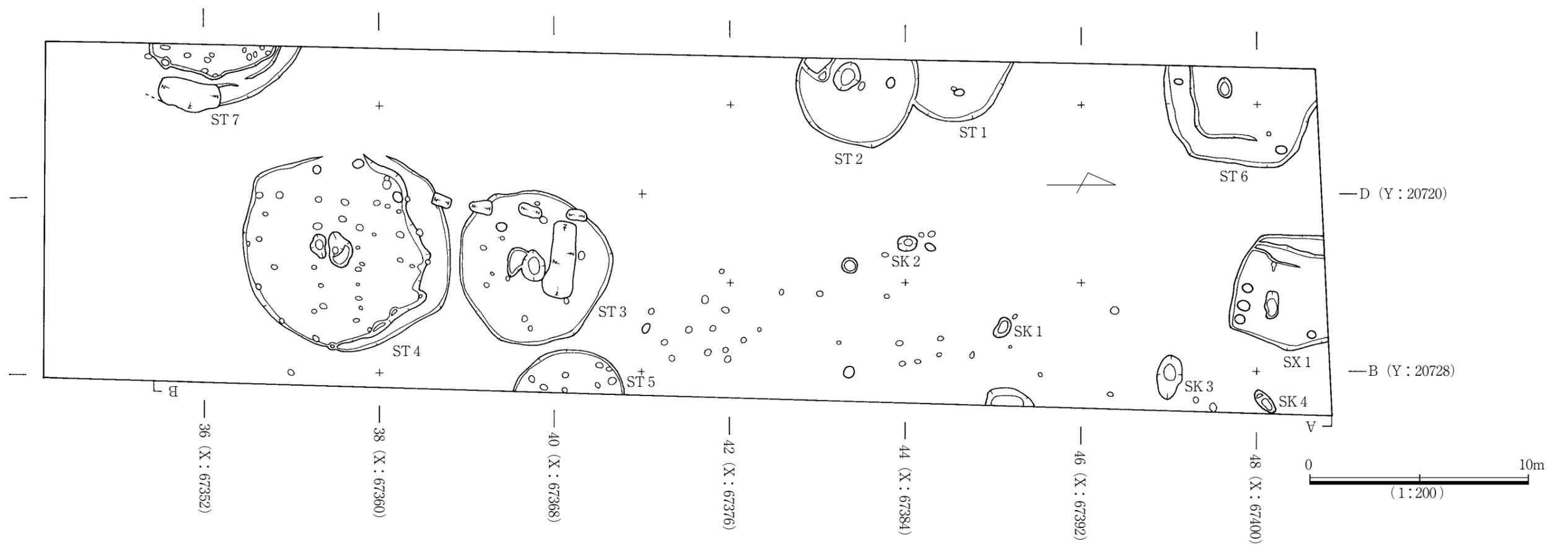


Fig.5 I区検出遺構全体図及び基本層序位置図

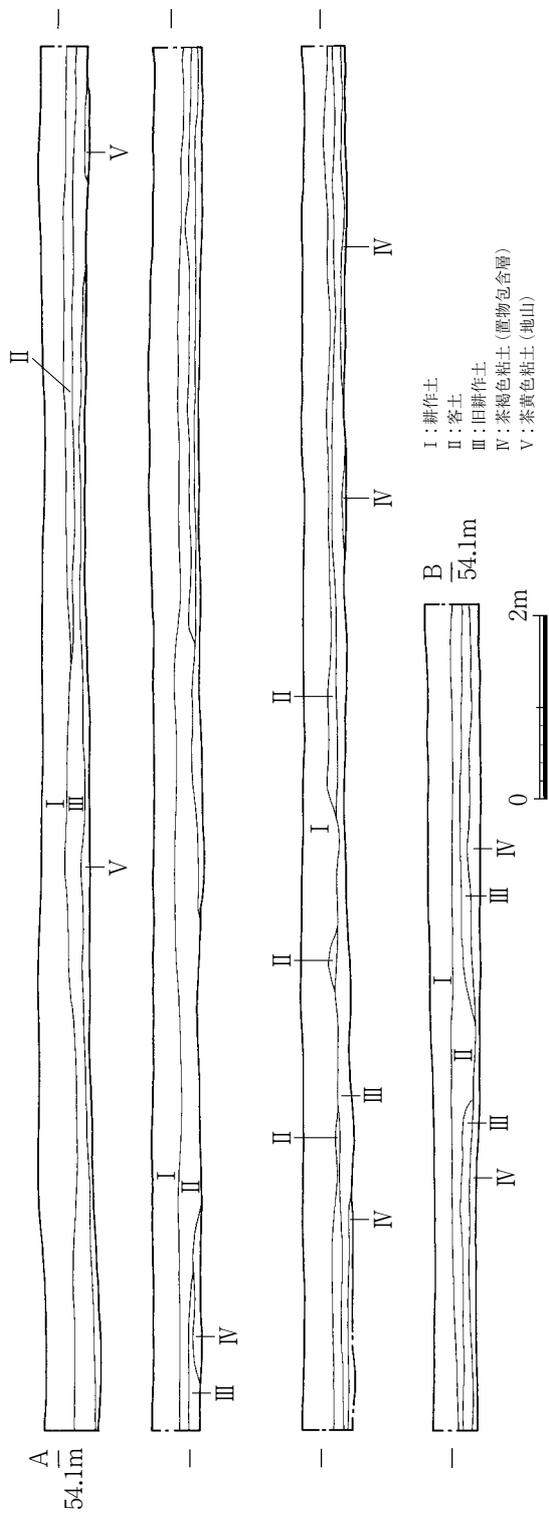


Fig.6 I 区基本層序 (調査区東壁)

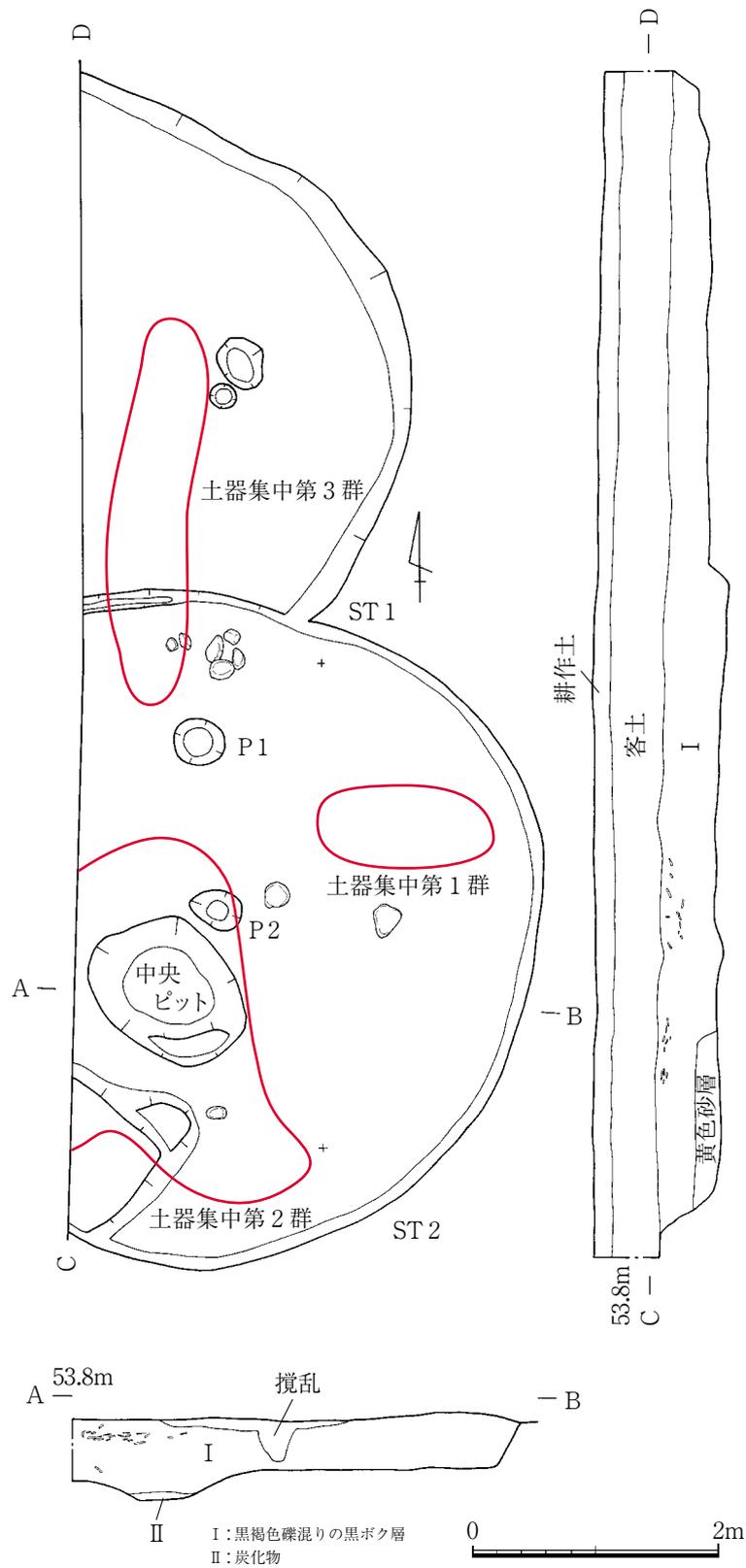


Fig.7 ST1・2平面図 (S=1/60)

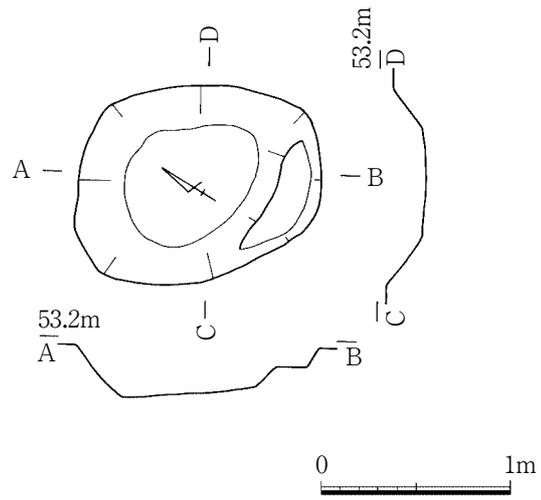


Fig.8 ST2中央ピット平面・セクション図

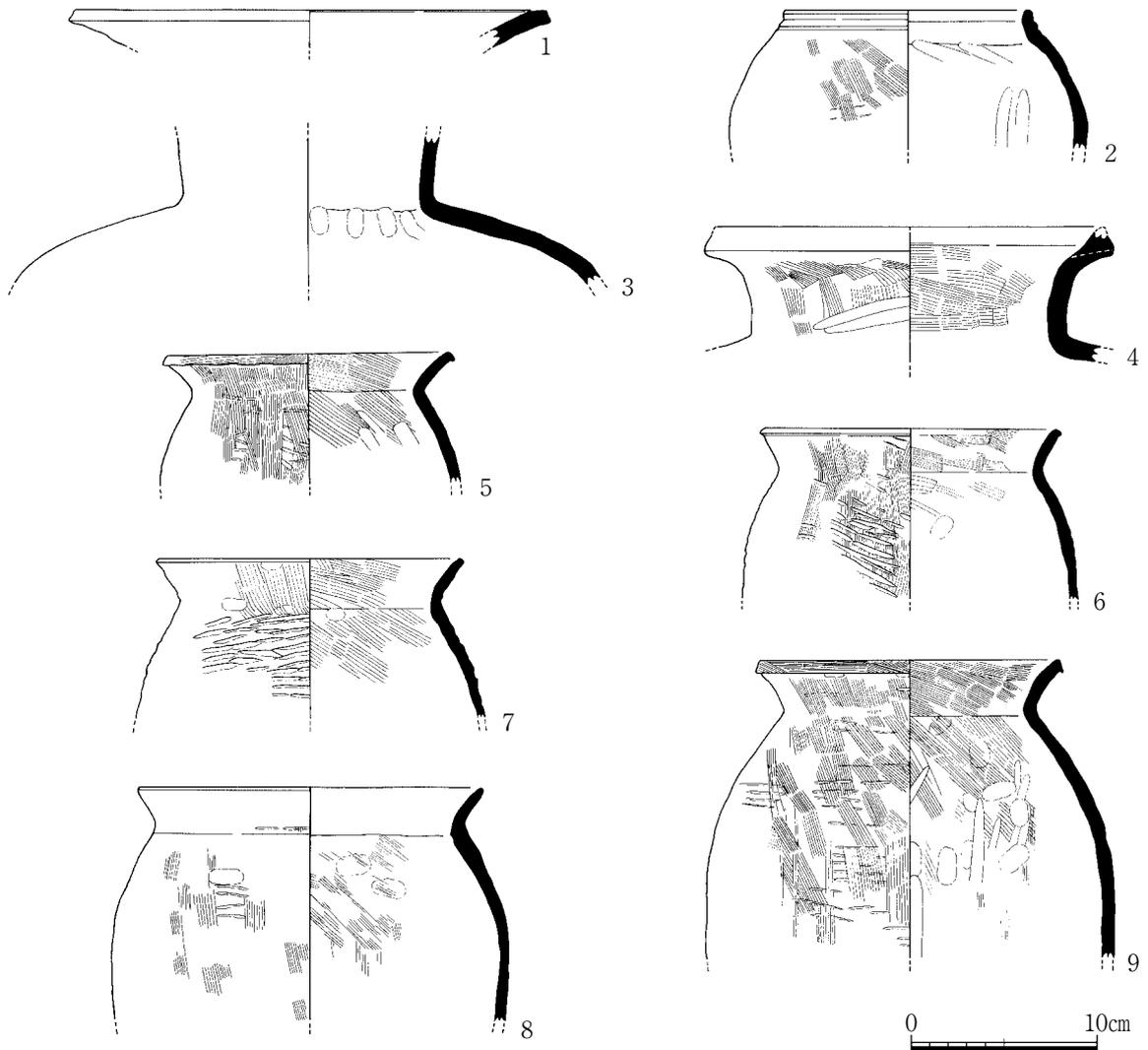


Fig.9 ST1第3群土器実測図1

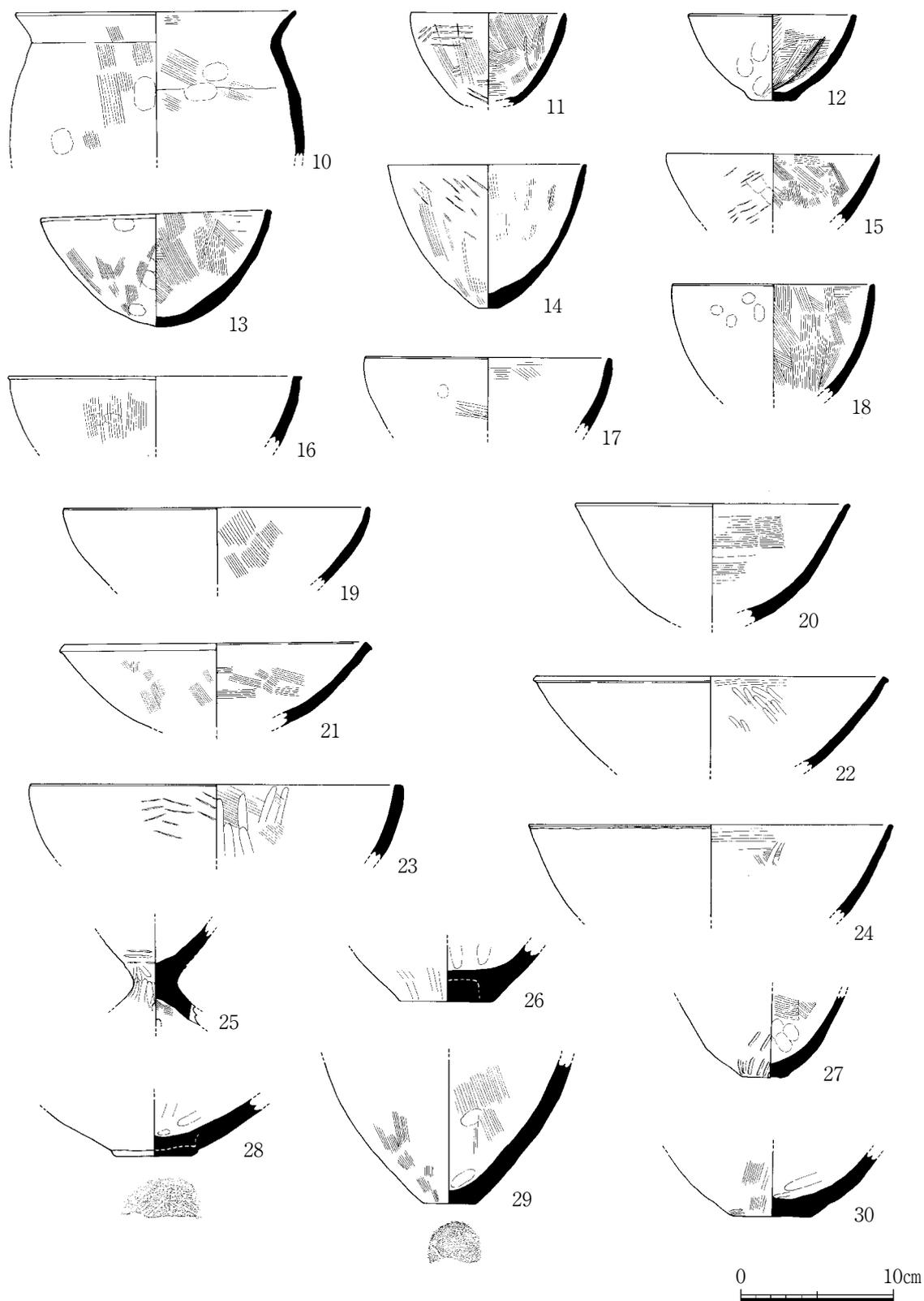


Fig.10 ST1第3群土器実測図2

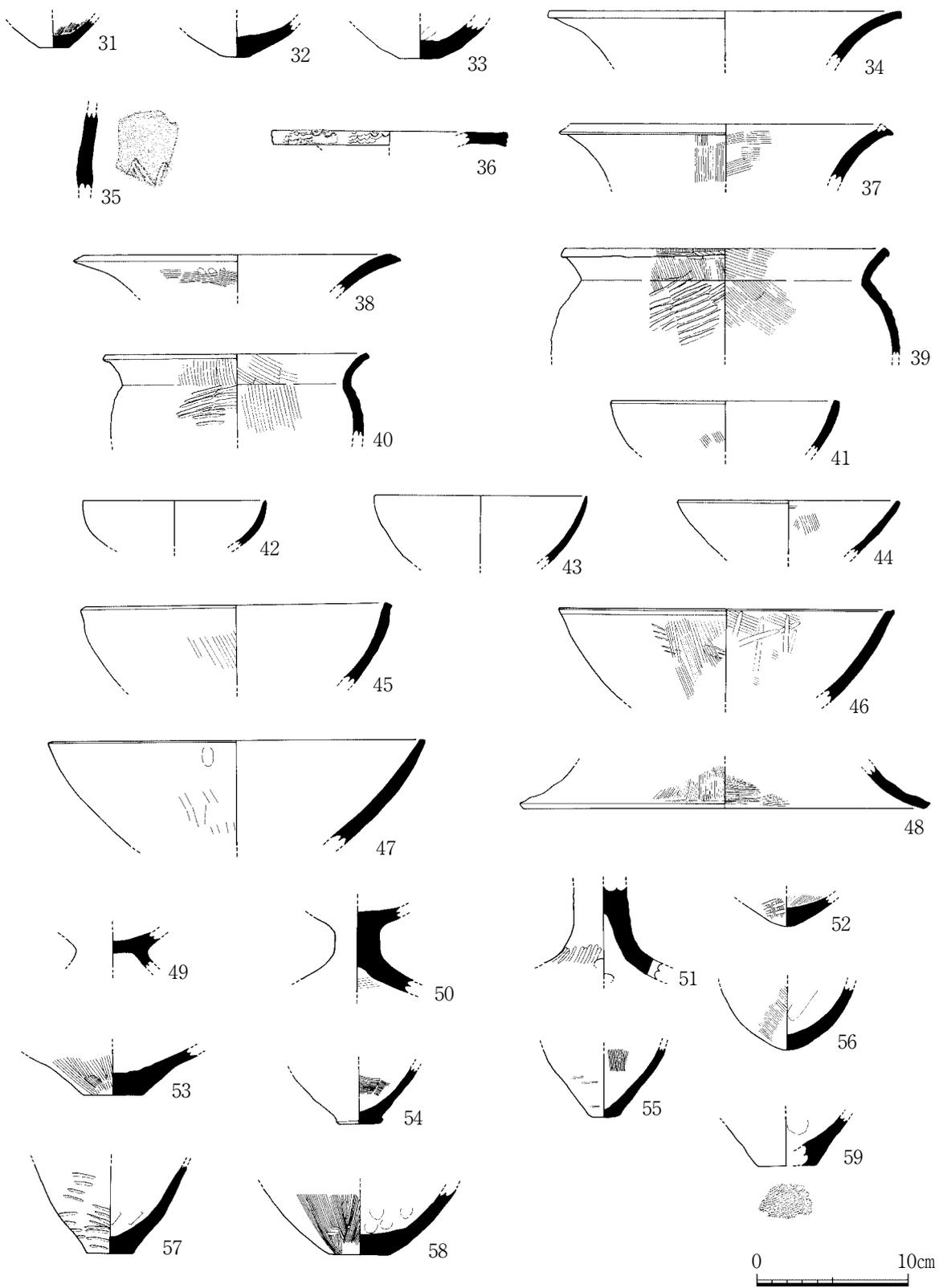


Fig.11 ST1中央ピット (31~34) ・同埋土出土土器 (35~59) 実測図

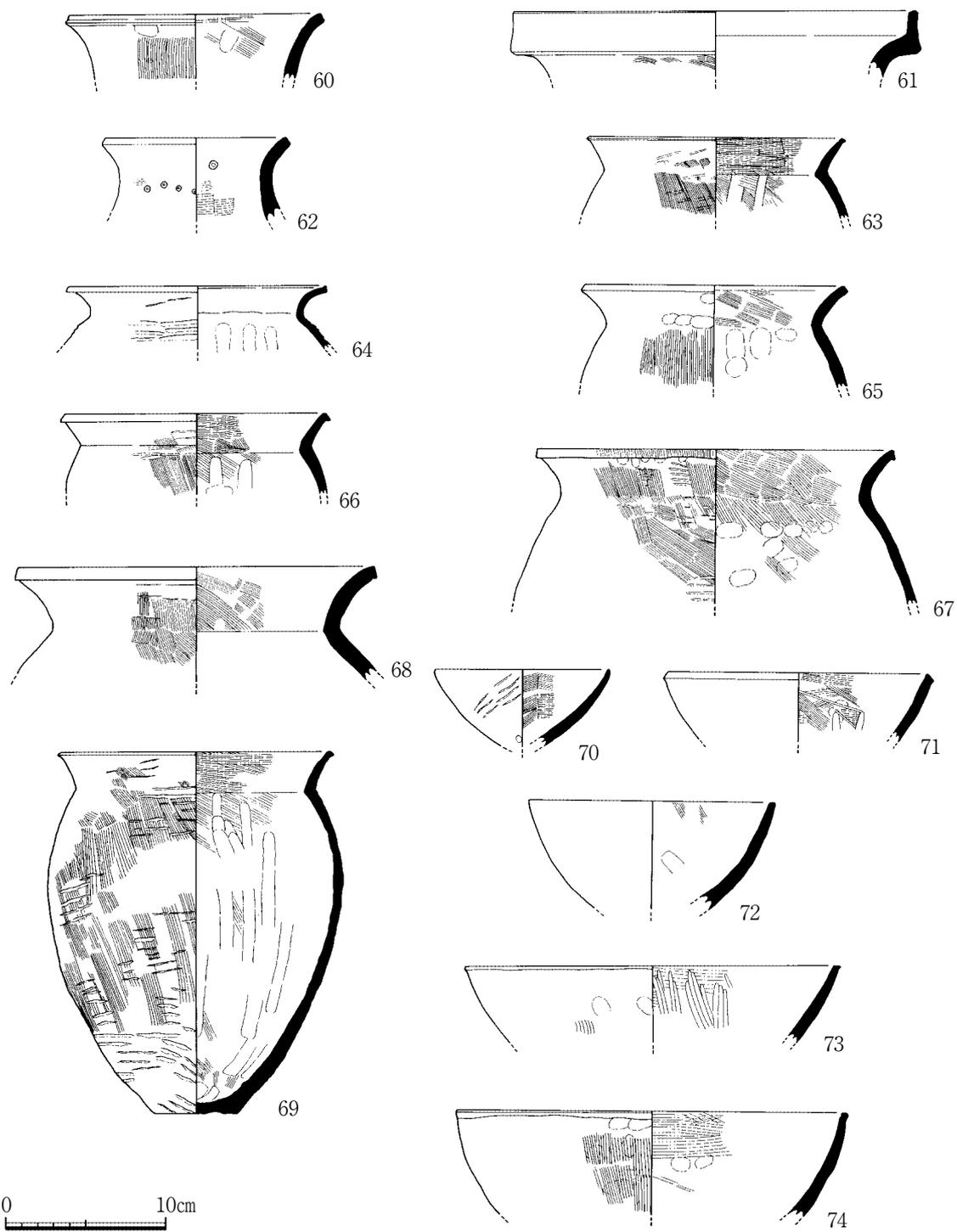


Fig.12 ST1西壁出土土器实测图

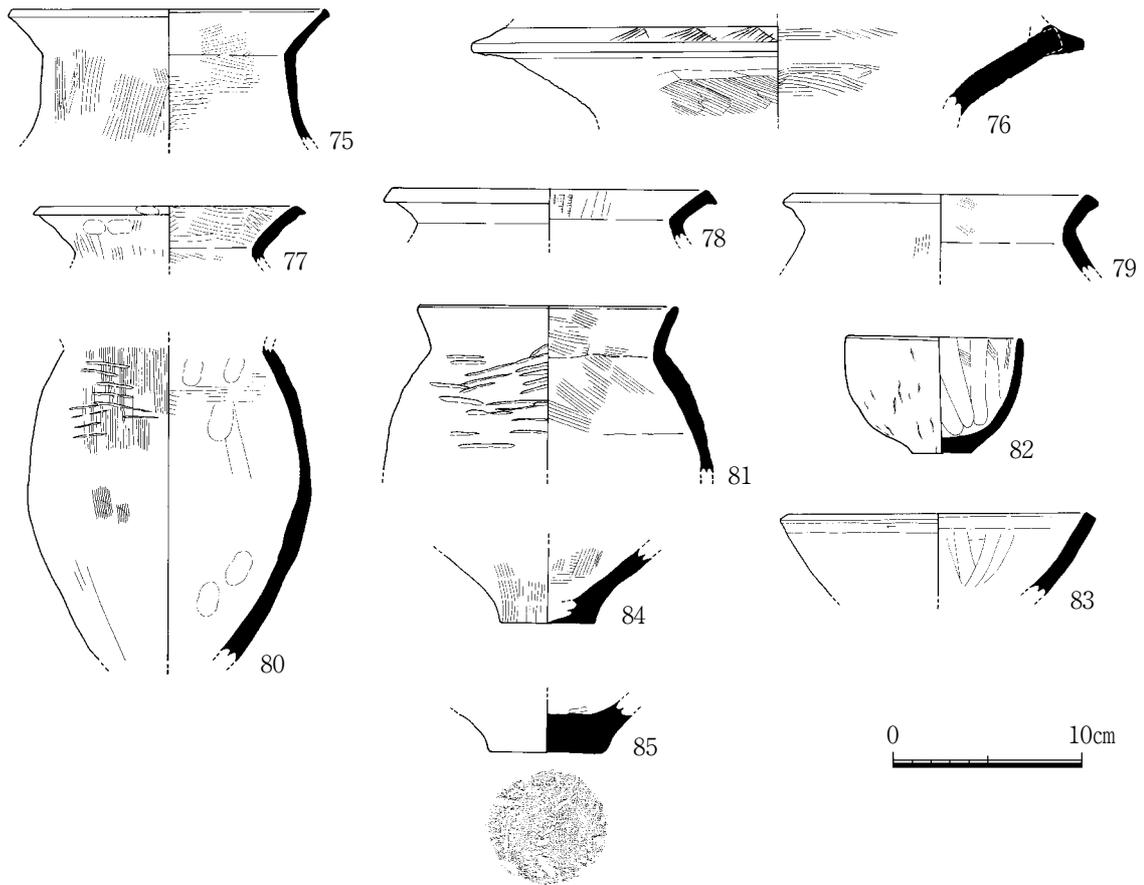


Fig.13 ST2第1群土器実測図

が、面的な広がりについては捉えることができなかった。中央ピットは1.3×1.0mの隅丸形状で、断面舟底状を呈し深さは30cmを測る。埋土は大半がⅢ層であるが下層には茶褐色粘土が堆積している。また壁には炭化物や炭化物の入った灰状の粘土が薄くへばりついている。壁面は焼けていない。中央ピットの南側には、長軸70cm、深さ4cm前後の不整楕円形状のくぼみが認められる。主柱穴はP1～6を想定することができる。径は、各々20～30cm、P5とP6は径40～50cmの掘り方がある。これら主柱穴の深さは、掘方を持たないP1～4は40～55cmと深いのに対して、掘り方を有するP5・6は15～35cmと浅い。壁溝は、東側半分近くは大きく巡っているが、西側はとぎれとぎれになっている。壁溝の幅は15cm前後、深さは5cm程である。

遺物の出土は僅少で、図示したものが全てである。広口壺(232)が床面へばり付きで、広口壺(229)、長頸壺(230)、小形の甕(235)は、床面より10cm程浮いている。他の土器は埋土Ⅲ層からの出土である。ST3からは遺物の出土は少ないが、ミニチュア土器を3点(236～238)含んでおり、甕2点(234・235)も一般的なものからすると極端に小型である。さらに把手部分と考えられる特殊な土器(233)の存在などから、祭祀的な様相が窺える。後期V-2～3期に属する住居である。

ST4 (Fig.24～28・40)

ST4は西壁の一部を攪乱により削平されているが、直径9.2mを測る不整円形の大型住居で、面

積は60m²以上を有している。南東部の壁は滑らかな湾曲線を描いているが、他の部位は多角形状のプランである。北側半分には地山削り出しによる三日月状のベッド状遺構を有し、低床部との高低差は5～15cm、高床部の最大幅は1.4mを測るが立ち上がりは凹凸が激しく整然としたラインをなさない。中央ピットは、中央よりやや南よりに設けられており、長軸180cm、短軸100cmの不整形プランを有し、深さ25cmを測る。底面の北東側に高さ10cmのテラス状の平坦面が認められる。中央ピットの南には80cm×70cmの隅丸方形状をした浅い落込みがある。床面は中央部に向かって僅かに深くなる傾向があり、北側に3箇所炭化物の広がりが見られる。床面には大小のピットが40個近くあり支柱穴やその配置を比定することができないが、ほとんどのピットから弥生後期の土器細片が出土している。

埋土の多くは黒褐色粘質土(Ⅱ層)であるが、床面近くに焼土の堆積が認められる。また中央ピット南の落込みには、黒色シルト(Ⅳ層)と暗茶灰色粘土が堆積している。

中央ピット検出面の直上には図示したような集石が見られた。拳～人頭大の円礫の集石で砂岩がほとんどであるが、チャートも3点入っている。これらの礫の多くは焼けているが、この場所で火を受けたものではない。これらの集石は、中央ピットが埋まった後に意識的に並べ置かれたものであり、やはり住居の廃絶に伴う一種の儀式的な行為の跡であると考えられる。

出土遺物は、弥生土器と鉄鏃、叩き石である。土器は、ほとんど全てが埋土出土で、壺(239～254)、甕(255～263・290～299)、鉢(264～274・285・287)、高杯(275～280)、蓋(281～284)などである。口縁部の点数から組成比を見ると壺38点(14.3%)、甕150点(55.8%)、鉢67点(24.9%)、高杯12点(4.5%)、蓋2点(0.7%)である。機種別にその内容を見ると、壺は広口壺が最も多く29点、次いで二重口縁壺が7点、直口または長頸壺が2点である。広口壺のうち、5点は口唇部に櫛描波状文(249)や列点文を有している。また総じて口唇部には強い横ナデを施し、僅かながら上方または下方に拡張されるものが多い。甕は、長胴で太筋の叩き目を残した単純なタイプで占められている。しかし叩き目は底部付近まで残るものは少なく、下半はハケやナデ調整によって仕上げるものが多い。299のように外面にヘラミガキを施す例も見られる。なお、261は古相の特徴を有するものであり、混入と思われる。鉢は単純な椀型が55点、口縁部外反が11点、片口状のものが1点である。高杯の口縁部で図示できたのは280のみである。本例も混入の可能性が強い。底部形態は、確認し得た154点のうち147点が平底、尖底が3点、丸底が4点である。293は焼成後穿孔が見られる。この他土器転用の土製円盤(300)、中世遺物の混入品が出土している。鉄器は、鉄鏃(379)がベッド状遺構に立ち上がり壁にへばりついた状態で出土し、袋状鉄斧(380)と摘鎌(381)は埋土中より出土している。ST4は弥生後期末のⅥ-2期に属する。

ST5 (Fig.29)

ST3と近接しており、東側の半分以上が調査区外に出ているが、直径5.6mの円形の竪穴住居である。埋土はⅠ層：黒褐色の黒ボク土層、Ⅱ層：灰茶色粘土層である。床面は平坦で、壁の立ち上がりは残りの良いところで20cmを測る。床面には、8個の小ピットが掘られており、P1～7から弥生土器の細片が出土しているが、支柱穴を求めることは難しい。

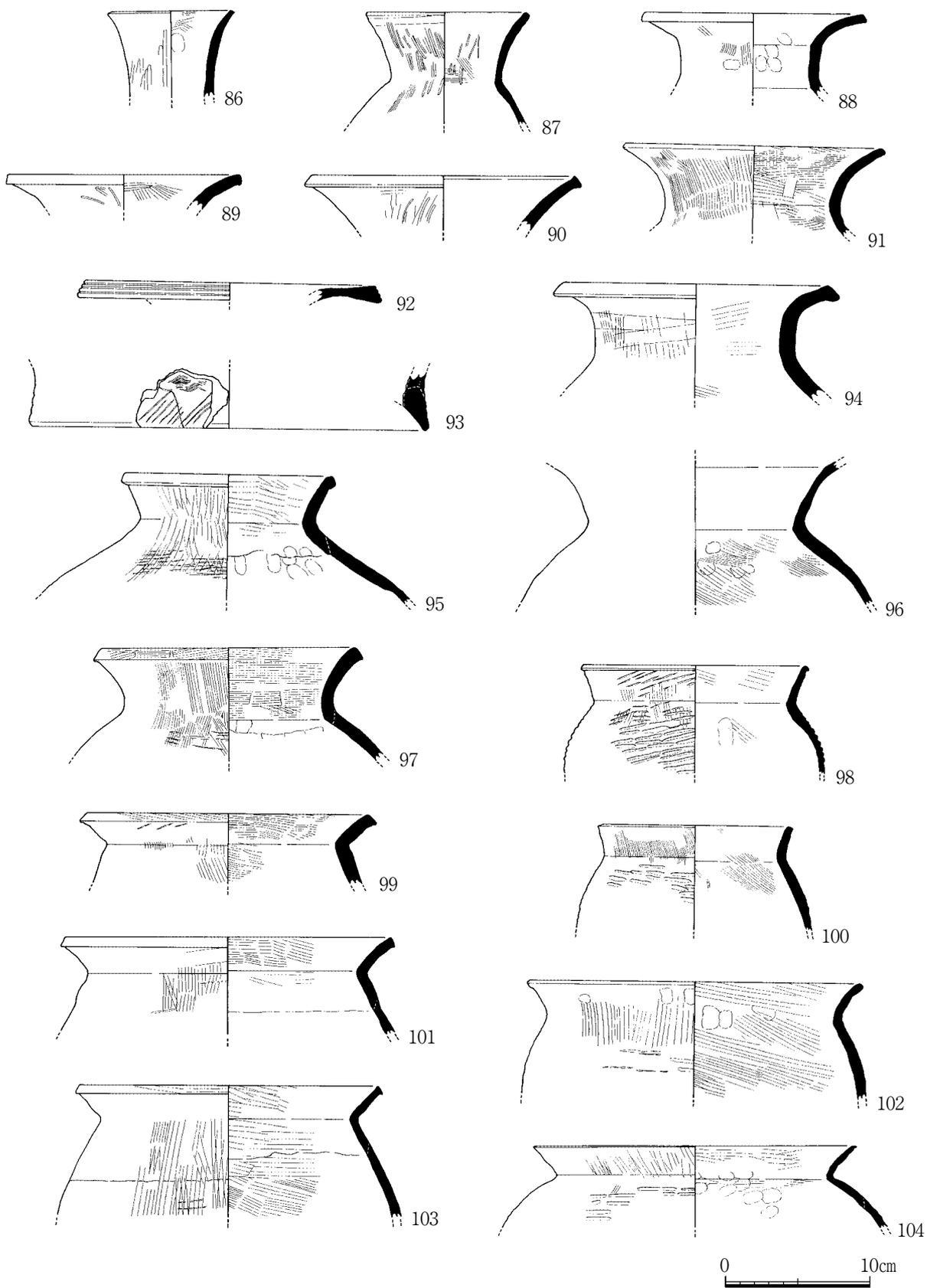


Fig.14 ST2第2群出土土器実測図1

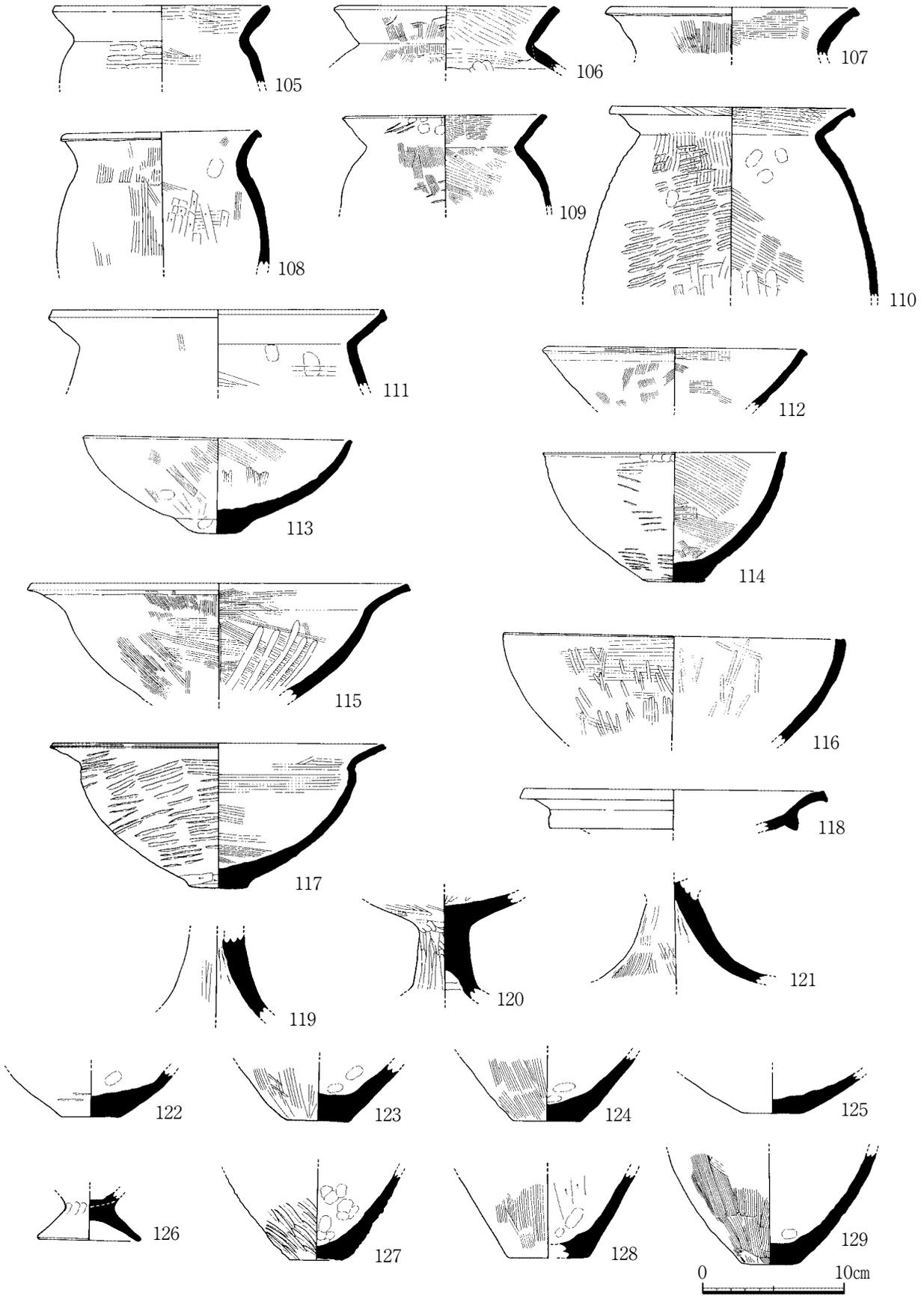


Fig.15 ST2第2群出土土器实测图2

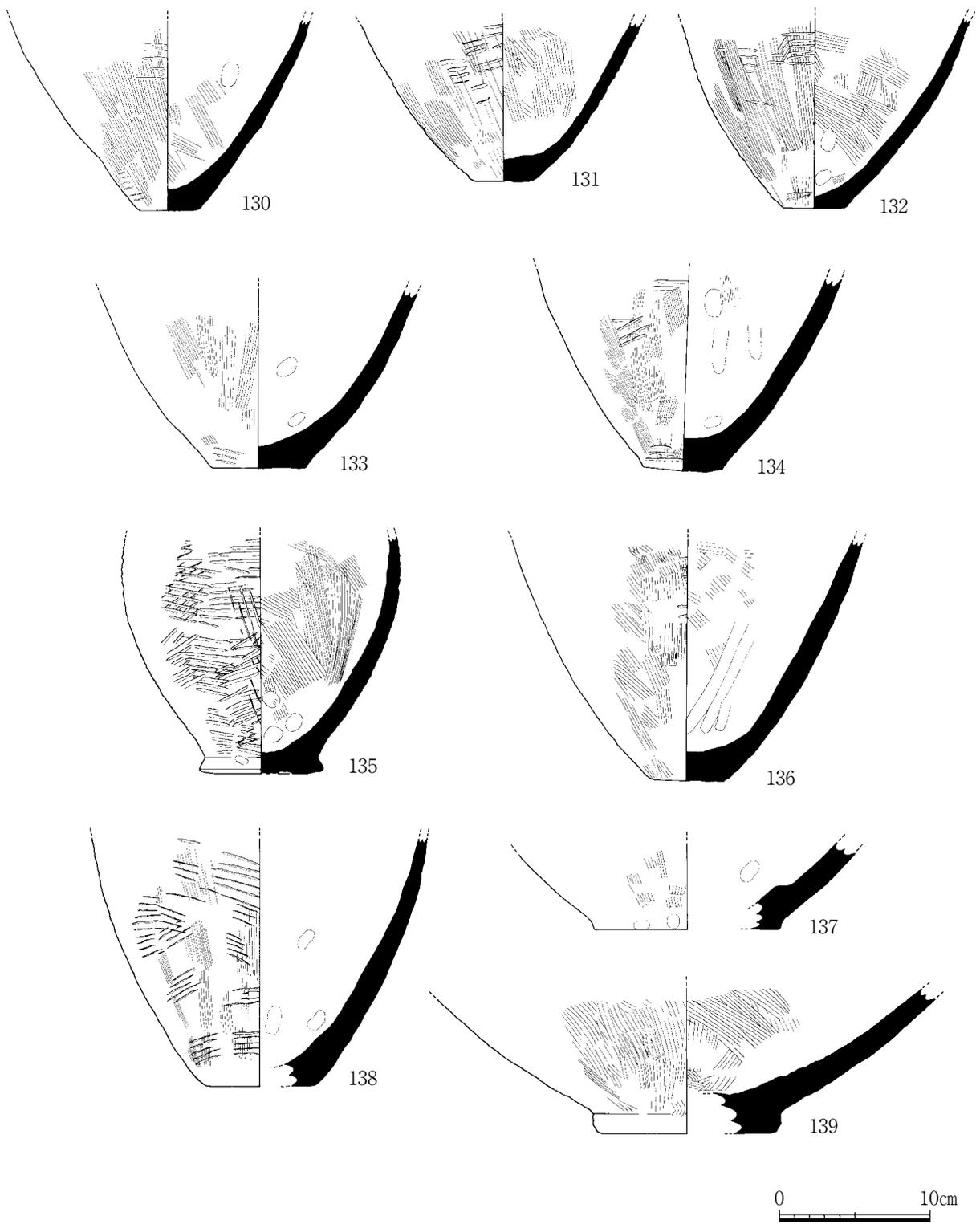
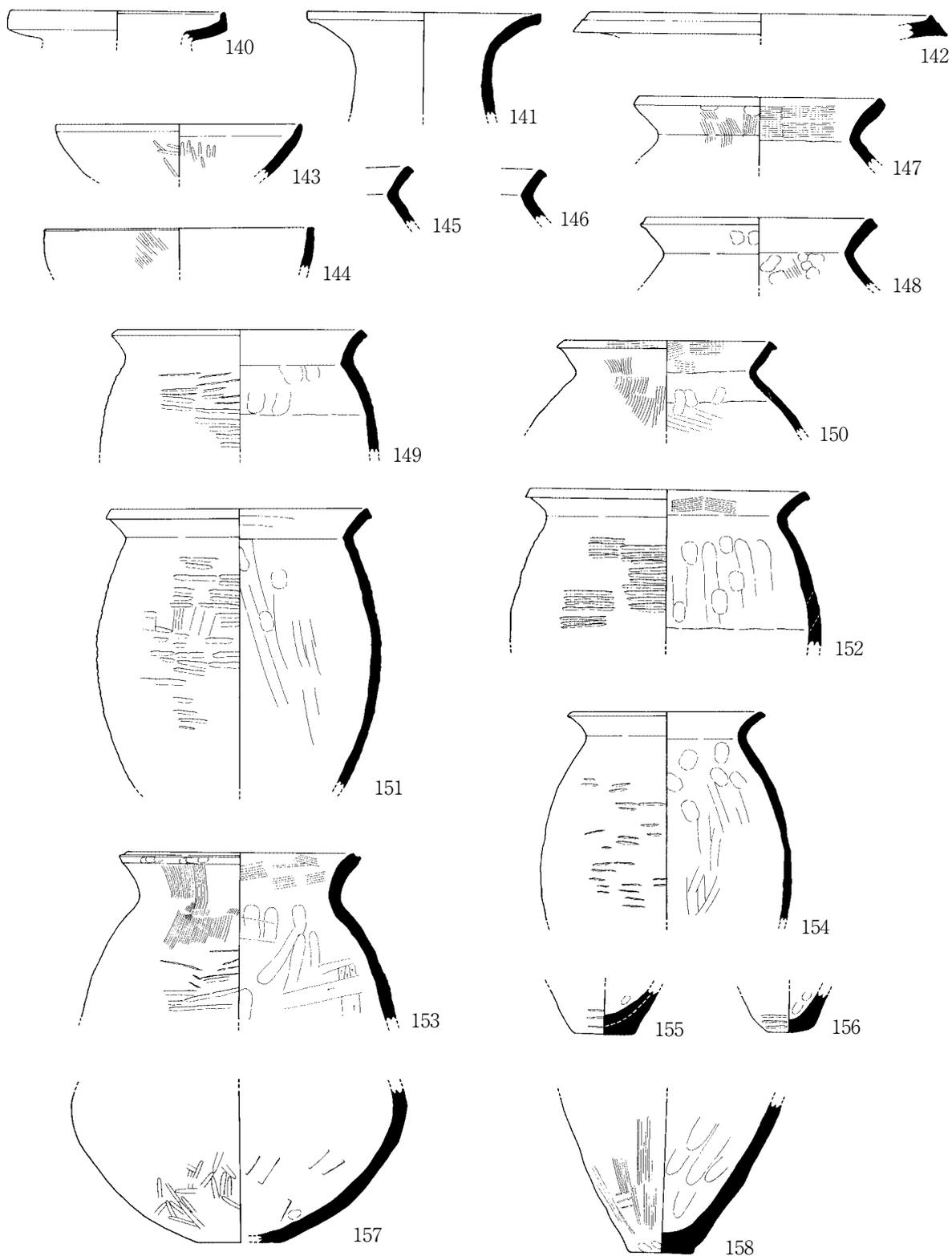


Fig.16 ST2第2群出土土器実測図3



0 10cm

Fig.17 ST2中央ピット (140・143・149・153・154) ・P1 (148) ・
床面 (141・142・144～146・150・152・155～158) 出土土器実測図

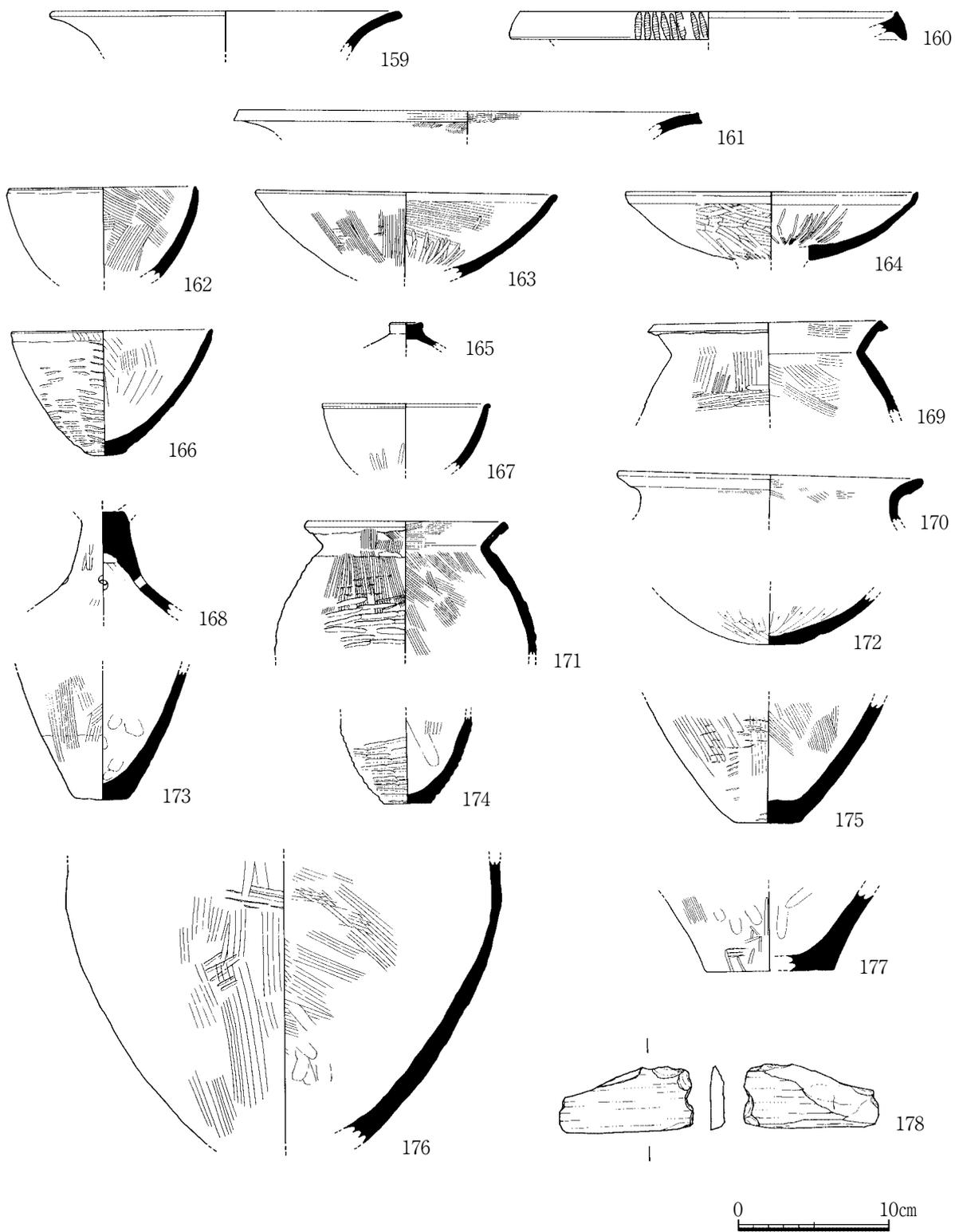


Fig.18 ST2西壁出土土器・石器実測図

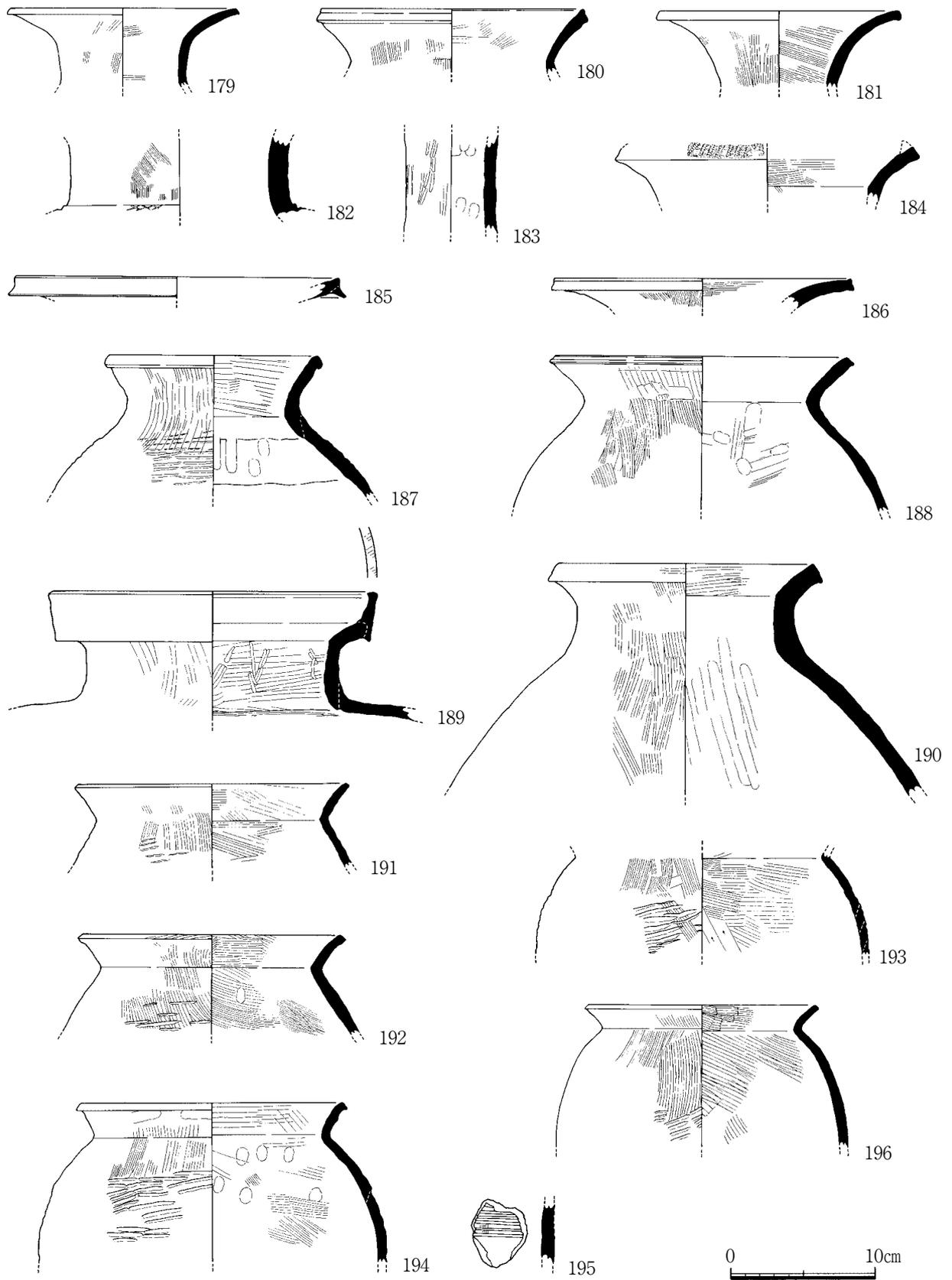


Fig.19 ST2埋土出土土器実測図1

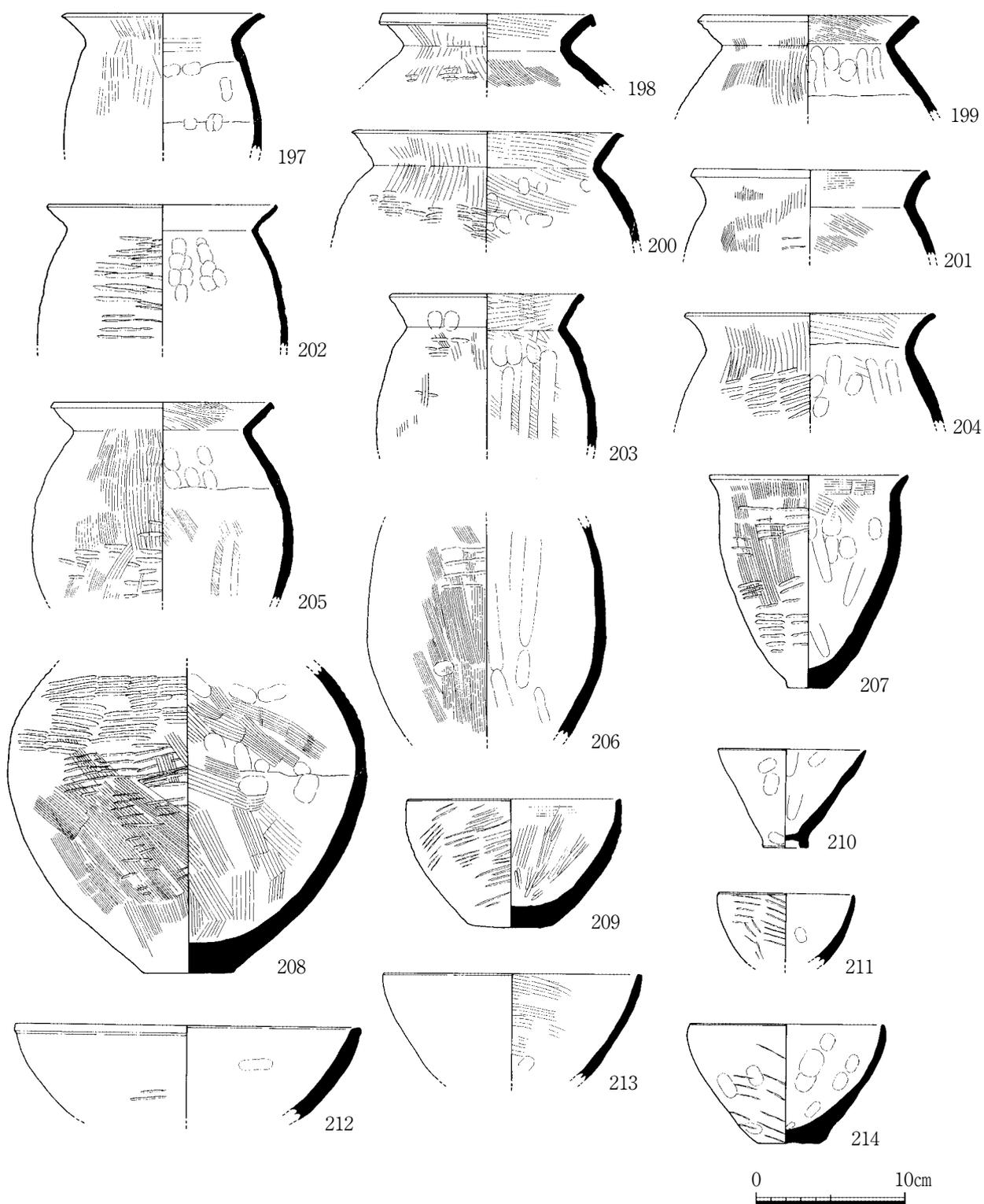


Fig.20 ST2埋土出土土器実測図2

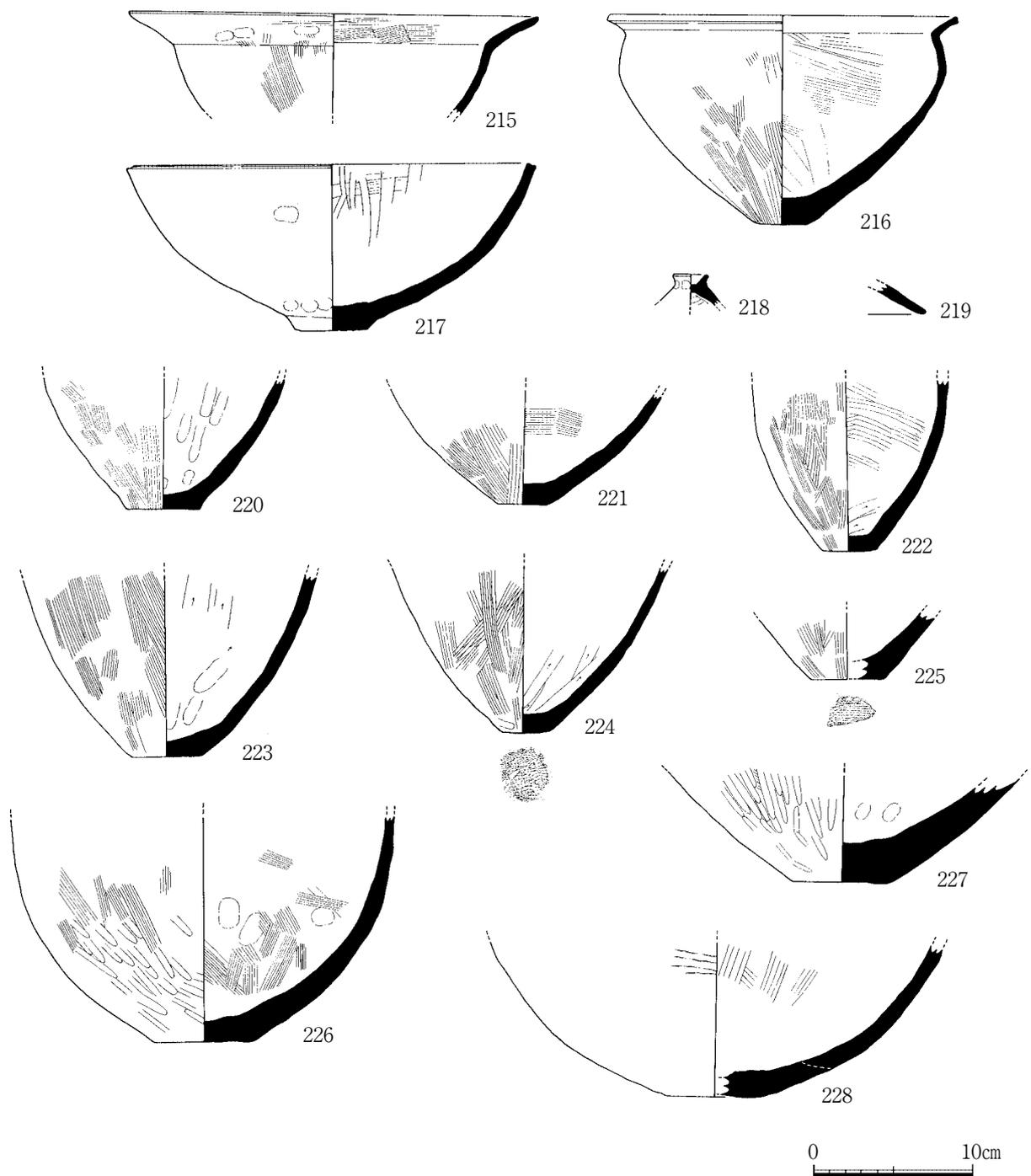
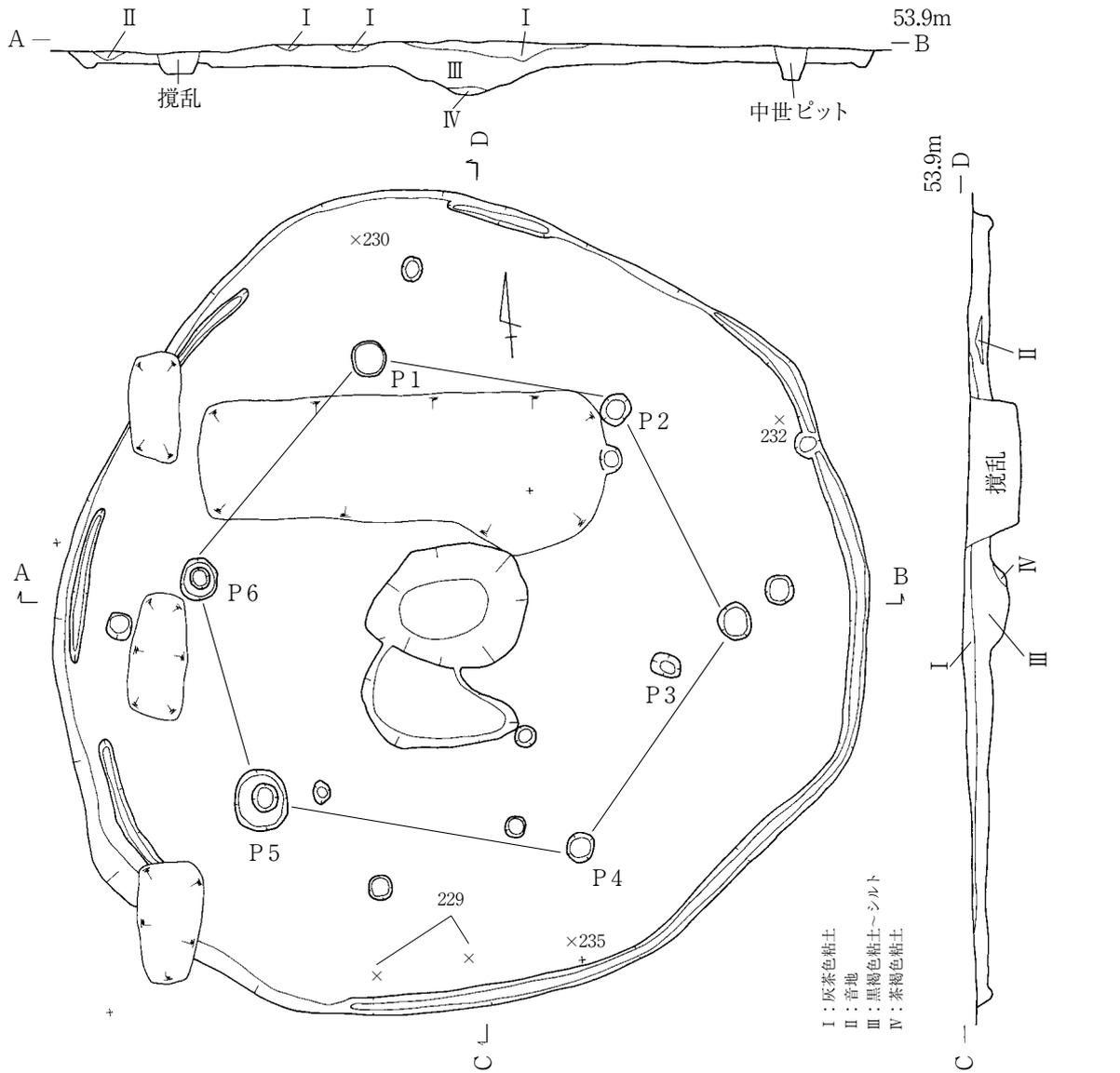
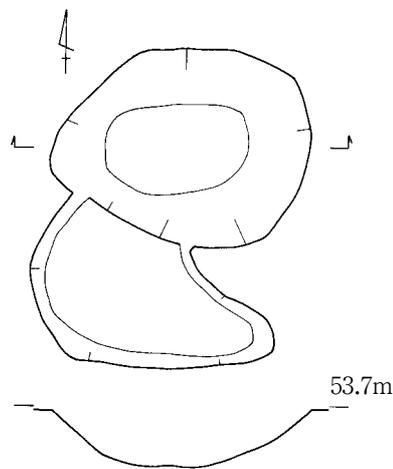


Fig.21 ST2埋土出土土器実測図3

遺物は少量で埋土からの出土である。鉢(306)と甕底部(307)を図示したが、この他に鉢口縁部とミニチュア土器の細片が出土している。305は中世の小皿で混入品である。この他に床面から10cmほど浮いて30cm×50cm、厚さ10cm余りの大きな河原石(砂岩)が出土している。片側の主面中央部に窪みがあり、窪みの中及び周辺に赤色顔料の付着が認められた。蛍光X線分析によりベンガラである可能性が最も高いとの結果を得た。ST5は後期末のVI-1期に属する。



ST3平面・セクション図



ST3中央ピット平面・エレベーション図

Fig.22 ST3平面・セクション及び中央ピット平面・エレベーション図

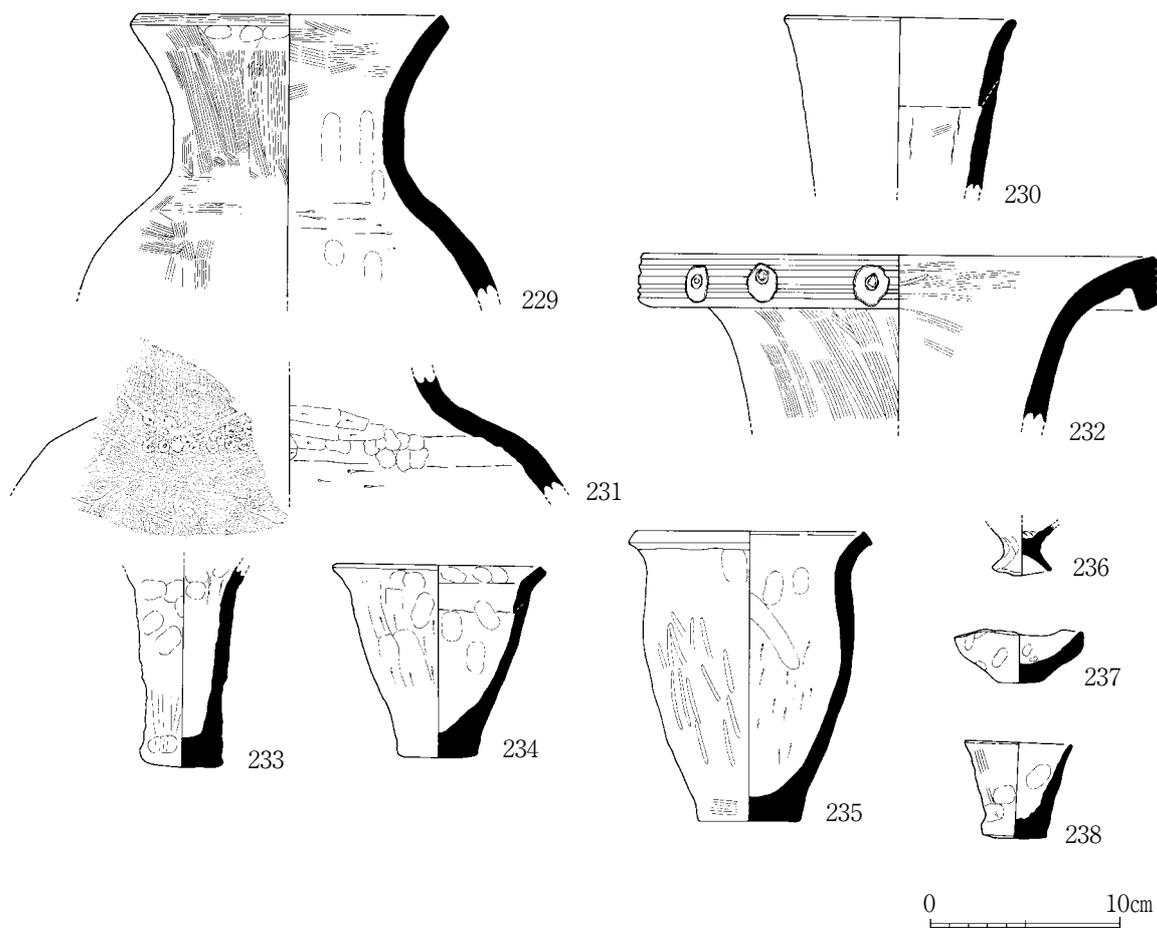


Fig.23 ST3出土土器実測図

ST 6 (Fig.30~34)

調査区の北東隅で検出した。半分近くが調査区外に出ているが、一辺4.4m、径7.4m前後を測る五角形ないし六角形の平面プランを有する竪穴住居である。客土下の旧耕作土直下で検出した。埋土は黒褐色の黒ボク土層である。検出面或いはその直下で図示したような河原石の集石が見られた。人頭大から拳大の大きさですべて床面から10cm以上浮いていることから住居の廃棄の過程で置かれたか、投げ込まれたものと考えられる。床面の南側半分で地山削り出しによるベッド状遺構が設けられている。低床部との比高さは最も残りの良い南側で10cmを測り、幅は1m前後で壁面にほぼ平行している。中央ピットは、かなり南寄りに掘られており90cm×60cmの楕円形プランを呈し、深さは10cmで断面は舟底状である。中央ピットの北側50cmの地点には径20cmの焼土の広がりが見られる。中央ピット以外に大小6個のピットを検出した。何れのピットからも土器細片が出土している。

遺物は埋土中より土器が多量に出土している。壺(309)、甕(310~336)、鉢(337~350)、高杯脚部(351・352)が見られ、口縁部の破片から器種組成比を求めると、壺3点(3.2%)、甕52点(54.7%)、鉢40点(42.1%)である。甕は粗い叩き目を残した長胴のタイプがほとんどであるが、外面にハケ調整

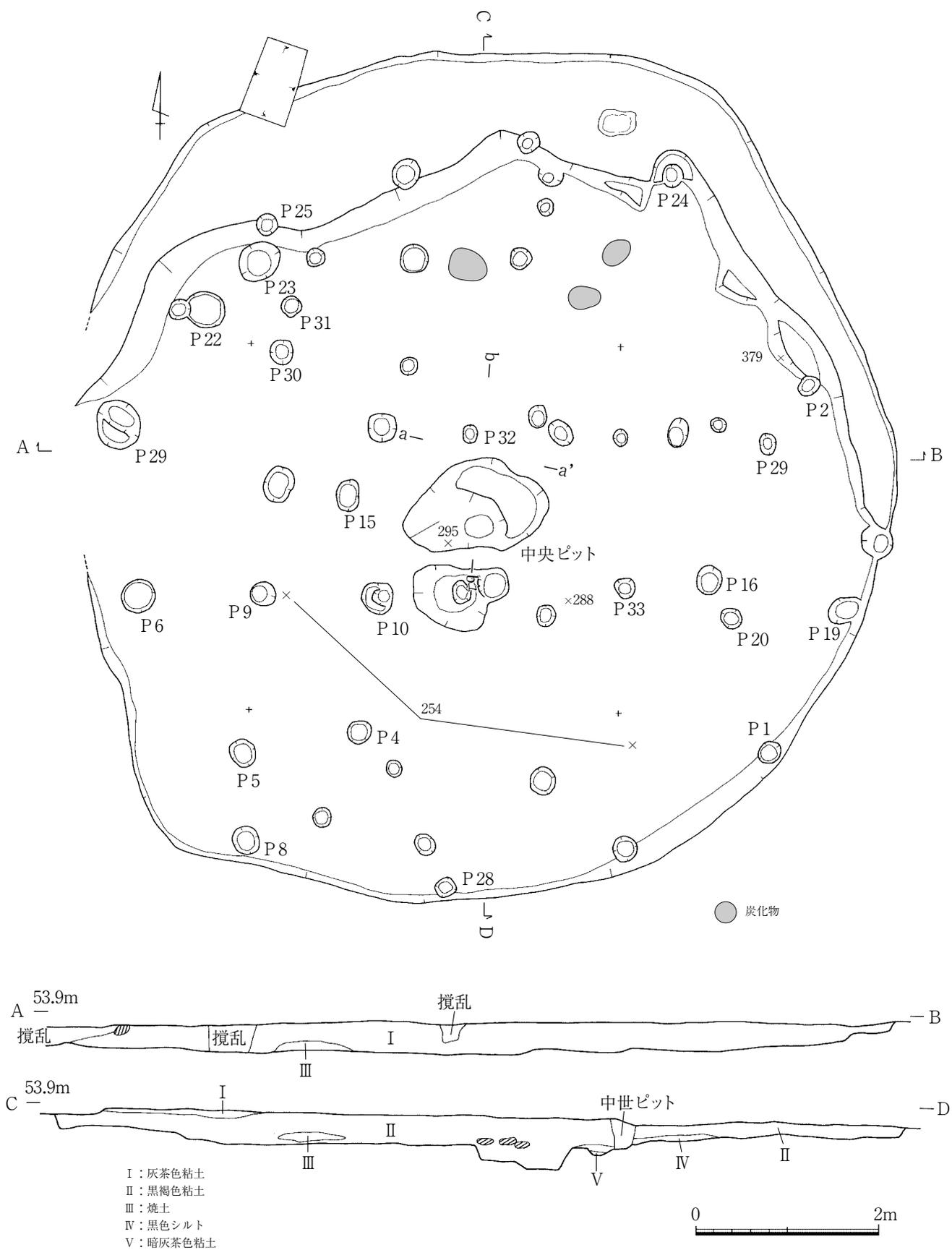


Fig.24 ST4平面・セクション図

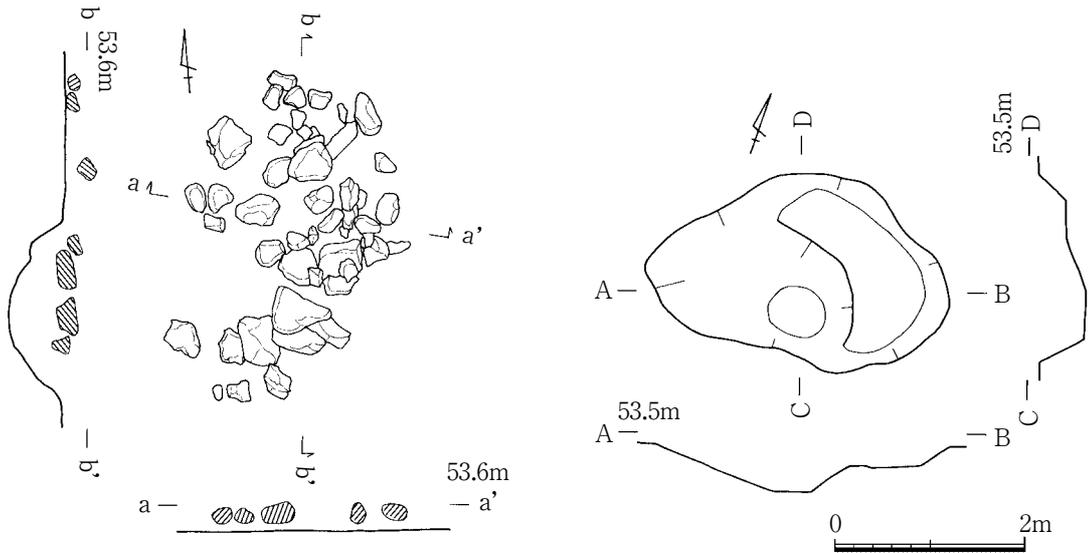


Fig.25 ST4床面中央の集石及び中央ピット平面・エレベーション図

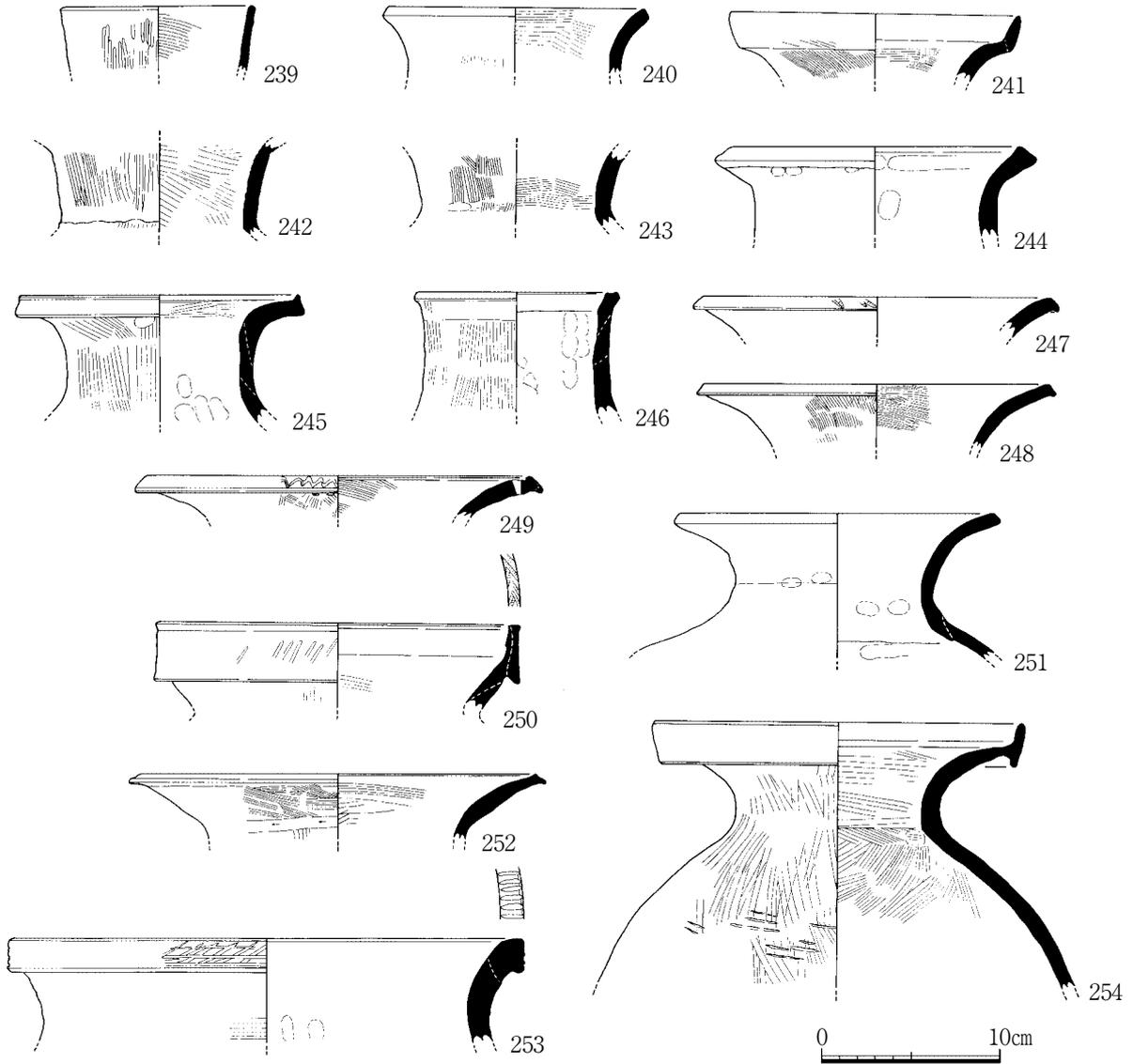


Fig.26 ST4出土土器実測図1

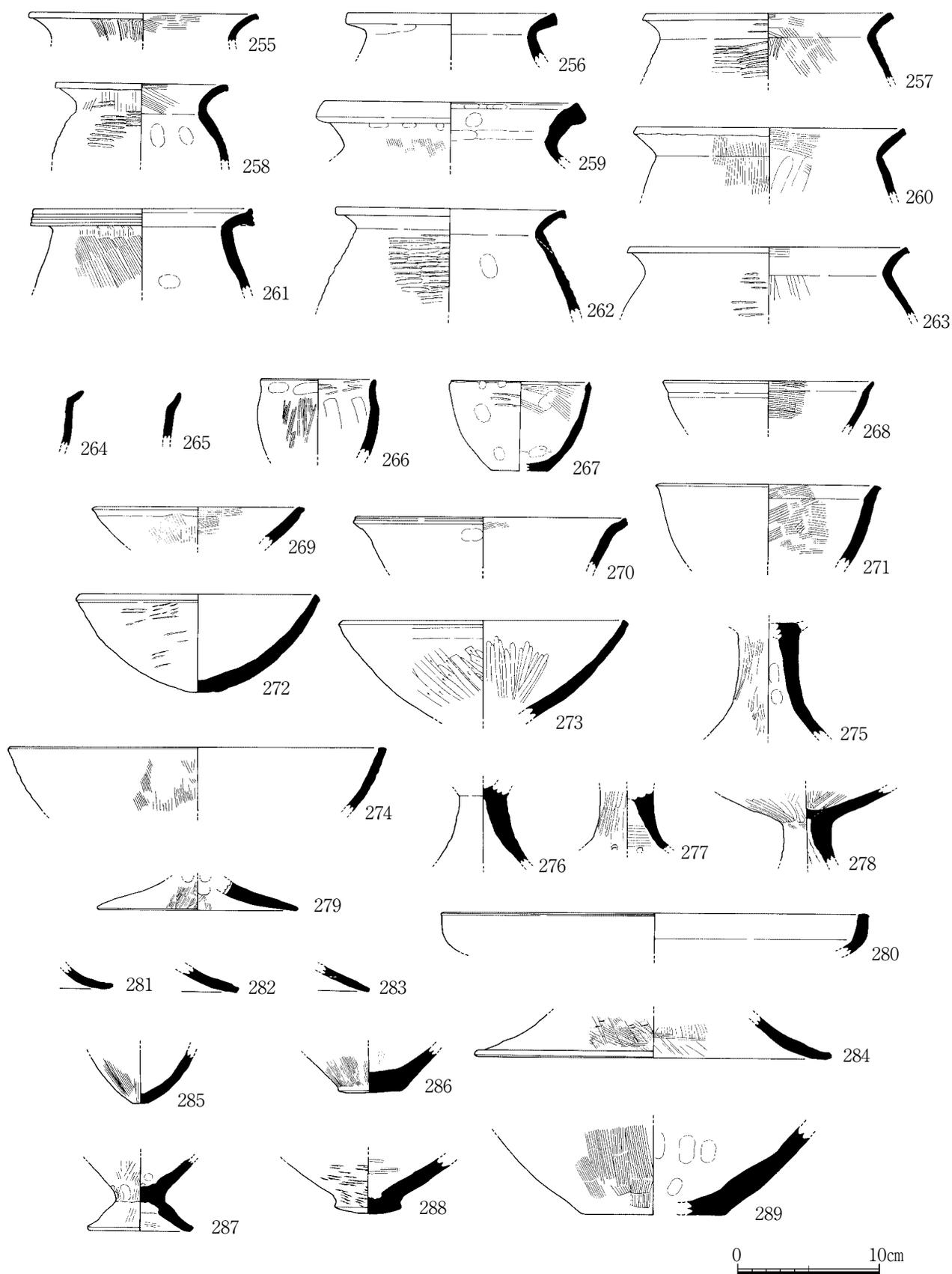


Fig.27 ST4出土土器実測図2

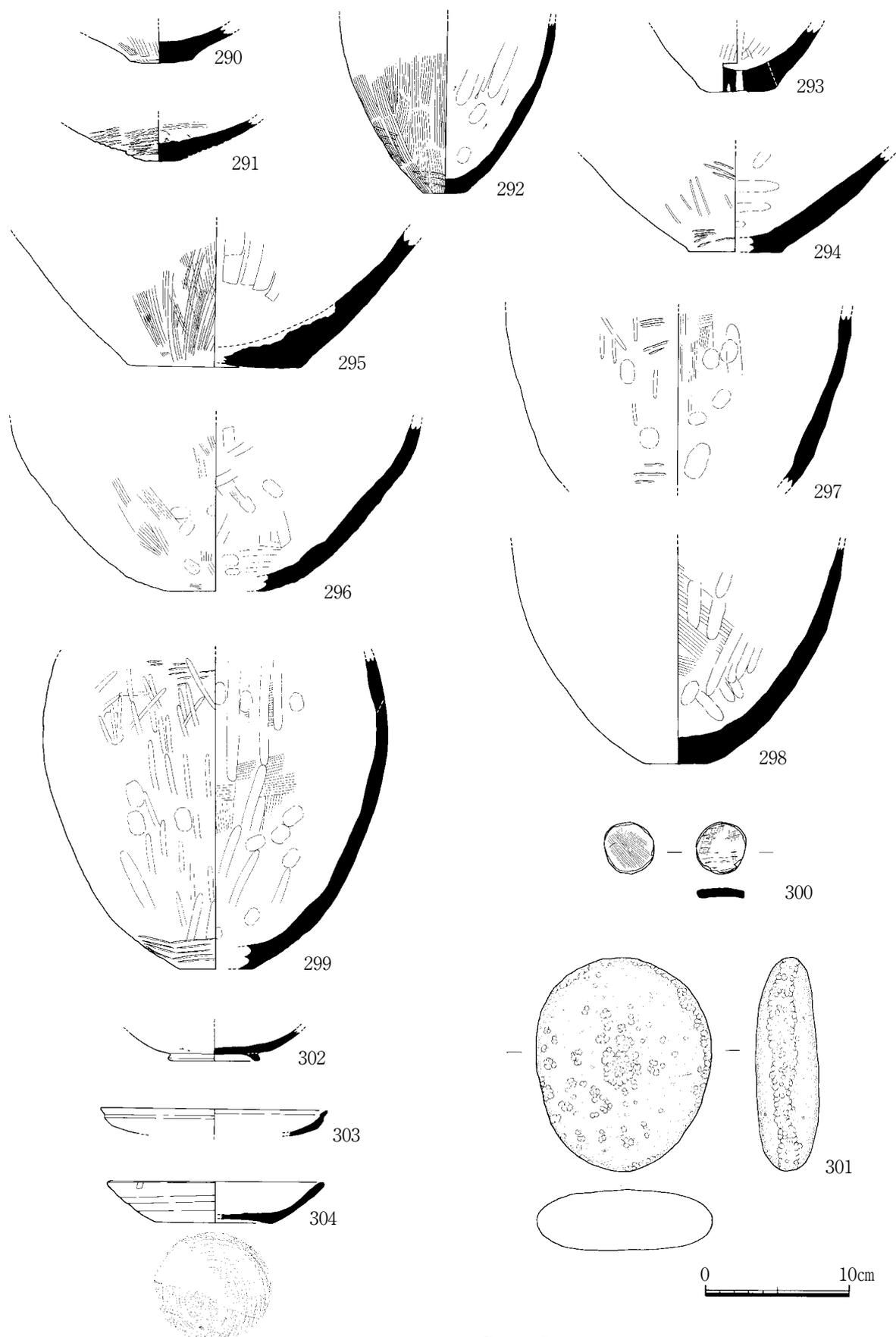


Fig.28 ST4出土遺物実測図3

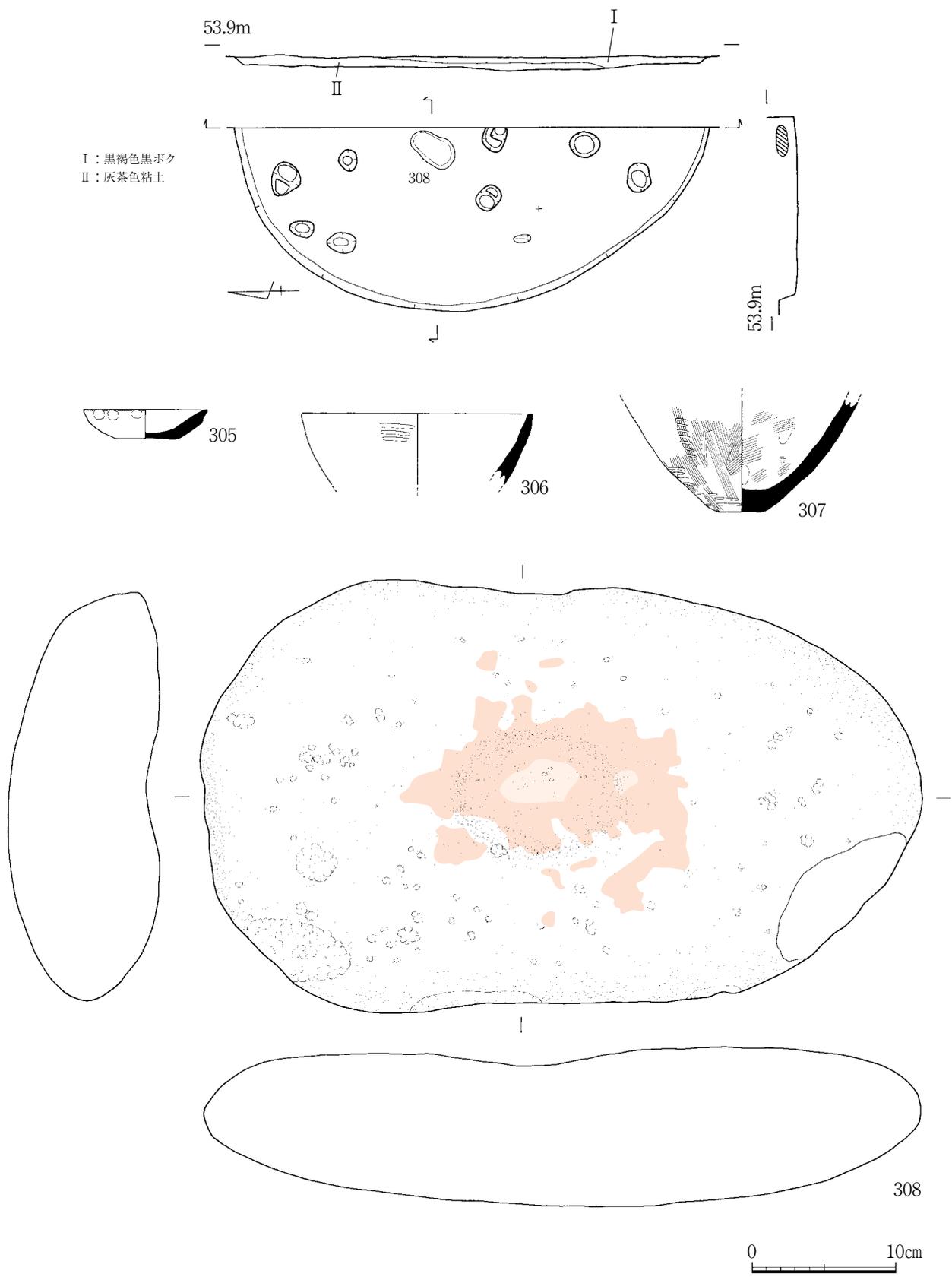


Fig.29 ST5平面・セクション・エレベーション及び出土遺物実測図

を施す頻度が、ST 1・2・4の甕に較べると少ない傾向を指摘できる。321は焼成前の底部穿孔土器である。また310は庄内式土器の範疇で捉えられるもので搬入品である。鉢は単純な椀形のものが多いが、浅い皿状のタイプ(347)や深くて口縁部の外反するもの(345)見られる。底部形態では、確認し得た42点中、37点(88.1%)が平底、5点が丸底(11.9%)である。以上の土器は床面から全て浮いており、先述した集石と同様に住居の廃棄の過程で埋没したものと考えられる。353と354は中世の土師器坏で混入によるものである。ST 6は古墳時代初頭の古式土師器 I 期に属する。

ST 7 (Fig.35・36)

調査区南部に位置する。大半が調査区外に出ており、かつ攪乱を受けているが直径 8 m 以上を

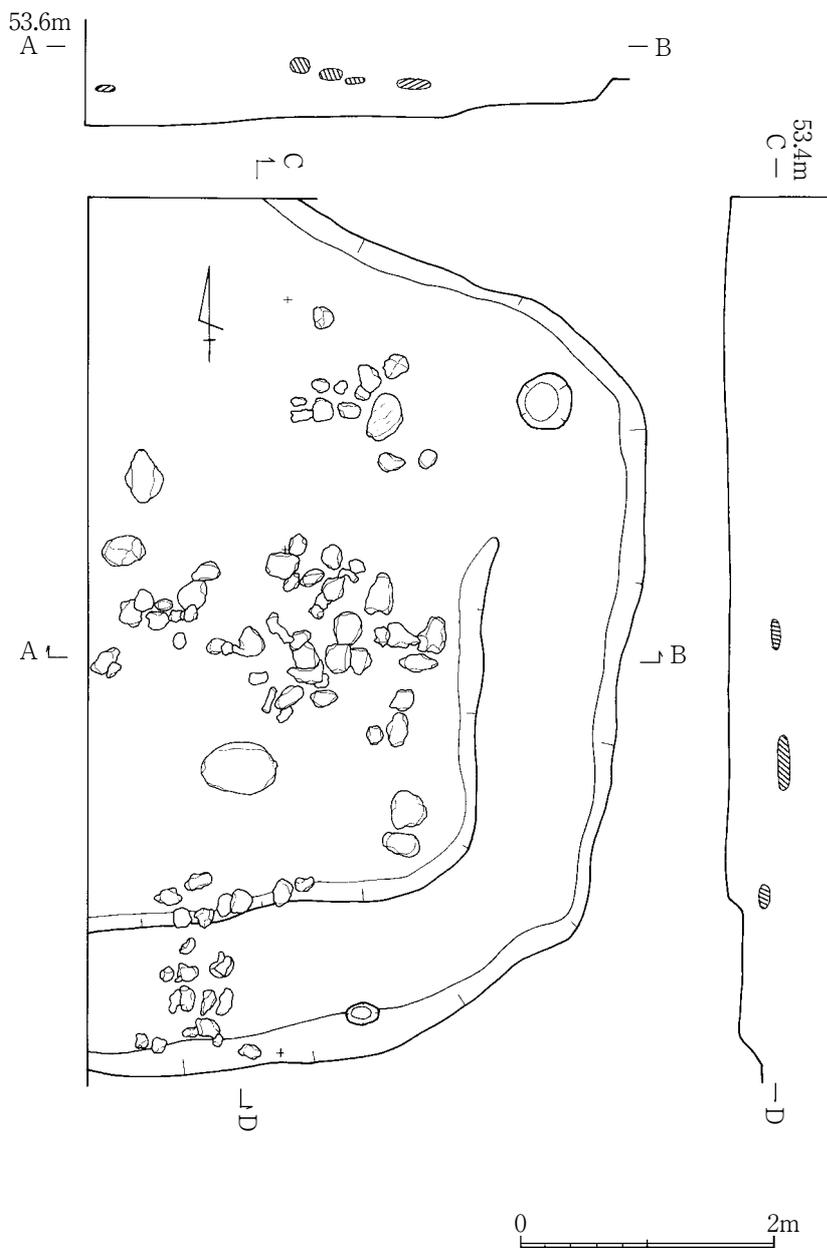


Fig.30 ST6集石平面・エレベーション図

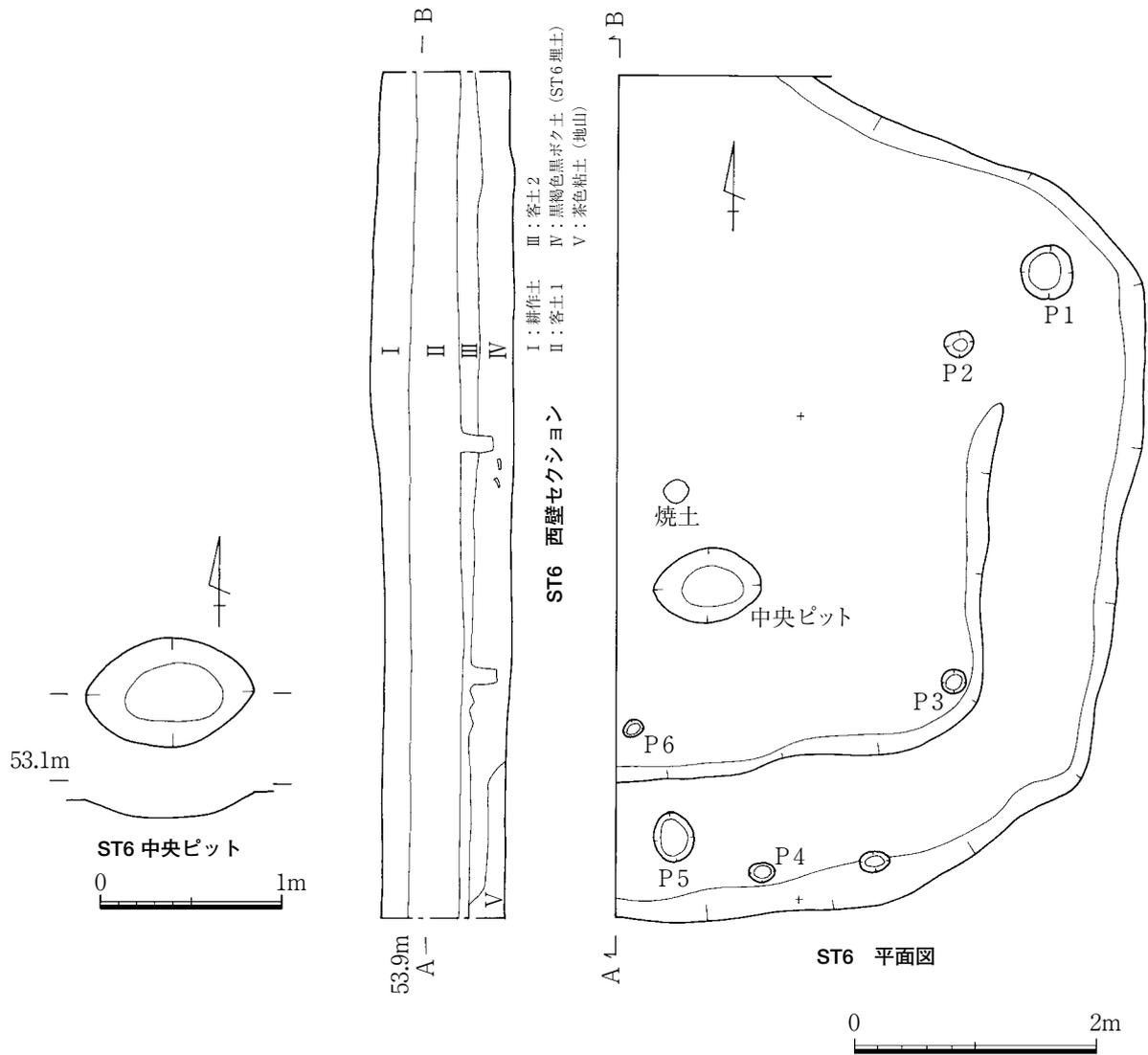


Fig.31 ST6平面・セクション・中央ピット平面・同エレベーション図

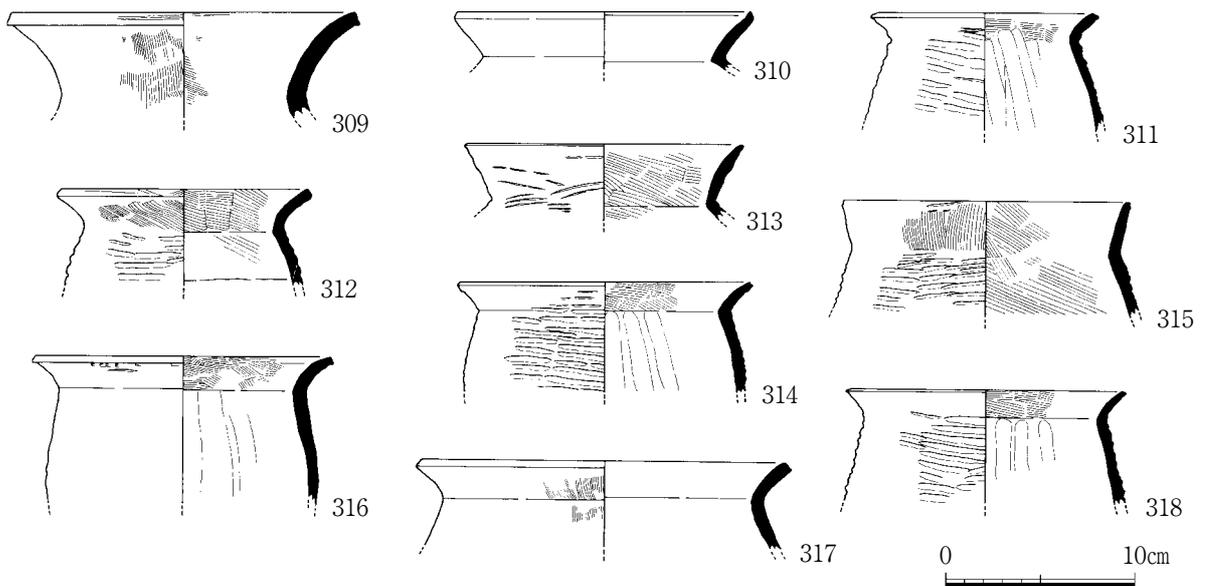


Fig.32 ST6出土土器実測図1

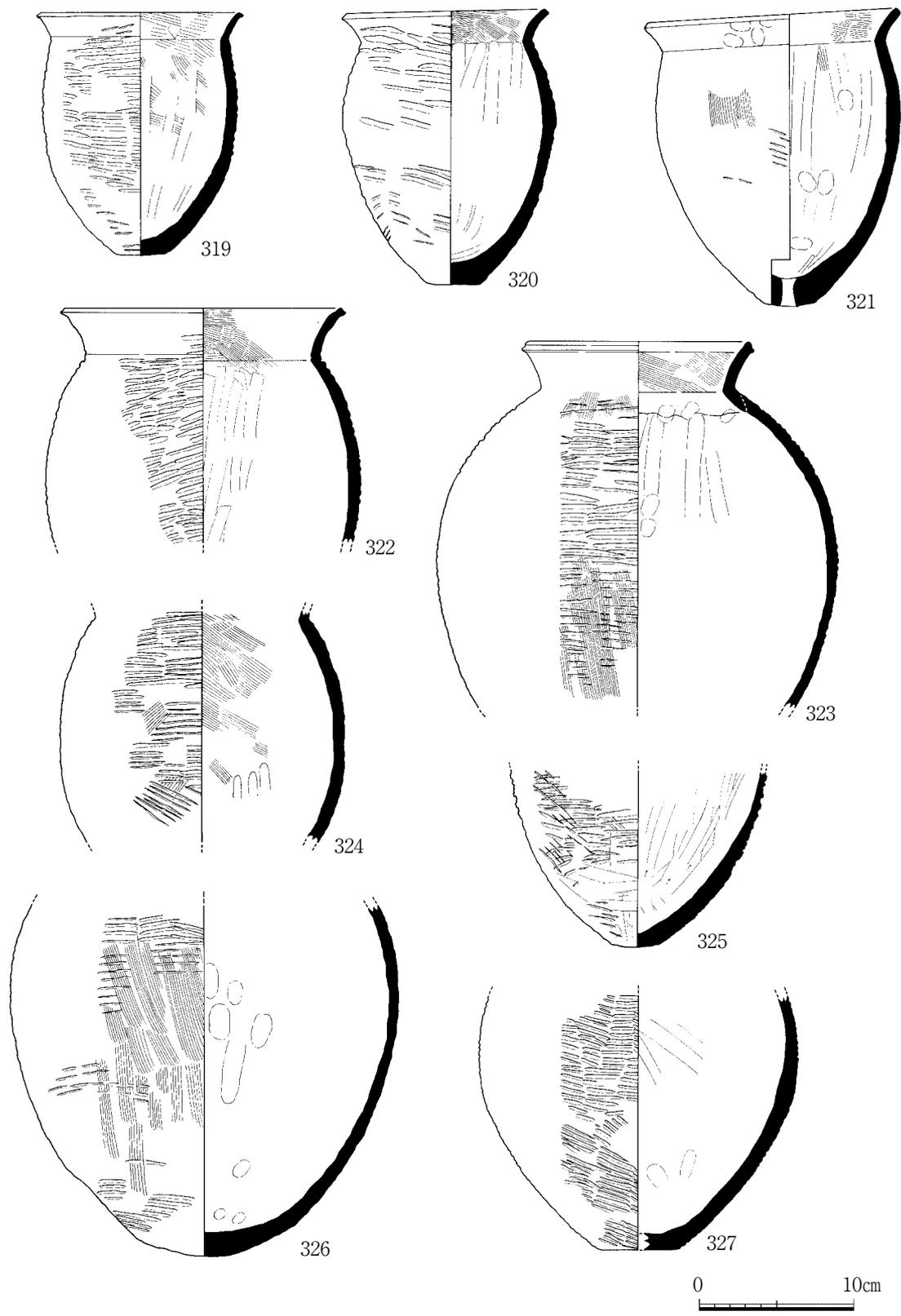


Fig.33 ST6出土土器実測図2

測る円形の大型竪穴住居を想定することができる。埋土は黒褐色の黒ボク土層である。北側半分で地山削り出しによるベッド状遺構と考えられる高床部が認められ、しかも二段の高床部が形成されている。内側の高床部と外側の高床部との比高差は5cm、高床部全体の幅は0.9~1.3mである。低床部のプランは方形または多角形をなす可能性がある。13個のピットを検出し、何れのピットからも弥生土器の細片が出土しているが、支柱穴などを求めることは難しい。遺物は埋土中より

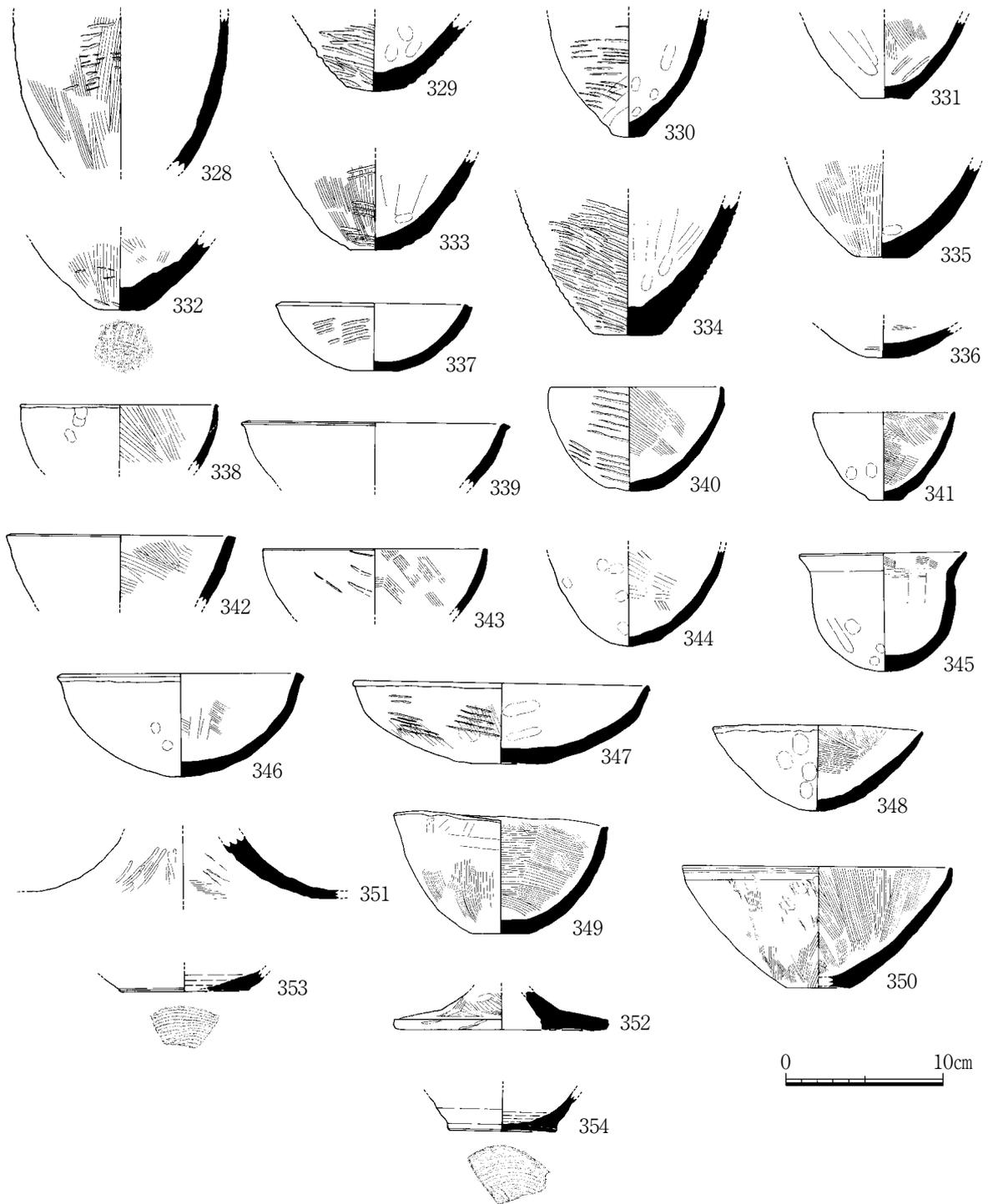


Fig.34 ST6出土土器実測図3

壺(355～360)、甕(361・362・366・367)、鉢(363・365)、高杯脚(364)が出土している。これらのうち361はP12、362はP3から出土したものである。362の内面にはヘラ削りが見られる。図示し得なかったものも含めて、口縁部片から器種組成を見ると甕5点(29.4%)、壺7点(41.2%)、鉢5点(29.4%)である。底部は全て平底である。ST7は後期中葉のV-4期に属する。

(2) その他の遺構

SK1 (Fig.39)

調査区の北寄りに位置する。0.9m×0.6mの不整楕円形プランを有し、深さは20cmを測る。東南壁にテラス状の平坦面が造られている。埋土は黒褐色の黒ボク土で、遺物は認められない。

SK2 (Fig.39)

調査区の北寄りに位置する。0.9m×0.7mの楕円形プランを有し、深さは46cmを測る。埋土は黒褐色の黒ボク土で、遺物は認められない。

SK3 (Fig.39)

調査区北東隅に位置する。1.9m×0.8mの不整形プランを有し、深さは38cmを測り、断面舟底状を呈す。埋土はI層：黒色粘土、II層：黒褐色粘土である。遺物は認められない。

SK4 (Fig.39)

調査区の北寄りに位置する。1.3m×0.6mの長楕円形プランを有し、深さは30cmを測る。南西壁側にテラス状の平坦面が造られている。埋土はSK3と同である。遺物は認められない。

SX1 (Fig.38)

調査区の北端で検出した。長軸が5m前後を測ると考えられる不整形の遺構である。五角形プランの竪穴住居となる可能性もある。埋土は黒褐色の黒ボク土である。西側の壁に地山削り出しによる二段の高床部が認められる。内側の高床部は床面より5cm、外側の高床部は内側のそれより10cm程高くなっている。床面南寄りには東西に長軸を持つ1.3m×0.6m、深さ20cm前後の楕円形状を呈する土坑が設けられている。当遺構が竪穴住居であれば中央ピットになろう。壁際に5個のピットがあり、P1から弥生土器細片が出土している。

遺物は埋土中より、壺(368)、甕、鉢(369～372・374～376)が出土している。口縁部片から組成比率を見ると、壺2点(8.3%)、甕15点(62.5%)、鉢7点(29.7%)で、確認し得た底部は全て平底である。なお373は縄文晩期の深鉢口縁部片で混入によるものである。SX1は弥生後期のVI期に属する。

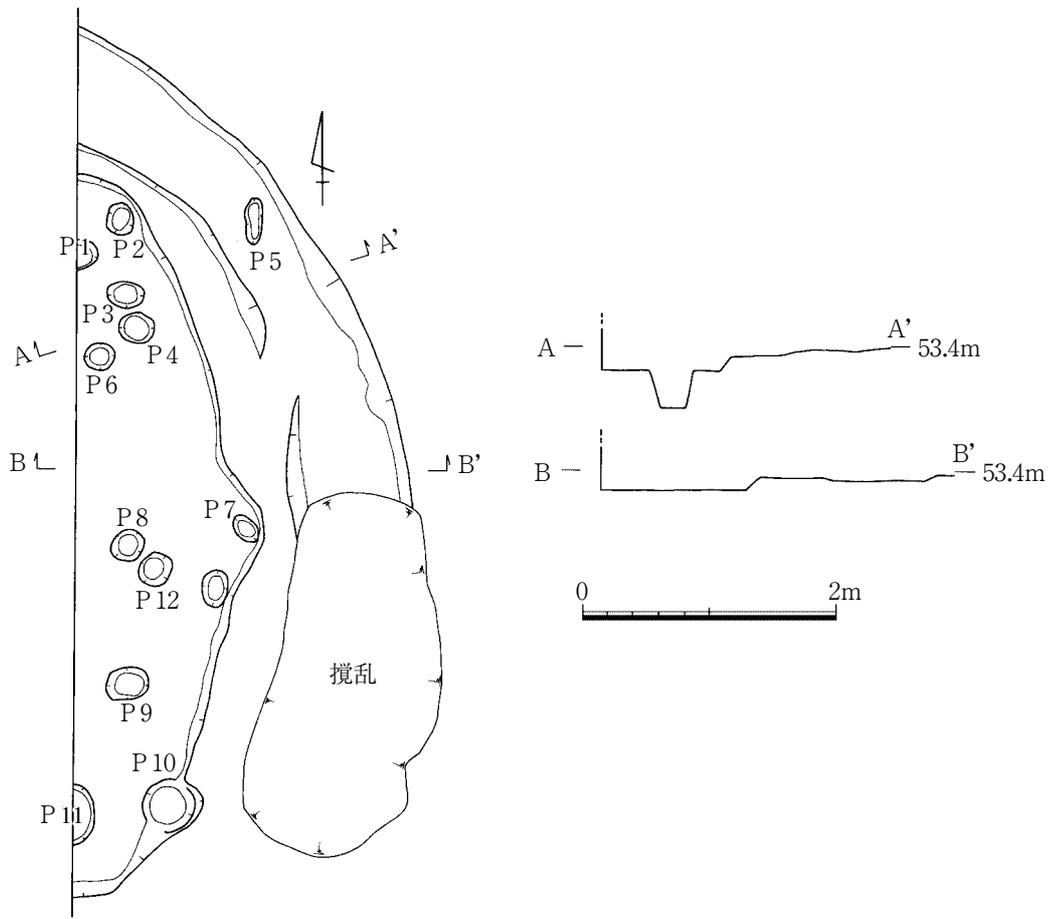


Fig.35 ST 7平面・エレベーション図

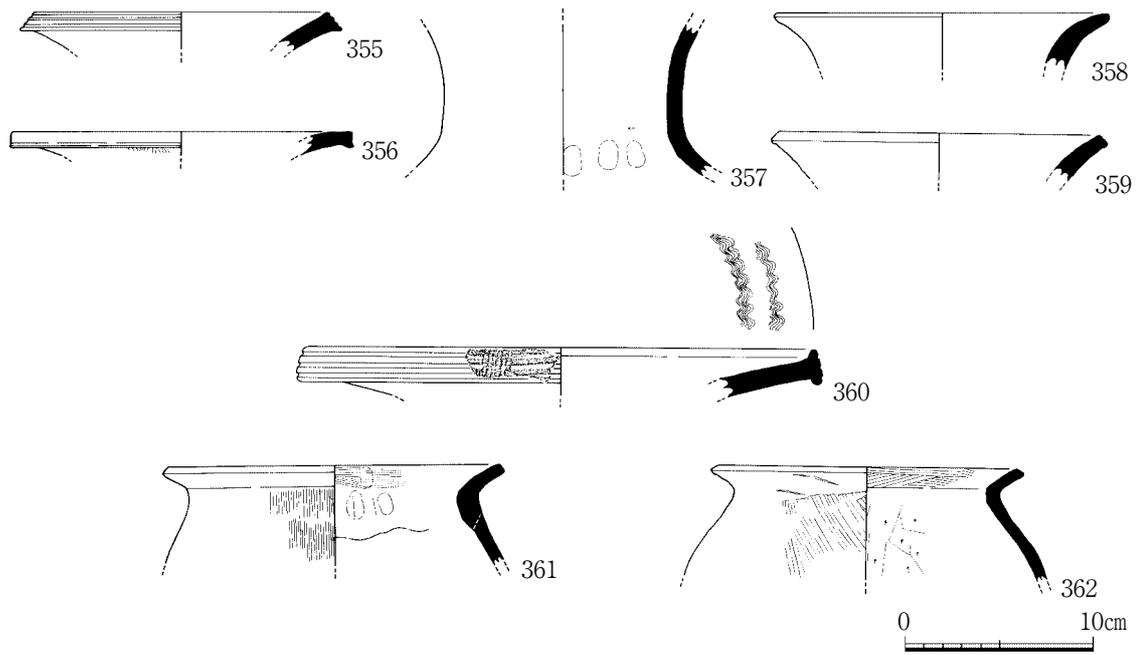


Fig.36 ST7出土土器実測図1

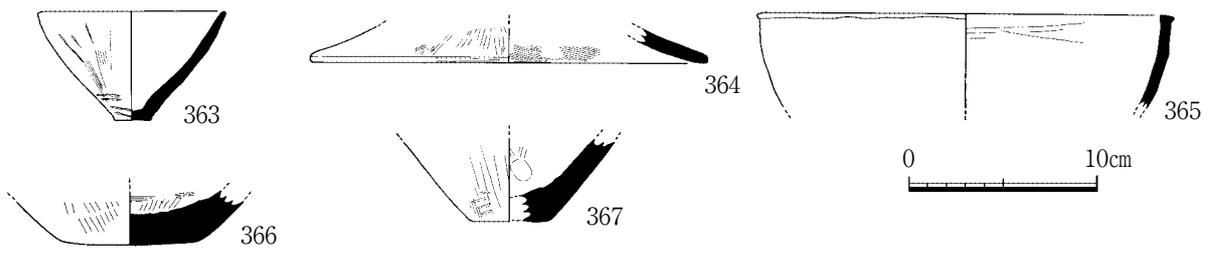
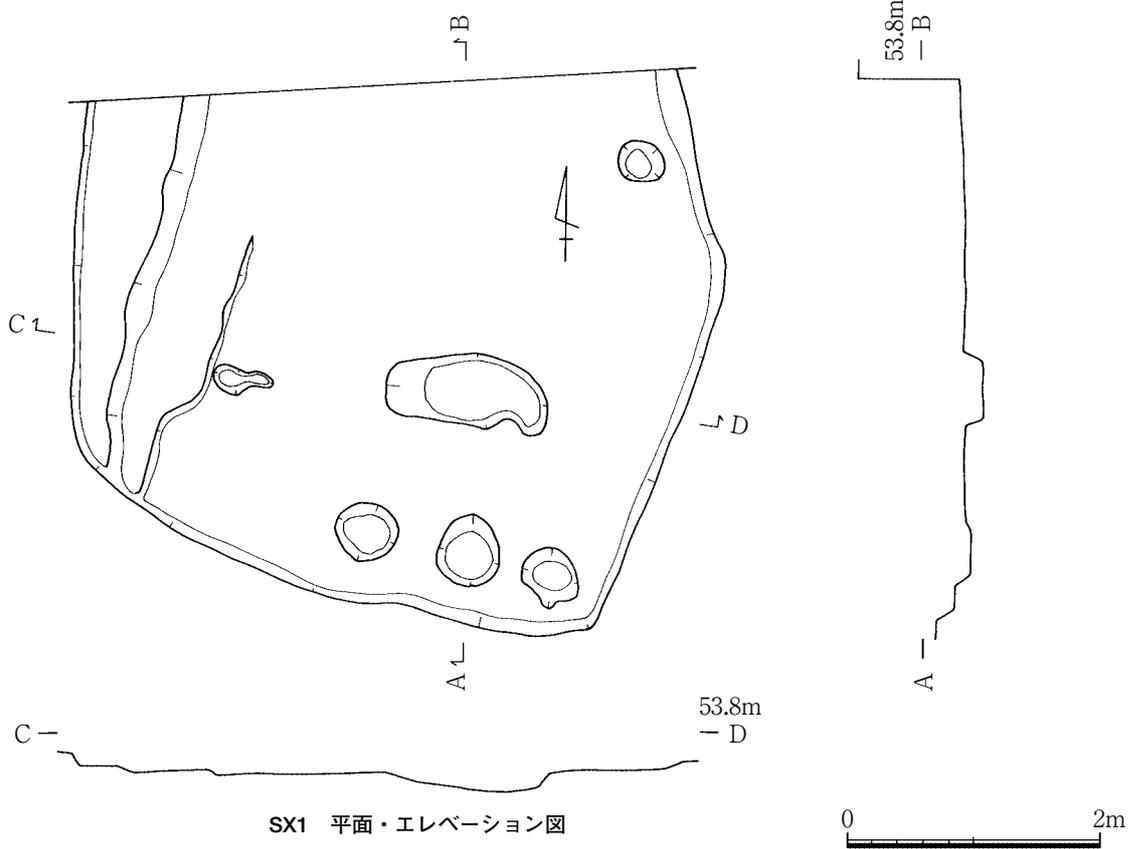


Fig.37 ST7出土土器実測図2



SX1 平面・エレベーション図

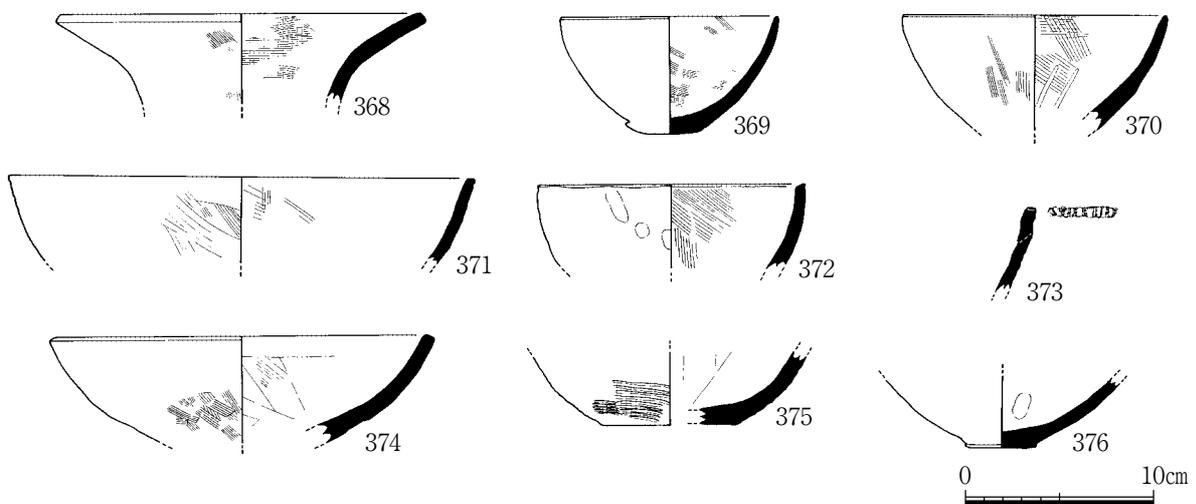


Fig.38 SX1平面・エレベーション及び出土土器実測図

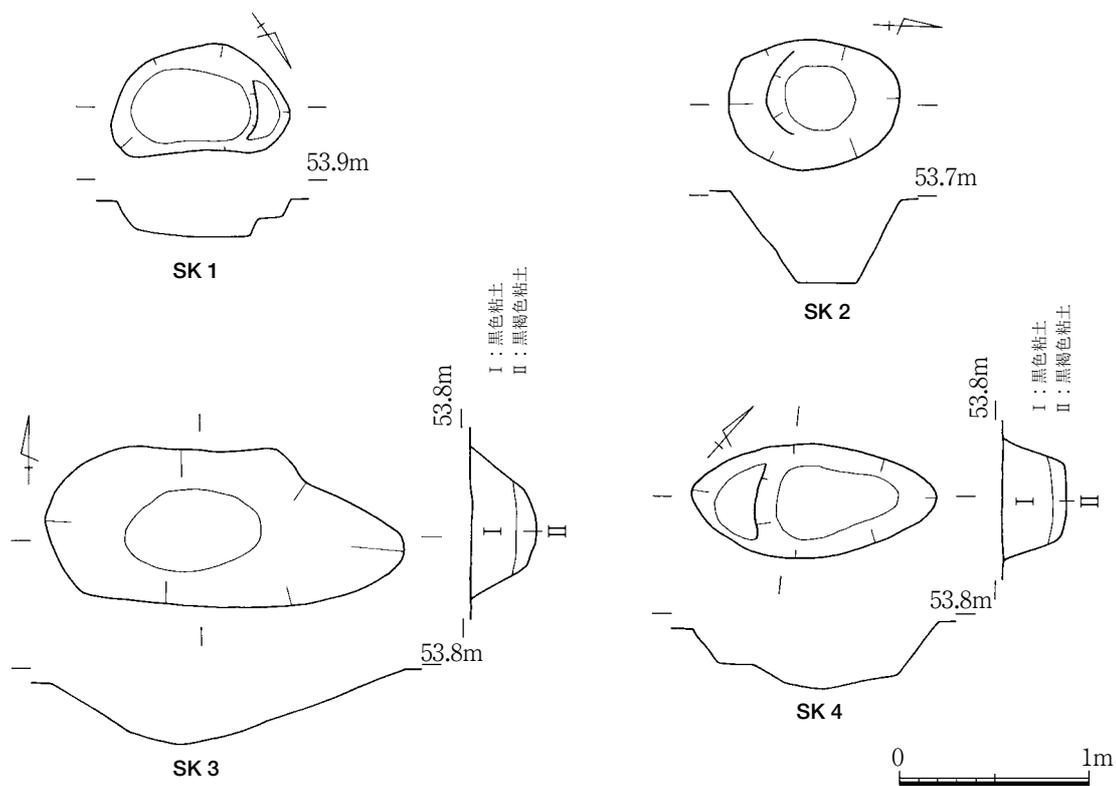


Fig.39 土坑平面・セクション・エレベーション図

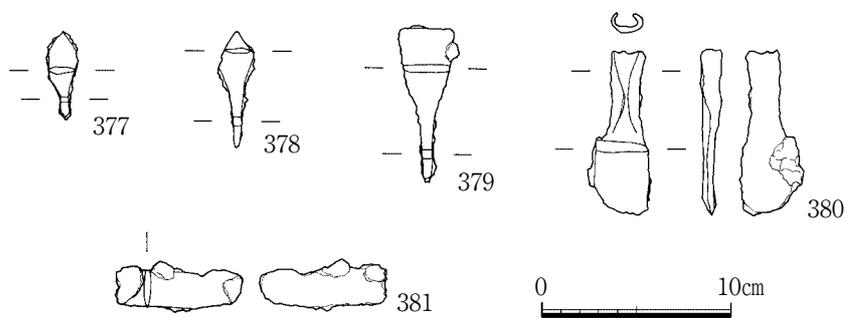


Fig.40 鉄器実測図 (ST 1:378、ST 2:377、ST 4:379~381)

第V章 II区の調査成果

1 基本層序 (Fig.41・42)

調査区南壁の層準を示す

IV層：層厚6cm前後を測り、灰黄褐色シルト層でIII層にブロック状に入り込んでいる部分もある。

III層：層厚10～12cm程のもので西に落ち込んでいて最も深い場所で50cmを測る。

II層：層厚6～14cm程のもので途中から20cm程落ち込んでいる。黒褐色粘質土層で土色調によってようやく分層できる程度である。遺物を少量含有する。

I層：表土(耕作土)で近代以降の堆積層である。層厚は6～14cm程で場所によって厚い部分と薄い部分である。

2 検出遺構と遺物

SK 1 (Fig.44・48)

SK 1は調査区中央の東寄りで検出した。規模は長辺0.7m、短辺0.6m、深さ0.1mを測り 形は楕円形を呈する。埋土は暗褐色粘質土層1層である。遺物は弥生土器細片が17点出土しており、鉢口縁部(84)と二重口縁壺の口縁部(85)の2点を図示することができた。

SD 1 (Fig.41・43・45～48)

調査区西端部で検出した南北に延びる溝である。長さ43m、幅2.8m～3.0m、深さで最も深いところで1.2m、浅い所で0.6mを測る。断面は船底形を呈し段状になっていて南に進むにつれてU字形に変化している。断面はB-B'、C-C'の2ヶ所で北壁を測った。B-B'は西壁の立ち上がり部分にII層(黄色シルト)の堆積が見られ、他はI層(濃茶色粘質土)が厚く堆積している。II層は壁の崩落土である。またI層中には炭化物の堆積が一部に認められる。C-C'では、B-B'のI層とほとんど同様の埋土であるが、小礫を含むI層と含まないII層とに分けた。後者は遺物を多く含んでいる。

埋土中C-C'付近には50cm大の角礫が床面から浮いた状態で数個出土し、南部には拳大～人頭大の河原石の集中が見られた。河原石の中には1点煤の付着しているものが認められた。角礫群や河原石群はSD 1が埋没する過程で投げ込まれたものと考えられる。

遺物は、弥生土器から近世に至るまで幅広く出土している。遺物の取り上げは、埋土を上層、中層、下層、床の4つの人工層位に分けて取り上げた。中層から最も多くの遺物が出土している。上層出土の遺物は、1～16と71である。1～4は、土師器坏で全て回転糸切り痕見られる。1は円盤状高台を有し古相を示すが他は15世紀代に属するものである。5と9は須恵器壺、6は備前播り鉢、7・12・13は瓦質鍋の口縁部、16は同三足鍋の足である。8は瀬戸の瓶子、11・14は白磁碗口縁部である。10は青花碗で碗C類に属するものである。71は茶釜である。中層出土の遺物は、17～49である。17は10世紀代の土師器坏、18・21～24・38は中世の土師器坏で21～24は底部に糸

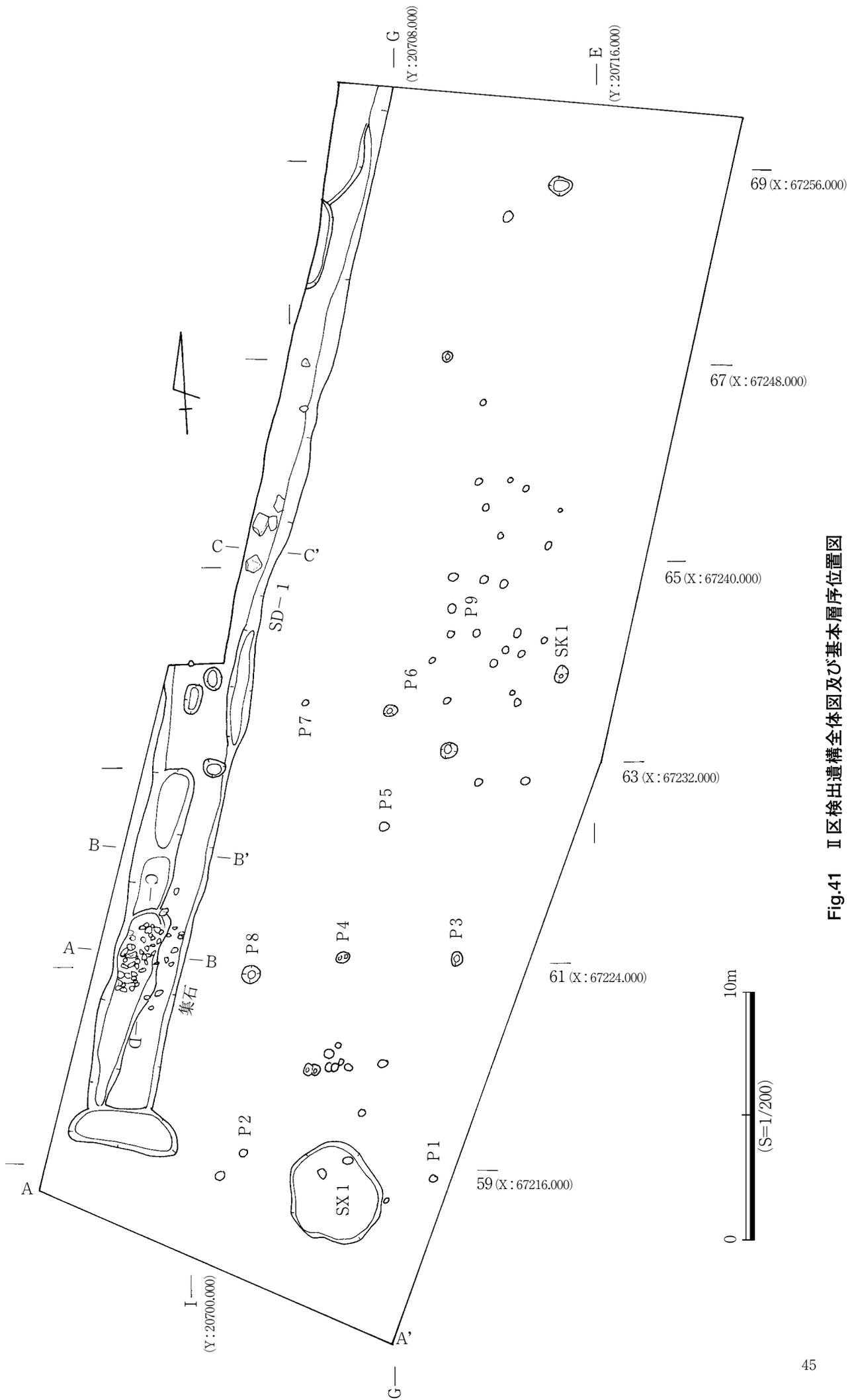


Fig.41 II区検出遺構全体図及び基本層序位置図

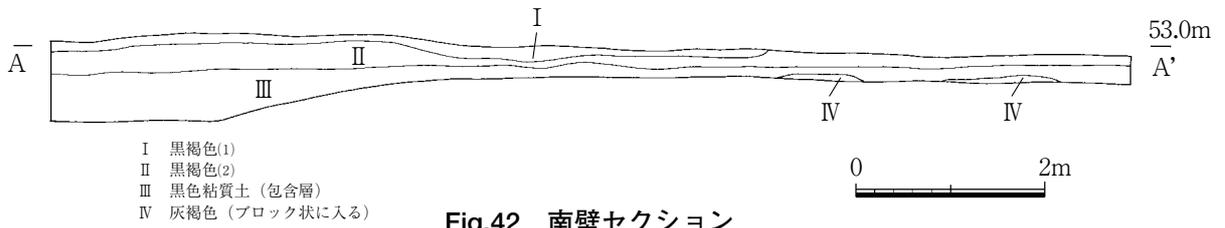


Fig.42 南壁セクション

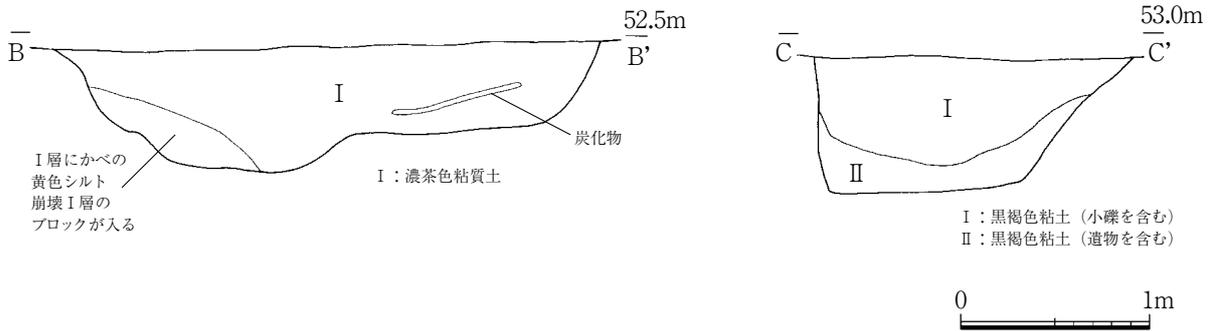


Fig.43 SD1セクション及び集石出土状況実測図

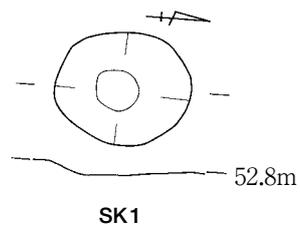
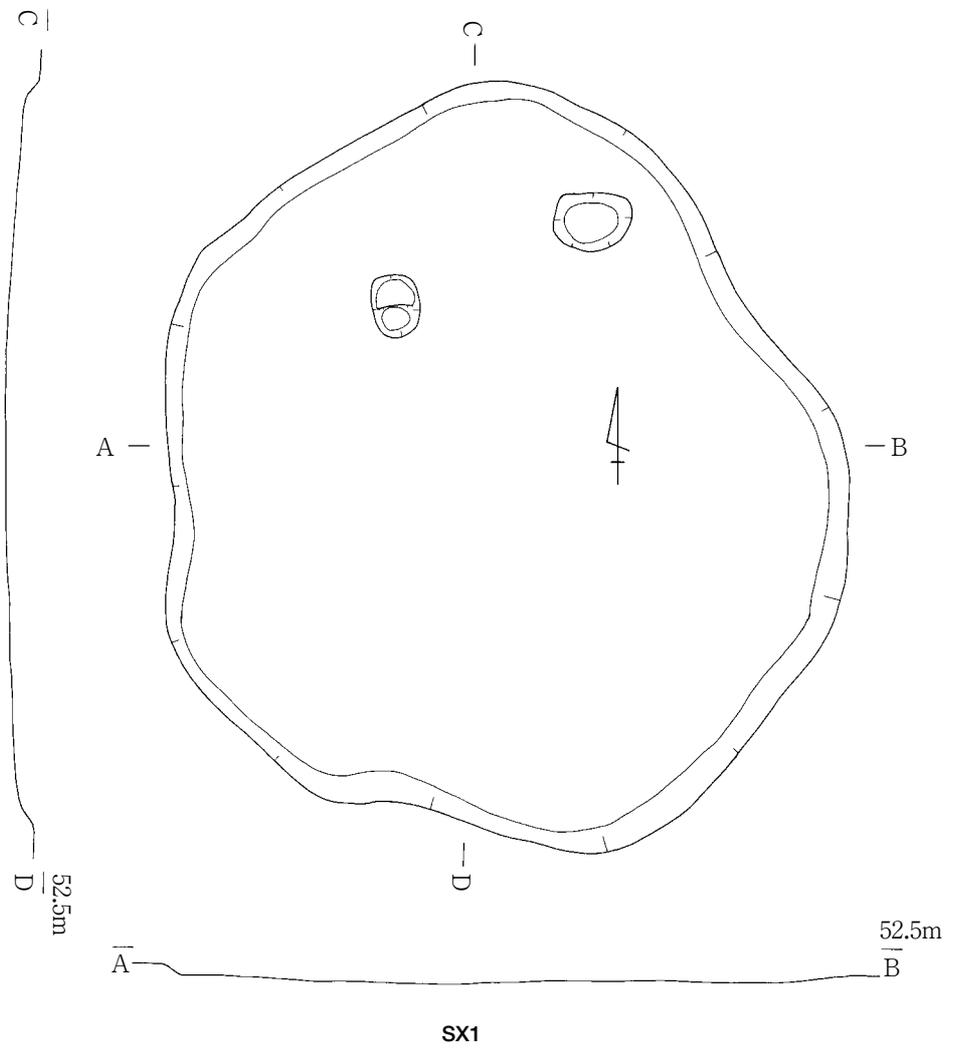


Fig.44 SX1・SK1平面・エレベーション図

切り痕を留めている。25・30は東播系の捏ね鉢、26・27は弥生土器底部である。28は明青花皿、29は備前播底部である。31・33・35・43は瓦質鍋、36は瓦質鉢、46は土師器鍋である。32・34は青磁皿、41・42は青磁碗、39・40・44は白磁小皿、45は白磁碗である。72の備前壺は中層から主に出土したが、下層出土の破片とともに接合した。下層出土遺物は50~58である。50は弥生土器底部、52は須恵器壺、54・57・58は須恵器甕、56は瓦質鍋、51・53は青磁碗、55は白磁碗である。床面出土の遺物は59~70である。59~61は土師器坏で内外面にロクロ回転による調整痕を残す。62は須恵器坏、65・67・69は須恵器甕、66・68・70は瓦質鍋、63は白磁、64は青磁碗である。この他上・中・下層から土錘が4点(73~76)出土している。77~83は層位を明確になし得なかった遺物である。SD1出土の遺物は新旧混在しているが、16世紀代に属するものが多い。床面や接合資料などから考えて16世紀代に埋没したものと考えられる。

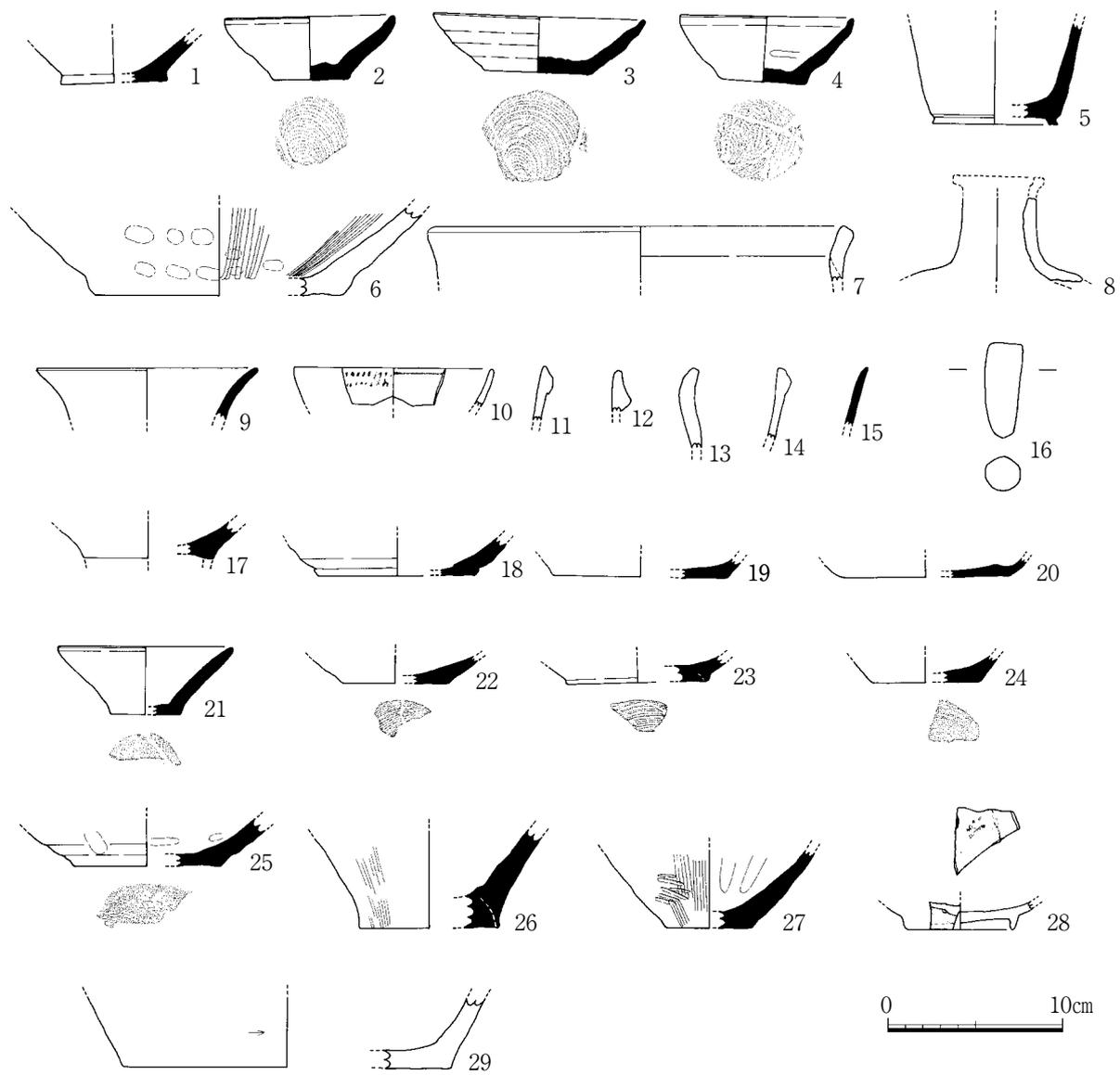


Fig.45 SD1上層(1~16)・中層(17~29)出土遺物実測図

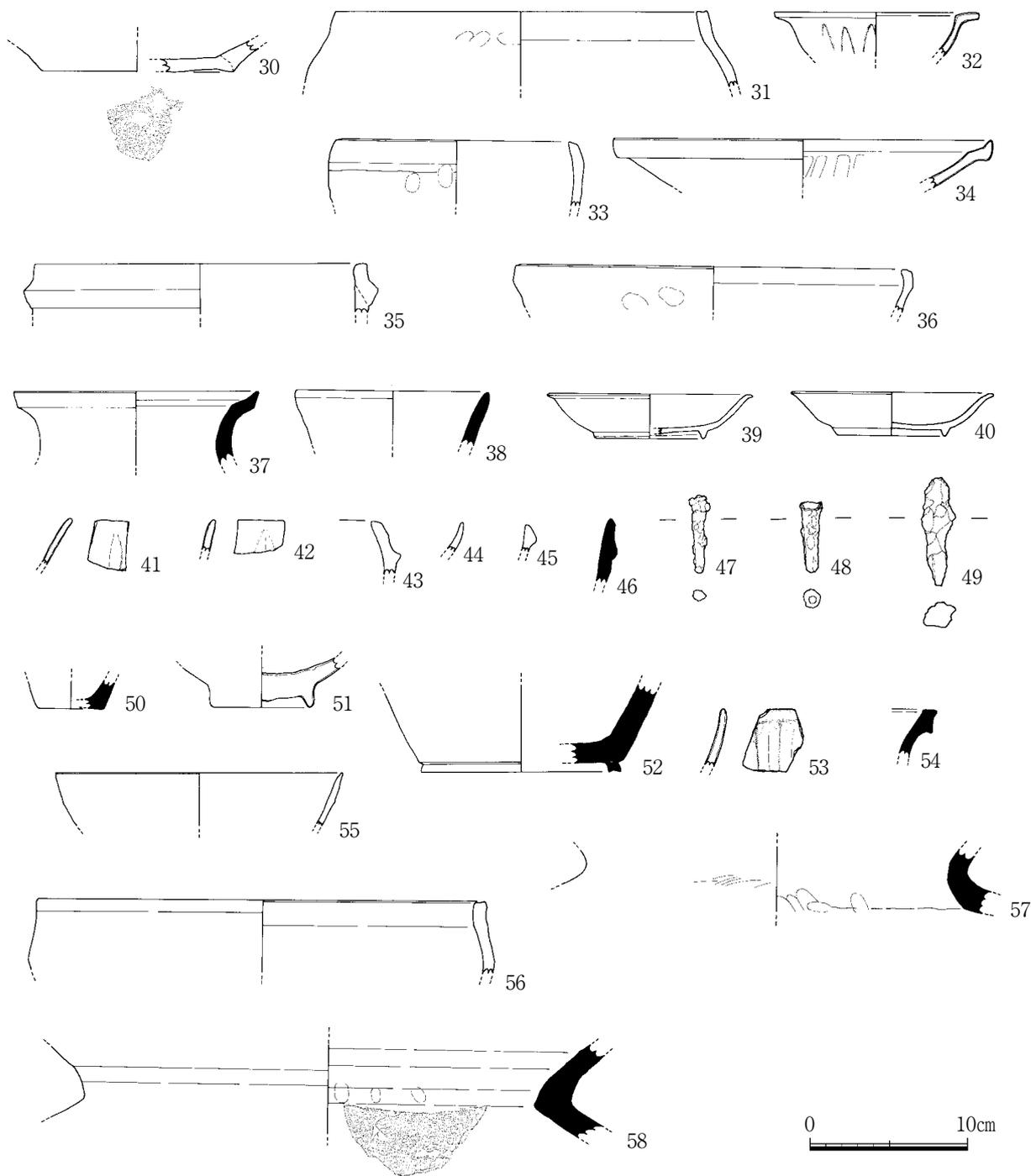


Fig.46 SD1中層(30~49)・下層(50~58)出土遺物実測図

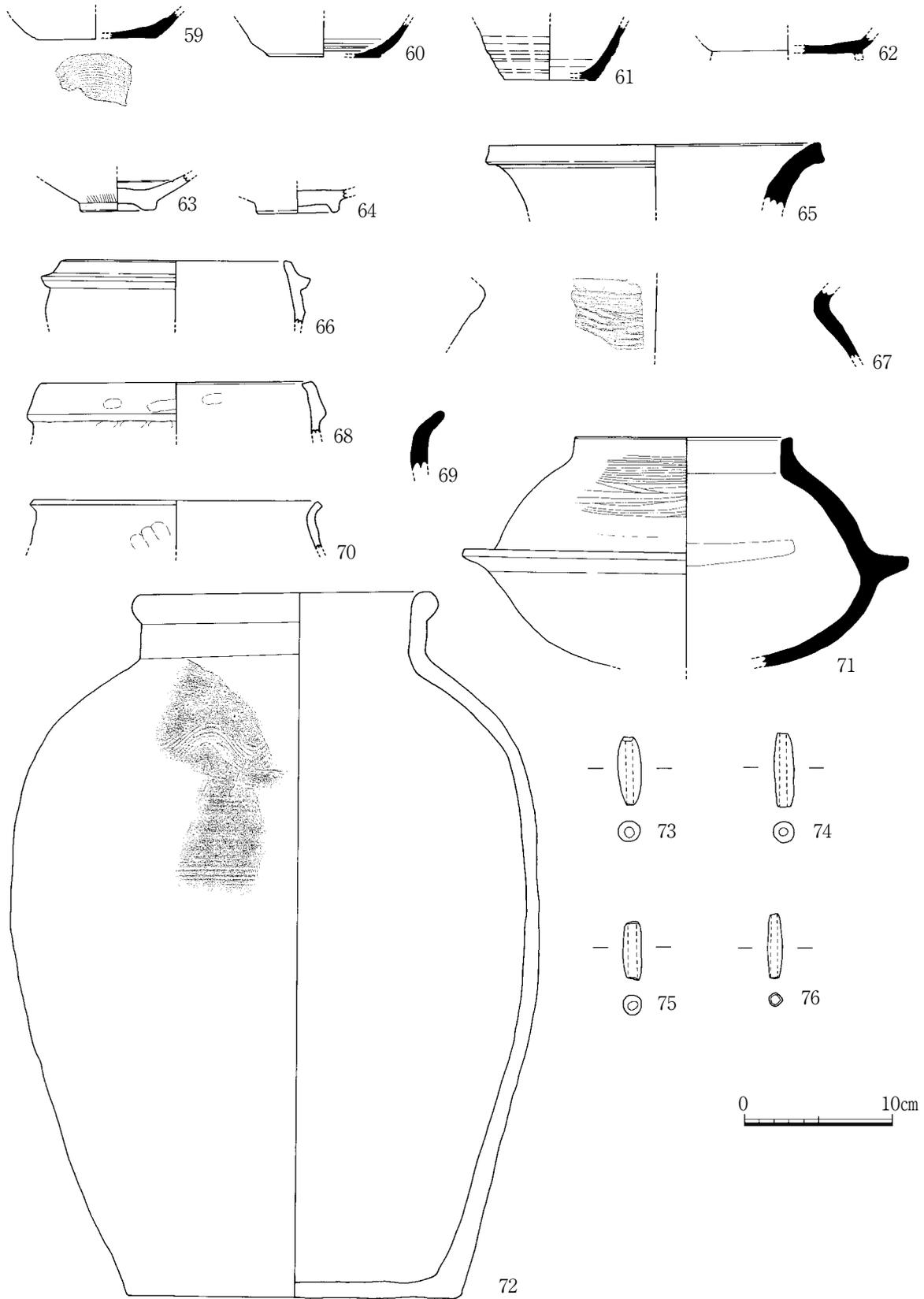


Fig.47 SD1 上層(71)・床面(59~70)・他の出土遺物実測図

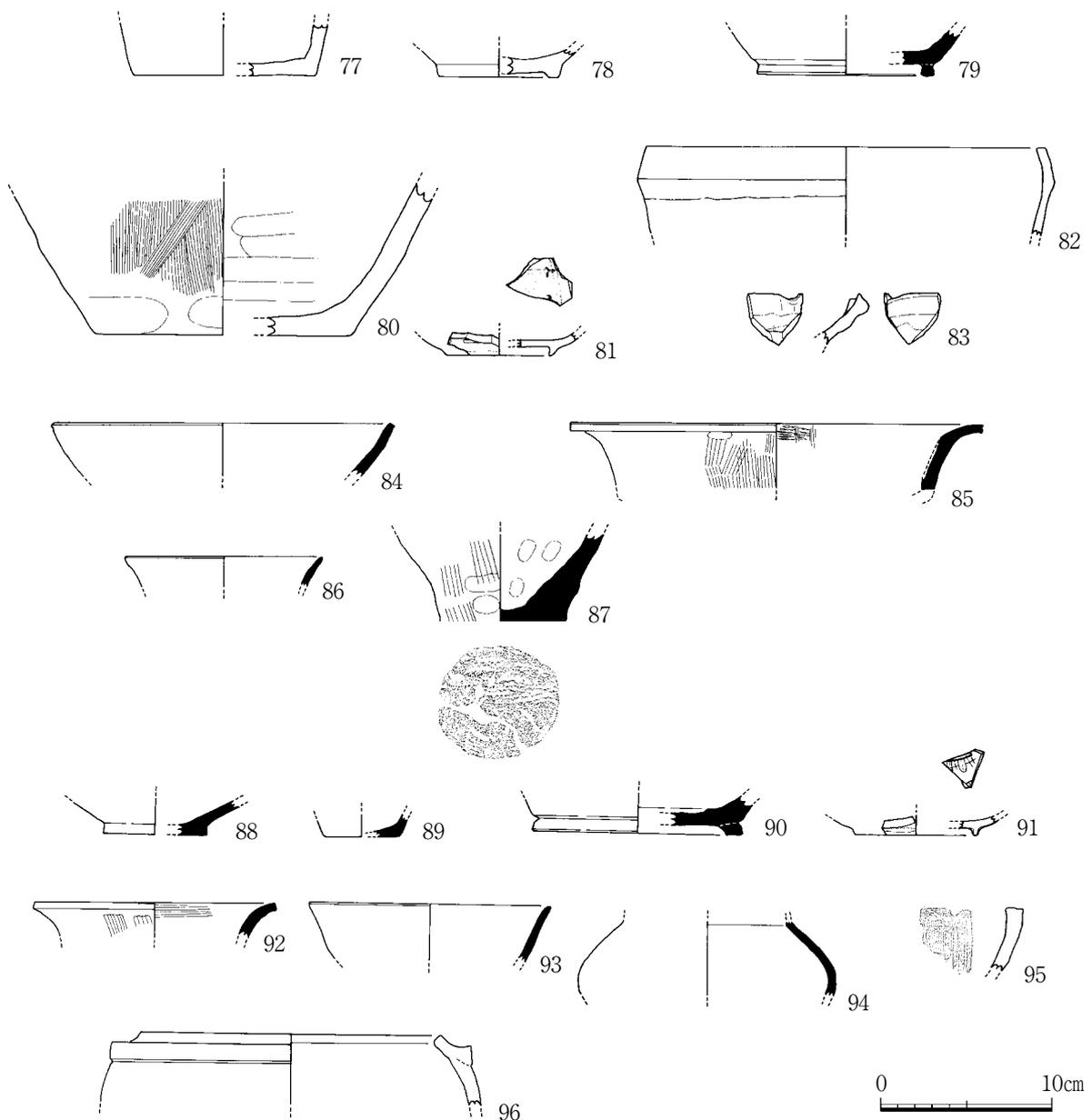


Fig.48 SD1埋土 (77~87)・SK1 (84・85)・P1 (87)・P4 (86)・包含層(88~96)出土遺物実測図

SX-1 (Fig.44)

SX-1は調査区の南で検出された性格不明の遺構である。平面形はやや不整円形で長辺3.8m、短辺3.5m、深さ12cmである。断面は皿状を呈し床面からピット状の落ち込み2個を認めた。埋土は黒色粘土の単純一層である。遺物は、縄文晩期土器細片が50点近く出土しているが図示できるものはなかった。突帯文出現以前の晩期中葉の土坑である。

P1 (Fig.48)

P1は、調査区南側SX-1の東で検出した。規模は径20cm、深さ約18cmを測り、形は円形を呈する。埋土は褐色粘出土である。遺物は弥生土器の細片4点確認し、弥生土器底部(87)を図示し得た。

P2

P2は調査区の南側でSX-1の西側で検出した。規模は径30cm、深さ約20cmを測り、形は楕円形を呈する。埋土は褐色粘出土である。遺物は弥生土器の細片1点出土したのみである。

P3

P3は調査区南側の東で検出した。規模は径50cm、深さ12cmを測り、形は卵形を呈する。埋土は褐色粘出土である。遺物は弥生土器の細片2点出土したのみである。

P4 (Fig.48)

P4は南寄り、P3とP8の間で検出した柱穴で2段になっている。規模は径46cm、深さは36cmと下の深さは8cmを測り、形は楕円形を呈す。埋土は褐色粘出土である。遺物は、図示した中世土師器杯細片(86)の他に弥生土器細片7点が出土している。

P5

P5は南寄りP4の北で検出した。規模は径28cm、深さ18cmを測り、形は円形を呈する。埋土は褐色粘出土である。遺物は弥生土器の細片2点出土している。

P6

P6は調査区のほぼ中央で検出した。規模は径約20cm、深さは16cmを測り形は円形を呈する。埋土は褐色粘出土で、遺物は弥生土器の細片3点出土している。

P7

P7はP6の南西よりで検出した。規模は径30cm、深さは16cmを測り、形は不整円形を呈する。埋土は暗褐色粘出土で、遺物は弥生土器の細片5点出土している。

P8

P8は調査区南側、P4に西よりで検出した。規模は径41cm、深さは10cmを測り、形は円形を呈する。埋土は暗褐色粘出土で、遺物は縄文土器の細片3点、弥生土器の細片7点出土している。

P9

P9は調査区のほぼ中央、P6の北よりで検出した。規模は径24cm、深さ16cmを測り、形は円形を呈する。埋土は褐色粘出土である。遺物は弥生土器の細片1点出土している。

第Ⅵ章 まとめ

今次調査では、弥生時代後期終末期を中心に縄文時代晩期から16世紀に至る遺構・遺物を検出した。以下時期別に若干の所見を述べてまとめとしたい。

1 縄文時代

晩期中葉の性格不明土坑SX1を検出した。埋土中より八反坪式土器⁽¹⁾に属する粗製深鉢の細片が出土している。これにより林田遺跡のはじまりが、晩期中葉にまで遡ることが明かになった。空谷川を隔てた北側の林田シタノヂ⁽²⁾遺跡からも当該期のピットが2個検出されていることから、段丘上に小規模な集落址が2つ併存していたことになる。この他に物部川流域における当該期の遺跡は美良布遺跡⁽³⁾に求めることができる。周辺部に目を転ずれば東部の十万遺跡⁽⁴⁾や香長平野北部の栄工田遺跡⁽⁵⁾を挙げることができる。これらの遺跡は、すべて極少数のピットや土坑からなる極めて小規模な遺跡であり、立地においても河岸段丘や山麓部と言う共通点をもっている。物部川流域や香長平野における縄文晩期集落は、平野の縁辺部に小規模な集落が点在する景観として捉えることができよう。弥生時代前期初頭には、田村遺跡に見られるような大規模な集落が忽然と出現するが、両者の関連を如何に理解すべきか今後の課題である。

2 弥生時代

(1) 集落構造について

後期の竪穴住居7棟を検出した。前回の調査⁽⁶⁾と合わせると13棟の竪穴住居を確認したことになる。未調査区を含めて林田遺跡全体では、30棟前後の竪穴住居を擁する集落址として把握することは可能であろう。出土遺物の特徴は、多量の土器と共に鉄器が多く出土したことである。前回の調査でも17点出土しており、今回の5点と合わせて22点を有する。

今回の7棟について時期を再確認しておく、ST3が後期中葉のV-2～3期、ST7がV-4期、ST2とST5が後期末のVI-1期、ST1とST4が後期終末のVI-2期、ST6が古墳時代初頭に属する。従ってST3→ST7→ST2・5→ST1・4→ST6の変遷を辿ることになる。前回の調査で検出した6棟中の4棟は、VI期に属することから林田遺跡は後期末から終末にかけて盛行期を迎える集落址として捉えることができる。しかし古墳時代に入るとST6が一棟存在するのみで急速に衰退する短命な集落址としなければならない。

香長平野の弥生時代集落は、前期以来連綿として営み続けられてきた拠点集落と、断続的に営まれる周辺部の中小集落との関係として把握することができるが、後期後半になるとこれまでの関係に劇的とも言うべき変化が起こる。既に指摘してきたように、後期前半に最盛期を迎えた田村遺跡は、後半にいたって急激に衰退し古墳時代を待たずに消滅するのである⁽⁷⁾。田村遺跡と共に後期前半に盛行期を迎えた周辺部の衛星的集落も同様の運命を辿るのである⁽⁸⁾。そして、後期末～終末になるとそれまでほとんど集落が見られなかった地点や見られたとしても極めて小規模な集

落の営まれていたところに展開するようになりその数も飛躍的に増加する。その立地も平野部だけでなく河岸段丘や洪積台地に目立つ傾向が認められる。ここに香長平野における後期末から終末期の急速に進行する集落の再編成を看取することができる。しかしながら再編集落とでも称すべき当該期の集落は古墳時代初頭を過ぎると急速に衰退消滅する運命を辿り継続することはない。林田遺跡もこのような動向の中で消長を遂げた集落として捉えることができる。このような再編集落について筆者は、短期膨張衰退型と呼称し成立期の違いから2つのパターンのあることを述べた⁹⁾。すなわち後期末・終末期(VI期)に登場する集落と後期中葉頃から営まれはじめ後期末から古墳時代初頭に盛行期を迎える集落型態である。かつて、林田遺跡については前回調査結果から前者に属することを指摘したが、今回の調査結果から後者のタイプに属することが明らかとなった。

次に堅穴住居の規模から集落構造について少し触れておきたい。VI期に属する4棟の内、ST 1・2・5の3棟は面積20~30m²の中型住居であるのに対して、ST 4は60m²以上を測る大型住居である。床面積の違いだけでなく、ST 4からは鉄器が多く出土しているなど出土遺物にも明瞭な違いが認められる。このような傾向は前回の調査からも窺うことができる。前回調査のST 2は、直径9m、面積60m²以上を測る円形の大型住居で、鉄器も12点と大量に出土している。また完周しないベッド状遺構などST 4との構造的な類似点を指摘することもできる。前回調査のST 2の時期は出土遺物から見る限りST 4と同時期としてとらえることが可能であり、当集落のVI-2期には大型住居2棟が併存していたことになる。すなわち大型住居2棟と中型住居数棟から構成される集落構造を復元することができよう。大型住居の機能について断定することは難しいが、鉄器の集中的な出土からみて他の中型住居とは性格を異にし、集落において中心的な役割を果たしていたことを想定することは可能であろう。従って、ここでは大型住居を中心とした2つの単位から構成された集落として理解することができる。

香長平野におけるこのような大型住居は、すでに後期前・中葉に認められる。下ノ坪遺跡のST11⁽¹⁰⁾や田村遺跡⁽¹¹⁾に求めることができるのである。下ノ坪遺跡ST11は後期中葉に属し、袋状鉄斧など鉄器3点、銅族1点の他ガラス小玉80点が出土しており、田村遺跡の例もガラス小玉が多量に出土しているなど、やはり他の住居とは異なった内容を有している。両集落は共に林田遺跡よりもはるかに大きな集落であり堅穴住居の数も多く、より大きな共同体として存在していた。林田遺跡はじめ当該期の新しいタイプの集落は、より大きな共同体が分解した後の姿を示しているものとして捉えることができよう。より大きな共同体の分解の背景については後日に期したい。

(2) 堅穴住居の廃棄について

今次調査で今一つ注目すべきことは、堅穴住居の廃棄についてである。結論から言えば意識的な行為によって堅穴住居の廃棄が執り行われているとしか考えられない状況で遺物が出土している。

特にVI期から古墳時代初頭のST 1・2・4・6において顕著に見られる。

ST 4は、中央ピット検出面において集石を確認した。これは中央ピットを埋め戻した後に河原石を集め置いた後に住居が埋められたことを示している。ST 1・2の多量の遺物の出土状況も土器

群のあり方から単なる廃棄ではなく一定の手順を踏んだ行為の跡として捉えざるを得ないのである。おそらく柱や屋根を除けたあとに意識的な埋め戻しの過程の中で大量の遺物が置かれたものと考えられる。当該期の竪穴住居におけるこのような状況は、今次調査で初めて見られるものではなくかなり一般的に認められる現象である。小籠遺跡のST12・13・14・17などで既に指摘したところである⁽¹²⁾。この他にも田村遺跡Loc.49のST1⁽¹³⁾やひびのきサウジ遺跡のST8⁽¹⁴⁾、西分増井遺跡のST8⁽¹⁵⁾など数多くの事例を求めることができる。林田遺跡Ⅲ区(2000年度調査)においても顕著に認められた。かかる現象は後期中葉頃から少しづつ見られはじめ後期終末から古墳時代初頭に至って一挙に顕在化する。いわば新しいタイプの集落に伴う祭祀的行為として位置付けることができよう。

3 古代

古代は遺構を確認することはできなかったが、SD1埋土から須恵器坏、甕など少量の遺物の出土を見た。当遺跡の南には讃岐の善通寺や仲村廃寺出土の瓦と同汎の軒丸瓦が出土している加茂ハイタノクボ遺跡⁽¹⁶⁾があり、山本前田窯跡もあることから調査区周辺にはこれらと関連する施設の存在したことが十分考えられる。すでに第Ⅱ章で触れたように、土佐山田町西部に展開する国衙関連の古窯址群とは別にもう一つの古代史の舞台が展開した地域として注目していかなければならない。

4 中世

戦国期の溝SD1を検出することができた。出土遺物から16世紀代に埋没した溝と考えられる。この溝の機能については即断ができないが、屋敷地を画する溝の一部である可能性は指摘できよう。香長平野においては16世紀代に埋没するかかる性格を帯びた大溝は十万遺跡⁽⁴⁾や岩村遺跡⁽¹⁷⁾などで検出されている。言わば南四国の戦国期の代表的な遺構である。これらに共通することは水運との関係が密接なところに設けられていることであるが、本例も物部川に臨む立地であり前例にもれない。まさに当地は物部川が香長平野に向かって広がる要の地点であり、中流地域との水運の要衝の地を占めている。今後周辺の山城や屋敷地との関係を追究していかなければならない。

(註)

- 1)岡本健児他「玉屋敷・八反坪遺跡と出土遺物」高知県土佐町教育委員会1981年
- 2)山崎正明『林田シタノヂ遺跡Ⅱ』高知県土佐山田町教育委員会1993年
- 3)出原恵三『美良布遺跡』高知県香北町教育委員会1991年
- 4)高橋啓明・出原恵三・吉原達成『十万遺跡発掘調査報告書』高知県香我美町教育委員会1988年
- 5)松村信博『栄エ田遺跡』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター1995年
- 6)森田尚宏『林田遺跡』高知県土佐山田町教育委員会1985年
- 7)出原恵三「弥生から古墳へー前期古墳空白地域の動向ー」『考古学研究』第40巻第2号考古学研究会1993年
- 8)出原恵三「南四国における弥生集落の成立と展開」『黒潮』NO.11高知大学黒潮圏研究所2001年
- 9)出原恵三「弥生時代から中世における小籠遺跡の変遷」『小籠遺跡Ⅲ』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センタ

ー1997年

- 10)出原恵三「下ノ坪遺跡の弥生後期土器と集落」『下ノ坪遺跡Ⅱ』高知県野市町教育委員会1998年
- 11)(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター『平成9年度高知空港発掘調査田村遺跡群現地説明会資料』1998年
- 12)出原恵三・泉幸代・浜田恵子・藤方正治『小籠遺跡Ⅱ』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター1996年
- 13)出原恵三『高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査(山側進入灯設置区域)報告書ー田村遺跡群・田中地区ー』高知県教育委員会1986年
- 14)高橋啓明『ひびのきサウジ遺跡発掘調査報告書』高知県土佐山田町教育委員会1990年
- 15)出原恵三『西分増井遺跡』高知県春野町教育委員会1990年
- 16)川端清司『加茂ハイタノクボ遺跡』高知県土佐山田町教育委員会2000年
- 17)三谷民雄『岩村遺跡群Ⅲ』高知県南国市教育委員会1998年

表1 1区遺物観察表1

図版番号	出土地点	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	特徴	備考
Fig.9-1	ST1	壺	—	25.2	—	—	チャートの砂粒を含む	にぶい橙色	口縁部内外面横方向の強いナデ調整	
〃 -2	〃	〃	—	13.0	—	—	〃	明赤褐色	叩き成形。外面右下がりのハケ調整、内面強いナデ調整、口縁部内外横方向のナデ調整	
〃 -3	〃	〃	—	—	—	—	チャート、赤色風化礫の粗粒砂を多く含む	橙色	外面は縦方向のハケ調整、胴部内面指ナデ。	
〃 -4	〃	〃	—	20.0	—	—	チャートの粗粒砂を多く含む	〃	二重口縁部壺。口縁部内外面横方向の強いナデ調整、頸部外面右下がり及び縦方向のナデ調整、内面右下がりのハケ調整	
〃 -5	〃	甕	—	15.0	—	—	チャートの砂粒を含む	明赤褐色	叩き成形。口縁部叩き出し、外面縦方向のハケ調整、内面右下がりのハケ調整。口唇はしっかりと面取り。	外面煤け
〃 -6	〃	〃	—	15.6	—	—	チャート、赤色風化礫の粗粒砂を含む	にぶい橙色	叩き成形。口縁部叩き出し、頸胴部縦方向のハケ調整、口縁部内面上胴部右下がりハケ調整、口唇面取り。	
〃 -7	〃	〃	—	16.0	—	—	チャート他の細粗粒砂を多く含む	明黄褐色	叩き成形。口縁部叩き出し、口縁部外面縦方向のハケ調整、上胴部内面右下がりのハケ調整。口唇面取り。	外面煤け
〃 -8	〃	〃	—	18.2	21.2	—	チャート、赤色風化礫の粗粒砂を含む	橙色	叩き成形。外面叩き+縦方向のハケ調整。内面上胴部は右下がり、中位は縦方向のハケ調整。	
〃 -9	〃	〃	—	16.0	21.8	—	チャートの粗粒砂を多く含む	灰褐色	叩き成形。口縁部叩き出し、口縁部外面縦方向、上胴部外面右下がり、中位縦方向のハケ調整。口縁部内面及び上胴部内面右下がり、中位縦方向のハケ調整。口唇はしっかりと面取り。	
Fig.10-10	〃	〃	—	18.0	19.2	—	チャートの細粗粒砂を多く含む	灰黄色	叩き成形。外面縦方向、口縁部内面横方向、胴部右下がりのハケ調整。	
〃 -11	〃	鉢	6.0	10.0	—	—	〃	橙色	叩き成形。外面叩き+縦方向のハケ調整。内面右下がりハケ調整。	
〃 -12	〃	〃	5.6	11.0	—	2.8	チャート、赤色風化礫の細粗粒砂を多く含む	茶色	外面ナデ調整、内面ハケ調整。	
〃 -13	〃	〃	7.7	14.8	—	—	チャートの小礫、粗粒差を多く含む	にぶい橙色	外面に指圧痕顕著、内面右下がりのハケ調整。	
〃 -14	〃	〃	9.4	13.0	—	1.4	チャート、他の砂粒を多く含む	橙色	叩き成形。内外面縦方向のハケ調整。口縁部端部摘み出し、横方向のナデ調整。	
〃 -15	〃	〃	—	13.8	—	—	チャート、風化礫の粗粒砂を含む	にぶい橙色	叩き成形。外面ナデ調整、内面ハケ調整。	
〃 -16	〃	〃	—	19.0	—	—	チャート、他の砂粒を多く含む	にぶい橙色	口縁部内外面横ナデ調整。外面縦方向のハケ調整、内面ナデ調整。	
〃 -17	〃	〃	—	16.0	—	—	〃	茶黄色	口縁部内外面横ナデ調整。胴部外面横方向のナデ調整	
〃 -18	〃	〃	—	13.0	—	—	〃	橙色	外面ナデ調整、内面縦ハケ調整。	
〃 -19	〃	〃	—	20.0	—	—	チャート、長石の細少し砂粒を含む	〃	外面ナデ調整、ヒビ割れ状の亀裂。内面右下がりのハケ調整。	
〃 -20	〃	〃	—	17.8	—	—	チャート、頁岩の粗粒砂を多く含む	灰黄色	叩き成形。外面ナデ調整、内面横ハケ調整。	
〃 -21	〃	〃	—	17.6	—	—	チャートの粗粒砂を多く含む	にぶい橙色	胴部外面縦方向のハケ調整+ナデ調整、内面横ハケ+横ナデ。	外面被熱赤変
〃 -22	〃	〃	—	22.4	—	—	チャート、他の粗粒砂を多く含む	橙色	外面器表剥離。内面横ハケ+ヘラ磨き。	

表2 1区遺物観察表2

図版番号	出土地点	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	特徴	備考
Fig.10-23	ST1	鉢	—	24.0	—	—	チャート、赤色風化礫の細粗粒砂を多く含む	〃	叩き成形。外面ナデ調整、内面右下がりのハケ調整+ヘラ磨き。	
〃 -24	〃		—	23.6	—	—	チャートの細粗粒砂を多く含む		外面ナデ調整、内面横ハケ調整+ヘラ磨き。	
〃 -25	〃	高坏	—	—	—	—	チャート、長石の砂粒を含む	明赤褐色	坏部外面叩き+ナデ、内面ナデ調整。脚部外面ヘラ磨き、内面ハケ調整。	
〃 -26	〃	壺底部	—	—	—	6.0	チャートの粗粒砂を多く含む	灰褐色	外面縦方向のハケ調整、内面ナデ調整。	
〃 -27	〃	鉢	—	—	—	2.7	長石の細、粗粒砂を多く含む	橙色	叩き成形。外面ナデ調整、内面横ハケ調整+ナデ。下胴部に黒斑。	
〃 -28	〃	〃	—	—	—	5.0	チャートの粗砂粒を含む	〃	外面ナデ、内面縦方向のナデ。外底、胴部外面に植物繊維圧痕が多く見られる。	
〃 -29	〃	甕底部	—	—	—	3.2	チャート他の細粗粒砂を多く含む	〃	内外面縦方向のハケ調整。	外面被熱赤変
〃 -30	〃	〃	—	—	—	5.0	チャートの粗粒砂を多く含む	灰褐色	叩き成形。外面縦方向のハケ調整、内面ナデ調整。	内外面煤け
Fig.11-31	〃	鉢底部	—	—	—	1.9	チャート、赤色風化礫の粗粒砂を含む	橙色	外面ナデ調整、内面縦ハケ調整。	
〃 -32	〃	〃	—	—	—	1.0	チャートの粗砂粒、絹雲母を多く含む	黄茶色	外面ナデ調整、内面ハケ調整。	
〃 -33	〃	〃	—	—	—	2.7	チャートの粗粒砂を多く含む	淡茶色	叩き成形。外面ナデ調整、内面ナデ調整。	
〃 -34	〃	壺	—	23.0	—	—	チャートの粗砂粒を含む	橙色	口縁部内外面横方向のナデ調整	
〃 -35	〃	〃	—	—	—	—	チャート、他の砂粒を多く含む	黄茶色	外面に鋸歯文	
〃 -36	〃	〃	—	15.4	—	—	赤色風化礫の細粒を含む	橙色	口唇部描波状文。内外面横ナデ調整。	
〃 -37	〃	〃	—	21.0	—	—	チャート、赤色風化礫の粗粒砂を多く含む		外面は縦方向、内面横方向のハケ調整、拡張口縁部が剥離。	
〃 -38	〃	〃	—	20.0	—	—	赤色風化礫、他の細粗粒を含む	橙色	口唇、口縁部内面強い横方向の強いナデ調整。外面横ハケ調整。	
〃 -39	〃	甕	—	21.0	—	—	チャート、赤色風化礫の粗粒砂を多く含む	〃	叩き成形。口縁部叩き出し、口縁部外面縦方向のハケ調整、内面右下がりのハケ調整。口唇はしっかりと面取り。上胴部内面右下がりのハケ調整。	
〃 -40	〃	〃	—	17.0	—	—	チャート、他の粗粒砂を多く含む	にぶい橙色	叩き成形。口縁部叩き出し、口縁部外面縦方向のハケ調整、内面右下がりのハケ調整。上胴部内面縦ハケ調整。	外面煤け
〃 -41	〃	〃	—	15.0	—	—	チャートの粗粒砂を多く含む	黄茶色	外面は縦方向のハケ調整、内面ナデ。が外面に大きな黒斑あり。	
〃 -42	〃	〃	—	12.0	—	—	チャートの粗砂粒を含む	淡茶色	内外面ナデ調整。	
〃 -43	〃	〃	—	14.2	—	—	〃	橙色	〃	
〃 -44	〃	〃	—	14.1	—	—	チャート、他の粗粒砂を多く含む	〃	外面ナデ調整、内面ハケ調整。	
〃 -45	〃	〃	—	19.9	—	—	チャートの粗粒砂を多く含む	黄茶色	口縁部内外面横方向のナデ調整。体部外面縦方向のハケ調整、内面ナデ調整。	
〃 -46	〃	〃	—	22.0	—	—	赤色風化礫の、チャート、他の粗粒砂を含む	にぶい橙色	叩き成形。外面縦方向のハケ調整、内面右がりハケ調整+ヘラ磨き。	
〃 -47	〃	〃	—	24.0	—	—	チャートの粗粒砂を多く含む	橙色	口縁部内外面横方向のナデ調整。口唇面取り。内外面縦方向のヘラ磨き。	

表3 1区遺物観察表3

図版番号	出土地点	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	特徴	備考
Fig.11-48	ST1	蓋	—	26.4	—	—	チャートの粗粒砂を多く含む	にぶい橙色	外面は縦方向、内面は横方向ハケ調整。	
〃 -49	〃	高坏	—	—	—	—	〃	橙色	外面縦方向のハケ調整、内面ナデ調整。	
〃 -50	〃	〃	—	—	—	—	〃	〃	脚部外面縦方向のハケ調整+縦方向ヘラ磨き。内面横ハケ調整。	
〃 -51	〃	〃	—	—	—	—	チャートの粗粒砂を多く含む 赤色風化礫		〃	
〃 -52	〃	甕底部	—	—	—	—	チャート、長石、石英、他の砂粒を多く含む	橙色	丸底。叩き成形。外面縦方向のハケ調整、内面ハケ調整。外底に黒斑。	
〃 -53	〃	壺底部	—	—	—	3.3	チャートの粗砂粒、絹雲母を多く含む	黄茶色	外面縦方向のハケ調整、内面ナデ調整。外面に大きな黒斑。	
〃 -54	〃	鉢	—	—	—	3.2	チャート、長石の砂粒を含む	〃	外面ナデ調整、ヒビ割れ状の亀裂。内面横ハケ調整。	
〃 -55	〃	〃	—	—	—	1.8	チャートの粗砂粒を含む	淡茶色	叩き成形。外面ナデ調整、内面縦ハケ調整+ナデ。外面に大きな黒斑あり。	
〃 -56	〃	〃	—	—	—	—	〃	〃	丸底。外面は縦方向のハケ調整、内面ナデ。	
〃 -57	〃	〃	—	—	—	3.0	〃	にぶい橙色	叩き成形。外面ナデ調整、内面ナデ調整。	
〃 -58	〃	壺底部	—	—	—	4.0	チャート、他の粗粒砂を多く含む	茶色	叩き成形。外面縦方向のハケ調整、内面縦方向ナデ調整。	
〃 -59	〃	甕底部	—	—	—	3.7	チャート他の細粗粒砂を多く含む	橙色	外面は縦方向のハケ調整、内面ナデ。外底ハケ調整。	外面被熱赤変
Fig.12-60	〃	壺	—	15.4	—	—	チャートの粗砂粒を含む	〃	口唇、口縁部内面横方向のナデ調整。頸外面縦、内面右下がりのハケ調整。	
〃 -61	〃	〃	—	25.0	—	—	チャートの細粗粒砂を多く含む	橙色	口縁部内外面横方向のナデ調整。頸部外面右下がりハケ調整。	
〃 -62	〃	〃	—	11.0	—	—	チャート他の細粗粒砂を含む	淡茶色	頸内外面に竹管状工具による刺突文あり。内外面横ハケ調整。	
〃 -63	〃	甕	—	15.8	—	—	チャートの粗砂粒を含む	灰茶色	叩き成形。口縁部叩き出し、口縁部外面ナデ調整、内面横ハケ調整。胴部外面右下がりのハケ調整、内面右下がりのハケ調整+縦方向のナデ調整。	
〃 -64	〃	〃	—	15.9	—	—	チャートの粗粒、長石の細粒を含む	橙色	叩き成形。口縁部叩き出し、口縁部内外面横ナデ調整。口縁部は僅かに上方向へ拡張、胴部内面ナデ調整。	
〃 -65	〃	〃	—	16.0	—	—	チャートの粗粒砂を多く含む 雲母を含む	褐灰色	叩き成形。口縁部外面横ナデ、内面右下がりのハケ調整。胴部外面縦方向のハケ調整、内面ナデ調整。口唇面取り。	外面煤け
〃 -66	〃	〃	—	16.0	—	—	チャートの粗砂粒を含む	にぶい橙色	叩き成形。口縁部叩き出し、口縁部外面横ナデ調整、内面横ハケ調整。胴部外面右下がりのハケ調整、内面右下がりのハケ調整+縦方向のナデ調整。口唇面取り。	外面煤け
〃 -67	〃	〃	—	22.0	—	—	チャート他の細粗粒砂を含む	橙色	叩き成形。口縁部叩き出し、口縁部外面縦方向のハケ調整、内面右下がりのハケ調整。口唇は面取り少し摘み出す。上胴部内面右下がりのハケ調整。	
〃 -68	〃	壺	—	22.0	—	—	チャートの粗砂粒を多く含む	〃	口外面縦、内面右下がりのハケ調整。胴部外面右下がりのハケ、内面ナデ調整。	
〃 -69	〃	甕	22.7	16.4	18.2	5.1	チャート、他の粗粒砂を多く含む	にぶい橙色	叩き成形。口縁部叩き出し、口縁部外面ナデ調整、内面横ハケ調整。胴部外面右下がりのハケ調整、内面右下がりのハケ調整+縦方向のナデ調整。口唇面取り。	外面煤け

表4 1区遺物観察表4

図版番号	出土地点	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	特徴	備考
Fig.12-70	ST1	鉢	-	10.8	-	-	チャートの粗砂粒を含む	橙色	叩き成形。内面横ハケ調整。	
〃 -71	〃	〃	-	16.0	-	-	チャートの粗粒砂を多く含む	〃	外面ナデ調整、内面右下がりハケ調整。	
〃 -72	〃	〃	-	15.2	-	-	チャート、頁岩の粗粒砂を多く含む	淡茶色	内外面ナデ調整。	
〃 -73	〃	〃	-	23.0	-	-	チャート他の粗粒砂を多く含む	橙色	外面ナデ調整、内面縦ハケ調整+縦ヘラ磨き。	
〃 -74	〃	〃	-	24.0	-	-	チャートの粗砂粒を含む	〃	口縁部内外面横ナデ。外面は縦方向のハケ調整、内面横ハケ調整。	
Fig.13-75	ST 2	壺	-	16.4	-	-	チャート、長石、他の砂粒を含む	にぶい橙色	口縁部内外面横ナデ調整、口唇部は僅かに摘まみ上げて横ナデ。頸内面横、外面縦方向のハケ調整。	
〃 -76	〃	〃	-	28.8	-	-	長石粒を多く含む	橙色	拡張口縁部が接合部で剥離。一次口縁外面に鋸歯文。口外面横方向の強いナデ、内面は右下がりのハケ調整+横ヘラ磨き。	搬入品の可能性あり
〃 -77	〃	甕	-	13.6	-	-	チャートの粗砂粒を含む	にぶい橙色	叩き成形。口叩き出し。外面縦ハケ+横ナデ、内面右下がりのハケ調整。	
〃 -78	〃	〃	-	16.6	-	-	チャート、他の砂粒を多く含む	にぶい橙色	口縁部外面縦方向のハケ調整、内面横ナデ調整。下端を摘み出し強い横ナデ。	
〃 -79	〃	〃	-	15.4	-	-	赤色風化礫を多く含む	にぶい橙色	口縁部内面横ナデ、胴部外面縦方向のハケ調整。	
〃 -80	〃	〃	-	-	15.0	-	チャートの粗粒砂を多く含む	にぶい赤褐色	叩き成形。外面縦方向のハケ調整、上胴部内面横ハケ調整、下胴部はナデ調整。	外面被熱赤変煤け
〃 -81	〃	〃	-	13.6	-	-	砂粒をほとんど含まない	にぶい黄橙色	叩き成形。口縁部叩き出し、口縁部横ハケ、胴部内面右下がりのハケ調整。上胴部に黒斑。	
〃 -82	〃	鉢	6.2	9.1	-	3.5	チャート他の粗粒砂を多く含む	暗灰色	内外面ナデ調整。外面ヒビ割れ状の亀裂顕著。	
〃 -83	〃	〃	-	15.6	-	-	チャートの粗粒砂を多く含む	にぶい黄橙色	口縁部内外面強い横ナデ。	
〃 -84	〃	底部	-	-	-	5.0	長石、チャート、雲母砂粒を多く含む	にぶい橙色	内外面は縦方向ハケ調整。外底に大きな黒斑あり。	
〃 -85	〃	〃	-	-	-	6.0	チャートの砂粒を含む	褐灰色	外面縦方向のハケ調整。	
Fig.14-86	〃	壺	-	8.3	-	-	チャートの粗砂粒を少し含む	にぶい橙色	外面縦ヘラ磨き、口縁部内面横ハケ、以下ナデ調整。	
〃 -87	〃	〃	-	10.9	-	-	チャートの細粗粒砂を多く含む	〃	口縁部、胴部外面縦ヘラ磨き。内面ナデ調整。	
〃 -88	〃	〃	-	15.0	-	-	チャートの粗粒砂を多く含む	灰褐色	口縁部内外面横方向の強いナデ調整。頸外面縦方向のハケ調整+横ナデ。	
〃 -89	〃	〃	-	16.0	-	-	精選された胎土	灰黄褐色	口縁部内外面横方向のナデ調整+強い横方向の強いナデ調整。外面一部ヘラ磨き。	搬入品の可能性あり
〃 -90	〃	〃	-	18.1	-	-	チャートの粗砂粒を含む	橙色	口縁部内面横ナデ、外面縦方向のハケ調整+ヘラ磨き。	
〃 -91	〃	〃	-	17.8	-	-	チャートの小礫、粗粒砂を多く含む	橙色	外面は縦方向、内面は横方向ハケ調整。	
〃 -92	〃	〃	-	20.0	-	-	チャート他の細粗粒砂を含む	〃	口唇部に3条の凹線。内外面横方向のナデ調整	
〃 -93	〃	〃	-	-	-	-	チャートの粗粒砂を多く含む	にぶい橙色	口縁部は上下に大きく拡張。外面に鋸歯文と横波状文を配す。	
〃 -94	〃	〃	-	18.0	-	-	チャートの粗粒砂を多く含む	〃	口頸外面縦方向のハケ調整+横方向の強いナデ調整、内面横ハケ+横方向の強いナデ調整	

表5 1区遺物観察表5

図版番号	出土地点	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	特徴	備考
Fig.14-95	ST 2	壺	—	14.3	—	—	チャートの粗粒砂を多く含む	浅黄色	叩き成形。口縁部外面縦方向のハケ調整、内面横ハケ調整。胴部内面指ナデ。	
〃 -96	〃	〃	—	—	—	—	チャート他の粗粒砂を多く含む	黄灰色	叩き成形。外面器表剥離。上胴部内面右下がりハケ調整。	
〃 -97	〃	〃	—	17.4	—	—	チャートの粗粒砂を多く含む	にぶい黄褐色	叩き成形。外面縦方向、口縁部内面横方向、胴部内面ナデ調整。	
〃 -98	〃	甕	—	15.3	—	—	チャート、赤色風化礫の細粗粒砂を多く含む	にぶい黄橙色	叩き成形。口縁部叩き出し、外面縦方向のハケ調整、内面右下がりのハケ調整。	上胴部外面の一部被熱赤変
〃 -99	〃	〃	—	19.4	—	—	—	橙色	叩き成形。口縁部外面横ナデ、内面横ハケ調整。胴部外面縦方向の内面横ハケ調整。口唇下方に摘み出し面取り。	外面煤け
〃 -100	〃	〃	—	12.8	—	—	砂粒をほとんど含まない	にぶい黄褐色	叩き成形。口縁部叩き出し、口縁部外面縦方向のハケ調整。口縁部、上胴部内面右下がりのハケ調整。口唇面取り。	
〃 -101	〃	〃	—	22.4	—	—	チャートの細粗粒砂を多く含む	橙色	叩き成形。口縁部外面横ナデ、内面横ハケ調整。胴部外面縦方向ハケ、内面右下がりハケ調整。口唇下方に摘み出し面取り。	
〃 -102	〃	〃	—	22.8	—	—	チャートの粗砂粒を含む	にぶい橙色	叩き成形。口縁部叩き出し、口縁部外面横ナデ、上胴部外面縦方向のハケ調整内。内面右下がりハケ調整。	外面煤け
〃 -103	〃	〃	—	20.6	—	—	〃	〃	叩き成形。口縁部外面横ナデ、内面右下がりのハケ調整。胴部外面縦方向のハケ調整。口縁部、胴部内面右下りハケ調整。内面に粘土紐の接合痕跡あり。	
〃 -104	〃	〃	—	22.4	—	—	チャートの粗砂粒を多く含む	にぶい橙色	叩き成形。口縁部叩き出し、口縁部外面縦方向、内面横ハケ調整。胴部内面ナデ、指頭圧痕顕著。口唇摘み出し横ナデ。	
Fig.15-105	〃	〃	—	15.0	—	—	〃	〃	叩き成形。口縁部外面ナデ、内面横ハケ調整。胴部内面横ハケ調整。	外面煤け
〃 -106	〃	〃	—	15.2	—	—	チャートの粗砂粒を多く含む	にぶい黄褐色	叩き成形。口縁部叩き出し。口縁部外面縦方向のハケ調整+ナデ調整。口縁部内面右下がり、胴部内面横ハケ調整。口唇は面取。	口縁部外面のみ煤け。
〃 -107	〃	〃	—	17.2	—	—	チャート他の粗粒砂を多く含む	〃	叩き成形。口縁部叩き出し、口縁部外面縦方向の内面横方向のハケ調整。口唇面取り。	
〃 -108	〃	〃	—	13.4	—	—	チャートの粗砂粒を多く含む	〃	叩き成形。外面縦方向のハケ調整、内面横ハケ後に下→上のヘラ削り。口唇面取り。	
〃 -109	〃	〃	—	13.6	—	—	〃	〃	叩き成形。口縁部叩き出し、口縁部外面ナデ調整、胴部外面縦方向のハケ調整。口内面横方向、胴内面右下がりのハケ調整。口唇面取り。	
〃 -110	〃	〃	—	17.0	—	—	チャート、頁岩の粗粒砂を多く含む	〃	叩き成形。口縁部叩き出し、口縁部外面ナデ調整、胴部外面縦方向のハケ調整。口内面横方向、胴内面右下がりのハケ調整。口唇面取り。	外面煤け
〃 -111	〃	〃	—	22.8	—	—	チャート、長石、結晶変岩、他の砂粒を多く含む	〃	叩き成形。口縁部外面横ナデ。上胴部内面横ハケ。口唇部上端は摘み上げて横ナデ。	
〃 -112	〃	鉢	—	17.8	—	—	チャート他の粗粒砂を多く含む	〃	外面縦方向の内面横方向のハケ調整。口唇部は摘み出し強く横ナデ。	
〃 -113	〃	〃	6.8	19.0	—	3.4	チャートの粗砂粒を多く含む	〃	叩き成形。内外面右下がりのハケ調整。内面は下半に縦ヘラ磨き。	

表6 1区遺物観察表6

図版番号	出土地点	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	特徴	備考
Fig.15-114	ST 2	鉢	9.3	17.1	—	4.5	チャートの粗砂粒を多く含む	にぶい黄橙色	叩き成形。外面ナデ調整、内面右下がりのハケ調整。口唇部摘み出して横ナデ。下胴部から低部にかけて大きな黒斑あり。	
〃 -115	〃	〃	—	16.4	—	—	〃	〃	口縁部外面縦方向のハケ調整、内面横ハケ。体部外面横、右下がりのハケ調整。体部内面右下がりのハケ調整+一部ヘラ磨き。口唇端部摘み出し強い横ナデ。	
〃 -116	〃	〃	—	24.2	—	—	チャート他の粗粒砂を多く含む	橙色	外面横方向ヘラ削り+横ハケ+ヘラ磨き。内面縦ヘラ磨き。	
〃 -117	〃	〃	10.3	23.4	—	—	〃	にぶい橙色	叩き成形。口縁部叩き出し、内面荒い横ハケ調整。	
〃 -118	〃	高坏	21.2	—	—	—	〃	灰	坏部屈曲部外面に断面三角の突帯を貼付。内外面器表の荒れがひどい。	
〃 -119	〃	〃	—	—	—	—	チャートの粗砂粒を少し含む	にぶい橙色	外面縦ヘラ磨き、内面に絞り目あり。	
〃 -120	〃	〃	—	—	—	—	チャート他の粗粒砂を多く含む	〃	内外面丁寧なヘラ磨き。外面に黒斑あり。	
〃 -121	〃	〃	—	—	—	—	〃	〃	外面は縦方向のハケ調整、内面指ナデ、僅かにしぼりめあり。	
〃 -122	〃	低部	—	—	—	4.0	チャート、赤色風化礫の粗粒砂をく含む	〃	叩き成形。内面ナデ調整。外面に大きな黒斑あり。	
〃 -123	〃	〃	—	—	—	4.6	チャートの粗砂粒を多く含む	灰黄色	叩き成形。外面縦方向のハケ調整、内面ナデ調整。	
〃 -124	〃	〃	—	—	—	4.8	〃	にぶい橙色	〃	外面煤け
〃 -125	〃	〃	—	—	—	4.0	〃	明赤褐色	内外面ナデ調整。	
〃 -126	〃	脚付鉢	—	—	—	7.0	チャート、赤色風化礫の粗粒砂をく含む	にぶい橙色	〃	
〃 -127	〃	壺底部	—	—	—	4.2	チャート他の粗粒砂を多く含む	オリーブ黒	右下がりの螺旋状叩き。内面ナデ。	外面被熱赤変
〃 -128	〃	〃	—	—	—	5.6	チャートの細粗粒砂を多く含む	にぶい黄橙色	外面縦方向のハケ調整。内面ヘラ削り。	
〃 -129	〃	〃	—	—	—	4.0	〃	〃	叩き成形。外面縦方向のハケ調整、内面ナデ調整。	
Fig.16-130	〃	〃	—	—	—	3.6	〃	〃	叩き成形。内外面縦方向のハケ調整。	
〃 -131	〃	〃	—	—	—	4.1	〃	にぶい黄橙色	〃	
〃 -132	〃	〃	—	—	—	4.0	〃	〃	叩き成形。外面縦方向のハケ調整、内面右下がりハケ調整。	外面煤け、一部被熱赤変。
〃 -133	〃	〃	—	—	—	6.0	〃	浅黄色	叩き成形。外面縦方向のハケ調整、内面ナデ調整。	外面全面煤け。
〃 -134	〃	〃	—	—	—	5.0	〃	橙色	叩き成形。外面縦方向のハケ調整、内面縦方向ハケ+ナデ調整。	外面煤け
〃 -135	〃	〃	—	—	—	8.2	チャートの粗砂粒を少し含む	にぶい橙色	叩き成形。内面縦ハケ、低部付近指頭圧痕顕著調整。下胴部から低部に黒斑あり。	
〃 -136	〃	〃	—	—	—	4.6	チャートの粗粒砂を多く含む 赤色風化礫を多く含む	〃	外面は縦方向、内面は右下がりのハケ調整、下胴部は指頭によるナデ。低部付近に黒斑。	
〃 -137	〃	〃	—	—	—	12.0	チャート他の粗粒砂を多く含む	にぶい橙色	外面縦方向のハケ調整、内面指頭圧痕。	
〃 -138	〃	〃	—	—	—	7.0	チャート、赤色風化礫の粗粒砂をく含む	〃	叩き成形。外面部分的に縦方向のハケ調整、内面指ナデ。	
〃 -139	〃	壺底部	—	—	—	11.7	チャートの粗砂粒を多く含む	オリーブ黒	叩き成形。外面縦方向のハケ調整、内面右下がりハケ調整。	

表7 1区遺物観察表7

図版番号	出土地点	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	特徴	備考
Fig.17-140	ST 2	甕	—	14.1	—	—	チャートの粗砂粒を多く含む	にぶい橙色	内外面横ナデ調整。	外面煤け
〃 -141	〃	壺	—	15.4	—	—	チャート、赤色風化礫の粗粒砂を多く含む	〃	〃	
〃 -142	〃	〃	—	22.4	—	—	砂粒をほとんど含まない	〃	口縁部内外面強い横ナデ調整。	
〃 -143	〃	鉢	—	16.0	—	—	長石の細、粗粒砂を多く含む	橙色	口縁部内外面横方向のナデ調整。体部外面横、内面縦方向のヘラ磨。	
〃 -144	〃	〃	—	17.8	—	—	チャートの粗砂粒を多く含む	橙色	内面ナデ、外面右下がりのハケ調整。	
〃 -145	〃	甕	—	—	—	—	チャート、他の砂粒を多く含む	〃	口縁部内面横ハケ、外面ナデ。	
〃 -146	〃	〃	—	—	—	—	チャートの粗砂粒を含む	にぶい橙色	口縁部内外面横ナデ。	外面煤け
〃 -147	〃	〃	—	16.0	—	—	チャート、長石の砂粒を含む	橙色	口縁部外面縦方向のハケ調整、内面横ハケ調整。口唇面取り。	
〃 -148	〃	〃	—	14.8	—	—	チャートの粗砂粒を多く含む	橙色	〃	
〃 -149	〃	〃	—	16.0	—	—	〃	にぶい橙色	叩き成形。口縁部内外面横ナデ。	
〃 -150	〃	〃	—	13.4	—	—	〃	にぶい橙色	叩き成形。口縁部叩き出し、口縁部、胴部外面縦方向のハケ調整。口縁部内面横、胴部内面右下がりのハケ調整。口唇面取り。	二次的に比熱赤変
〃 -151	〃	〃	—	16.8	—	—	チャートの粗砂粒を含む	灰黄色	叩き成形。口縁部叩き出し、口縁部内外面横ナデ調整。口唇面取り。胴部外面縦ハケ、内面縦方向ナデ調整。	
〃 -151	〃	〃	—	18.0	—	—	〃	橙色	口縁部外面強い横ナデ、内面横ハケ。胴部内面指ナデ、下地に下→上のヘラ削りあり。断面に粘土紐の接合痕を認める。	
〃 -153	〃	〃	—	14.8	—	—	〃	〃	叩き成形。外面縦方向のハケ調整、内面横ハケ調整。胴部内面不定方向のヘラ削り。口唇は凹状を呈す。	
〃 -154	〃	〃	—	12.4	—	—	チャートの細粗粒砂を多く含む	〃	叩き成形。口縁部叩き出し、口縁部内外面強い横ナデ調整。胴部内外面ナデ調整。	
〃 -155	〃	甕底部	—	—	—	3.8	チャート、赤色風化礫の粗粒砂を多く含む	にぶい橙色	叩き成形。内面ナデ調整。	
〃 -156	〃	〃	—	—	—	3.2	チャート他の粗粒砂、長石細粒を多く含む	にぶい赤褐色	〃	
〃 -157	〃	壺	—	—	22.0	5.4	チャート他の粗粒砂を多く含む	褐灰色	外面縦方向のハケ調整+ヘラ磨き。内面ハケ状原体の圧痕あり。下胴部～底部に黒斑あり。	
〃 -158	〃	甕	—	—	—	4.0	チャートの細粗粒砂を多く含む	黄褐色	叩き成形。外面縦方向のハケ調整、内面指ナデ調整。外底叩き。	
Fig.18-159	〃	壺	—	22.8	—	—	〃	にぶい黄褐色	内外面器表の剥離が激しい。	
〃 -160	〃	〃	—	24.9	—	—	チャート、頁岩の粗粒砂を多く含む	にぶい橙色	口縁部を上下に拡張し口唇にハケ状原体で刻み目。内面横ナデ。	
〃 -161	〃	〃	—	30.4	—	—	チャート、長石の砂粒を含む	明赤褐色	口縁部内外面横ナデ。頸外面縦、内面横ハケ。口唇面取り。	
〃 -162	〃	鉢	—	12.4	—	—	チャートの粗砂粒を多く含む	にぶい黄橙色	外面ナデ調整、ヒビ割れ状の亀裂。内面右下がりのハケ調整。	
〃 -163	〃	〃	—	19.8	—	—	チャートの細粗粒砂を多く含む	明赤褐色	叩き成形。外面縦方向のハケ調整、内面右下がりハケ調整+ヘラ磨き。	

表8 1区遺物観察表8

図版番号	出土地点	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	特徴	備考
Fig.16-164	ST 2	高坏	-	19.2	-	-	チャートの細粗粒砂を多く含む	浅黄色	口縁部内外面横方向のナデ調整。外面削り+ヘラ磨き、内面ヘラ磨き。	
ク -165	ク	蓋	-	-	-	-	チャートの細粒砂を含む	橙色		
ク -166	ク	鉢	8.3	13.3	-	2.8	チャート、赤色風化礫の粗粒砂を含む	にぶい黄褐色	叩き成形。内外面縦ハケ+ナデ。	
ク -167	ク	ク	-	11.0	-	-	チャート、結晶片岩粒を含む。	明赤褐色	外面上半ナデ、下半ヘラ磨き。内面ナデ。	
ク -168	ク	高坏	-	-	-	-	細粒砂を含む	にぶい黄褐色	坏部が接合部で剥離。外面縦ハケ。脚部に径6mmの円孔あり。	
ク -169	ク	甕	-	15.0	-	-	チャート他の細粗粒砂を含む	にぶい赤褐色	叩き成形。口縁部叩き出し、口縁部外面横ナデ、上胴部外面縦方向のハケ調整内。内面横ハケ調整。胴部外面縦、内面右下がりハケ調整。口唇面取り。	
ク -170	ク	ク	-	20.0	-	-	チャートの細粗粒砂を多く含む	にぶい橙色	口縁部内外面横ナデ、頸内外面右下がりハケ調整。	
ク -171	ク	ク	-	13.0	-	-	チャート他の粗粒砂を多く含む	にぶい橙色	叩き成形。口縁部叩き出し、口縁部、胴部外面縦方向のハケ調整、口縁部内面横ハケ、胴部内面右下がりのハケ調整。上胴部内面縦ハケ調整。	外面煤け
ク -172	ク	底部	-	-	-	-	ク	にぶい黄褐色	丸底。内外面下→上のヘラ削り	
ク -173	ク	ク	-	-	-	3.5	ク	ク	外面縦方向のハケ調整、内面ナデ調整。下胴部に黒斑。	
ク -174	ク	甕底部	-	-	-	3.2	ク	ク	叩き成形。	
ク -175	ク	ク	-	-	-	4.3	ク	にぶい赤褐色	叩き成形。外面縦方向のハケ調整、内面右下がりハケ調整。	
ク -176	ク	壺	-	-	-	-	ク	灰黄色	叩き成形。外面縦方向のハケ調整、内面右下がりハケ調整。	
ク -177	ク	甕底部	-	-	-	8.4	ク	褐色	叩き成形。外面縦方向のハケ調整、内面ナデ調整。	
Fig.19-179	ク	壺	-	15.6	-	-	チャート他の粗粒砂を多く含む	にぶい橙色	口唇面取り。外面縦方向のハケ調整、内面横ハケ。	
ク -180	ク	ク	-	18.0	-	-	チャート、長石の砂粒を含む	にぶい赤褐色	口唇強い横ナデ。口縁部外面縦方向のハケ調整+横ナデ、内面横ハケ+ナデ。	
ク -181	ク	ク	-	16.4	-	-	チャート他の粗粒砂を多く含む	橙色	口唇面取り。口頸部外面縦、内面右下がりのハケ調整。	
ク -182	ク	ク	-	-	-	-	チャートの粗砂粒を多く含む	ク	頸部下端に扁平な突帯貼付。内外面ハケ調整。	
ク -183	ク	ク	-	-	-	-	チャートの砂粒を含む	にぶい黄色	外面縦ハケ+ヘラ磨き、内面ナデ。	
ク -184	ク	ク	-	20.0	-	-	チャートの粗砂粒を含む	にぶい橙色	口縁部内面の拡張部が剥離。内外面強い横ナデ。	
ク -185	ク	ク	-	22.2	-	-	チャート他の粗粒砂を多く含む	灰黄褐色	内外面横ナデ調整。	
ク -186	ク	ク	-	20.6	-	-	チャートの粗砂粒を含む	にぶい黄褐色	口唇部は摘み出して強い横ナデ、口縁部内面横、外面縦方向の強い横ナデ。	
ク -187	ク	ク	-	14.4	-	-	ク	ク	叩き成形。口縁部外面縦、内面横方向のハケ調整。胴部内面横ナデ。内面に粘土帯の接合痕を認める。	
ク -188	ク	ク	-	20.0	-	-	石英、長石の砂粒を多く含む。	灰黄色	叩き成形。口縁部内外面横ナデ、口唇部面取り。胴部外面ナデ+縦ハケ、内面横ハケ、横ナデ。	
ク -189	ク	ク	-	22.2	-	-	チャートの粗砂粒を多く含む	にぶい褐色	二重口縁壺。口縁部内外面横ナデ。頸外面縦ハケ+横ナデ。頸内面横ハケ。	

表9 1区遺物観察表9

図版番号	出土地点	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	特徴	備考
Fig.19-190	ST 2	壺	—	17.7	—	—	チャートの粗砂粒を多く含む	にぶい黄褐色	口縁部外面縦ハケ+横ナデ、内面横ハケ。頸部外面縦ハケ。胴部内面縦ナデ。	
〃 -191	〃	甕	—	18.6	—	—	チャート、他の砂粒を多く含む	〃	叩き成形。外面縦ハケ、内面横ハケ。	
〃 -192	〃	〃	—	17.8	—	—	チャート、赤色風化礫の粗粒砂を含む	〃	叩き成形。外面縦方向のハケ調整。口縁部内面横ハケ、胴部内面右下がりがりハケ。	
〃 -193	〃	〃	—	—	—	—	チャートの粗砂粒を多く含む	にぶい橙色	叩き成形。外面縦、内面横方向ハケ調整。	
〃 -194	〃	〃	—	18.0	24.2	—	〃	橙色	叩き成形。口縁部叩き出し、外面縦方向のハケ調整、内面右下がりのハケ調整。外面に大きな黒斑あり。	
〃 -195	〃	〃	—	—	—	—	〃	にぶい橙色	ヘラ描き沈線を6条まで認める。	
〃 -196	〃	〃	—	15.5	20.2	—	〃	にぶい黄褐色	叩き成形。外面縦方向のハケ調整。口縁部内面横、胴部内面右下がりがりハケ調整。	
Fig.20-197	〃	〃	—	12.9	13.2	—	チャート、赤色風化礫の粗粒砂を含む	にぶい黄褐色	叩き成形。外面縦方向のハケ調整。口頸部内面横ハケ。胴部内面に粘土帯接合痕を認める。	外面煤け
〃 -198	〃	〃	—	14.1	—	—	チャートの粗砂粒を多く含む	にぶい褐色	叩き成形。外面縦方向、口縁部内面横方向、胴部右下がりのハケ調整。	
〃 -199	〃	〃	—	14.0	—	—	〃	にぶい黄褐色	叩き成形。口縁部外面縦ハケ+横ナデ、内面右下がりがりハケ。胴部外面縦、内面ナデ調整。	
〃 -200	〃	〃	—	17.5	—	—	〃	〃	口縁部外面縦ハケ+横ナデ、内面右下がりがりハケ調整。胴部外面縦、内面右下がりがりハケ調整。口唇摘み出して横ナデ。	
〃 -201	〃	〃	—	15.6	—	—	〃	にぶい黄褐色	叩き成形。外面縦ハケ調整。口縁部横ハケ、胴部内面右下がりがりハケ調整。	
〃 -202	〃	〃	—	15.2	16.6	—	〃	にぶい橙色	叩き成形、口縁部叩き出し。内面ナデ調整、上半分指頭圧痕顕著。	
〃 -203	〃	〃	—	12.6	—	—	〃	〃	叩き成形、口縁部叩き出し。口縁部外面ナデ、内面横ハケ。胴部外面縦ハケ、内面右下がりがりハケ+縦方向指ナデ。	
〃 -204	〃	〃	—	16.5	—	—	〃	橙色	叩き成形。口縁部、上胴部外面縦ハケ。口縁部内面右下がりがりハケ。胴部内面指ナデ、指頭圧痕顕著。	
〃 -205	〃	〃	—	14.6	—	—	〃	にぶい黄褐色	叩き成形。口縁部外面横ナデ、内面右下がりがりハケ。口唇面取り。胴部外面縦ハケ、内面上胴部は指頭圧痕顕著、下半は右下がりがりハケ+ナデ。	
〃 -206	〃	〃	—	16.0	—	—	チャート他の粗粒砂を多く含む	明赤褐色	叩き成形。外面縦ハケ、内面指ナデ。下胴部に大きな黒斑あり。	
〃 -207	〃	〃	14.3	13.2	12.2	2.6	チャートの粗砂粒を多く含む	にぶい黄褐色	叩き成形。外面縦方向、口縁部内面横方向、胴部内面ナデ調整。	
〃 -208	〃	壺	—	—	24.0	5.8	〃	〃	叩き成形。胴部外面下半右下がりのハケ調整。内面指頭圧痕顕著、右下がりがりハケ。	
〃 -209	〃	鉢	8.7	14.2	—	5.5	〃	〃	叩き成形。内面縦ハケ。下胴部に大きな黒斑あり。	
〃 -210	〃	〃	6.6	9.8	—	3.0	〃	〃	内外面ナデ調整。外面ヒビ割れ状の亀裂あり。高台状の低部付近に黒斑あり。	
〃 -211	〃	〃	—	9.0	—	—	チャート他の細粒砂を多く含む	明赤褐色	叩き成形。内面ナデ調整。	
〃 -212	〃	〃	—	23.0	—	—	チャート、長石の粗粒砂を含む	〃	叩き成形。内面ナデ調整。	

表10 1区遺物観察表10

図版番号	出土地点	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	特徴	備考
Fig.20-213	ST 2	鉢	—	16.0	—	—	チャートの粗砂粒を多く含む	にぶい黄橙色	外面ナデ調整、内面横ハケ。	
〃 -214	〃	〃	8.0	13.0	—	4.0	チャートの細粒砂を含む	〃	叩き成形。内外指頭圧痕顕著。	
Fig.21-215	〃	〃	—	25.5	—	—	チャートの小礫、粗粒砂を多く含む	明赤褐色	口縁部外面横ハケ+ナデ調整、内面横ハケ。体部外面ヒビ割れ状の亀裂、縦ハケ、内面横ナデ。体部外面に黒斑あり。	
〃 -216	〃	〃	13.2	21.6	20.5	3.2	チャートの粗砂粒を多く含む	橙色	口縁部内外面強い横ナデ。胴部外面縦ハケ、内面上半右下がりハケ、下半指圧ナデ。	
〃 -217	〃	〃	14.0	25.6	—	4.6	チャート他の粗粒砂を多く含む	にぶい橙色	口縁部内外面強い横ナデ。体部外面ナデ、内面横ハケ+ナデ。口唇横ナデ。	
〃 -218	〃	ミニチュア	—	—	—	—	赤色風化礫の粗粒、長石粒を含む	にぶい黄褐色	内面ハケ調整。	
〃 -219	〃	脚部	—	—	—	—	チャートの細粗粒砂を含む	にぶい橙色	外面ナデ+ヘラ磨き、内面横ハケ。	
〃 -220	〃	甕底部	—	—	—	4.6	チャートの粗粒砂を多く含む		叩き成形。外面縦方向のハケ調整、内面指圧ナデ調整。下胴部に黒斑あり。	外面煤け
〃 -221	〃	鉢底部	—	—	—	3.0	〃	にぶい黄褐色	外面は縦方向、内面は横方向ハケ調整。	
〃 -222	〃	甕底部	—	—	—	2.4	チャート、長石の砂粒を含む	〃	叩き成形。外面縦方向、内面右下がりハケ調整。	
〃 -223	〃	〃	—	—	—	4.2	チャート他の粗粒砂を多く含む	にぶい橙色	叩き成形。外面縦ハケ、内面下→上のへら削り+指ナデ。	
〃 -224	〃	〃	—	—	—	2.9	チャートの粗砂粒を多く含む	〃	〃	外面煤け
〃 -225	〃	〃	—	—	—	4.4	〃	〃	外面は縦方向のハケ調整、内面削り。	
〃 -226	〃	底部	—	—	—	6.0	〃	オリーブ黒	外面縦ハケ+ヘラ磨き、内面ハケ。下胴部～外底に大きな黒斑あり。	
〃 -227	〃	〃	—	—	—	6.0	〃	橙色	外面縦ハケ+ヘラ磨き、内面ナデ。	
〃 -228	〃	〃	—	—	—	6.2	〃	にぶい黄褐色	叩き成形。外面ナデ調整。内面縦ハケ+ナデ。外底に大きな黒斑あり。	
Fig.23-229	ST 3	壺	—	16.0	—	—	チャートの粗砂粒を多く含む	橙色	口縁部内外面横ナデ。口唇部丁寧な面取り。頸外面縦、内面横方向のハケ調整。上胴部内面左→右の荒い削り、外面ハケ調整。	
〃 -230	〃	〃	—	12.0	—	—	石英、風化礫の粗粒砂を含む	〃	内面に粘土接合痕を認める。	
〃 -231	〃	〃	—	—	—	—	チャートの粗砂粒を含む	にぶい橙色	外面肩部に竹管状工具による刺突文。外面ハケ、内面左→右の削り、指頭圧痕顕著	
〃 -232	〃	〃	—	27.0	—	—	チャートの粗砂粒を含む	〃	口縁部を大きく下垂させ4条の凹線文+円形浮文を貼付。内面横、外面縦方向のハケ調整。	
〃 -233	〃	〃	—	—	—	—	〃	橙色	内面絞り目あり、外面ナデ。	
〃 -234	〃	鉢	10.2	11.3	—	—	〃	〃	内面に粘土接合痕を認める。外面下→上のへら削り+ナデ。内面ナデ。	外面煤け変色
〃 -235	〃	甕	15.3	12.0	11.2	5.4	〃	にぶい黄褐色	外面荒いナデ+縦ヘラ磨き、内面下→上の削り+ナデ。	
〃 -236	〃	ミニチュア	—	—	—	—	〃	橙色	手づくね	
〃 -237	〃	〃	—	—	—	—	〃	〃	〃	
〃 -238	〃	〃	5.7	5.1	—	3.3	〃	〃	内外面指頭圧痕顕著。	

表11 1区遺物観察表11

図版番号	出土地点	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	特徴	備考
Fig.26-239	ST-4	壺	(3.7)	11.0	-	-	チャート、他の砂粒を含む	橙色	口縁内面	
〃 -240	〃	〃	3.7	14.4	-	-	チャート、他の砂粒を含む	にぶい橙色	強いヨコナデ調整。タテハケ調整。	
〃 -241	〃	〃	(3.7)	16.2	-	-	チャートの粗砂粒を含む	にぶい橙色	口縁内外、強いヨコナデ調整。頸部内面横方向。外面タテ方向のハケ調整。	
〃 -242	〃	〃	(5.1)	-	-	-	チャート、他の粗砂粒を含む	にぶい橙色	内面横、外面縦方向のハケ調整。	
〃 -243	〃	〃	4.2	-	-	-	チャート、頁岩の砂粒を多く含む		内面横、外面縦方向のハケ調整。	
〃 -244	〃	〃	5.1	16.0	-	-	チャート、他の粗粒を多く含む	橙色	口縁は肥厚気味。内外器表の荒れが激しい。	
〃 -245	〃	〃	7.2	15.6	-	-	チャート、赤色風化礫の粗砂粒を含む	にぶい橙色	口唇部、強いヨコナデ調整。口縁部内面横方向、口頸部外面縦方向ハケ調整。	
〃 -246	〃	〃	(6.9)	11.2	-	-	チャート、風化礫の粗砂粒を多く含む	にぶい橙色	口縁部、内外面強いヨコナデ調整。頸部外面タテハケ、内面指頭圧痕が多くみられる。	
〃 -247	〃	〃	(2.3)	19.6	-	-	チャートの粗砂粒を含む	にぶい橙色	内外面、強いヨコナデ調整。口唇はハケ状原体で右下がりの列点文。	
〃 -248	〃	〃	(3.6)	19.4	-	-	チャートの粗砂粒を多く含む	にぶい黄橙色	口縁端部下方につまみ出し、強くヨコナデ調整を施す。外面、タテ、内面横方向ハケ調整。外面に大きな黒斑。	
〃 -249	〃	〃	(2.4)	23.6	-	-	チャート、他の粗粒を含む	にぶい黄橙色	口縁端粘土はりつけにより拡張。口唇波状文。内面右下がり。外面タテ方向ハケ調整。3mm前後の小孔二つ。(焼成前穿孔)	
〃 -250	〃	〃	(4.8)	20.0	-	-	チャートの粗砂粒を多く含む	にぶい橙色	口縁外面弱い列点文。口縁内面ヨコナデ調整。頸部内面横方向、外面タテ方向のハケ調整。	
〃 -251	〃	〃	8.2	17.6	-	-	チャート、長石、他の砂粒を含む	にぶい黄橙色	口縁内外面ヨコナデ調整。他はナデ調整。内面に接合部による段有り。	
〃 -252	〃	〃	(3.7)	22.2	-	-	チャート、他の粗粒を多く含む	にぶい橙色	口縁は下端につまみ出して強いヨコナデ調整。口縁外面右下がり、内面横方向のハケ調整。	
〃 -253	〃	〃	(5.9)	28.0	-	-	チャート、粗粒、長石細粒を含む	にぶい橙色	口縁内面に列点文。口唇、上胴部に圧痕有り、頸部内外面強いヨコナデ調整。	
〃 -254	〃	〃	(15.0)	20.6	-	-	赤色風化礫、チャートの粗粒を含む	浅黄橙色	口縁は上、下に拡張性、強いヨコナデ調整。外面タテハケ調整。叩き成形。頸部内面横、度おう部内面左下がりのハケ調整。	
Fig.27-255	〃	甕	2.0	16.0	-	-	チャートの粗粒を含む		外面タテ、内面横方向ハケ調整。	
〃 -256	〃	〃	3.3	14.0	-	-	チャートの砂粒を少量含む		口縁部内外面ヨコナデ調整。	
〃 -257	〃	〃	4.7	17.2	-	-	チャート、他の粗粒を含む	にぶい黄褐色	叩き成形。胴部内面タテハケ調整。	
〃 -258	〃	〃	5.4	12.0	-	-	チャート、他の粗粒を含む	にぶい黄褐色	叩き成形。口縁内面右下がり。外面タテハケ調整。胴部内面ナデ調整。上胴部に黒斑。	
〃 -259	〃	〃	4.3	17.8	-	-	チャートの粗砂粒を含む	にぶい黄褐色	口縁の内外面ヨコナデ調整。内外面煤け。	
〃 -260	〃	〃	4.7	18.8	-	-	チャートの粗粒を含む	にぶい橙色	叩き成形。口縁叩き出し。	
〃 -261	〃	〃	(5.8)	15.2	-	-	チャート他の粗粒を含む	にぶい褐色	口縁内外面ヨコナデ調整。口唇2条の弱い凹線。胴部外面右下がりハケ調整。内面ナデ調整。	

表12 1区遺物観察表12

図版番号	出土地点	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	特徴	備考
Fig.27-262	ST-4	甕	7.3	16.0	-	-	チャート他の粗粒を多く含む	褐灰色	叩き成形、口縁叩き出し。胴部内面タテハケ+ナデ調整。胴部外面に黒斑。	
ク -263	ク	ク	4.8	19.4	-	-	チャート他の粗粒を含む	にぶい黄橙色	叩き成形、胴部内面タテハケ調整。	
ク -264	ク	鉢	-	-	-	-	長石、チャートの砂粒を含む	橙色	口縁外面、ヨコナデ内面ヨコハケ調整。胴部タテ、右下がりハケ調整。内面右下がりハケ調整。	
ク -265	ク	ク	-	-	-	-	チャート、他の粗粒を含む	橙色	口縁内外面ヨコナデ調整。胴部外面右下がりハケ調整。内面ナデ調整。	
ク -266	ク	ク	5.4	8.0	-	-	チャートの砂粒を含む	灰黄褐色	胴部外面タテ方向、口縁内面横方向の細いヘラ磨き。胴部内面指ナデ調整。	
ク -267	ク	ク	6.3	9.8	-	-	チャートの粗砂粒を多く含む	にぶい黄橙色	叩き成形、内面右下がり、ハケ、外面ナデ調整。内面煤け。	
ク -268	ク	ク	(3.4)	14.7	-	-	チャート、他の粗、細粒砂を含む	にぶい黄橙色	内面ヨコハケ、外面ナデ調整。	
ク -269	ク	ク	(2.7)	14.3	-	-	チャート、他の粗粒を含む	暗灰黄色	外面タテ、内面右下がりハケ調整。外面大きな黒斑。内外面煤け。	
ク -270	ク	ク	(3.7)	18.0	-	-	チャート、他の砂粒を含む	灰黄褐色	口唇面取り、弱い1条の珍背貝。口縁内外面ヨコナデ調整。胴部外面ナデ、内面ハケ+ヘラ磨き調整。	
ク -271	ク	ク	(5.7)	15.0	-	-	チャート、他の粗粒を含む	にぶい橙色	内面横~右あがりのハケ、外面ナデ調整。外面に黒斑。	
ク -272	ク	ク	7.0	16.6	-	-	チャート、他の粗砂粒を含む	にぶい黄褐色	叩き成形。内外ナデ調整。外面に黒斑。わずかに平底。	
ク -273	ク	ク	-	19.8	-	-	チャートの小礫粗砂粒を含む	にぶい橙色	口縁内外面ヨコナデ調整。体部内面ヘラ磨き。	
ク -274	ク	ク	(4.5)	26.6	-	-	チャートの粗粒を多く含む	にぶい黄褐色	外面タテハケ調整。内面剥離。	
ク -275	ク	高杯	(7.9)	-	-	-	チャートの粗粒砂を多く含む	にぶい黄褐色	外面タテハケ、+ヘラ磨き調整。内面ナデ調整。分割成形法。外面煤け、被熱赤変。	
ク -276	ク	ク	-	-	-	-	チャートの粗粒を多く含む	にぶい褐色	内外面器表面剥離。	
ク -277	ク	ク	(4.1)	-	-	-	長石、細砂粒を含む	にぶい赤褐色	外面タテヘラ磨き調整。内面ヨコハケ調整。	
ク -278	ク	ク	(5.2)	-	-	-	チャートの細粗竜裳を含む	にぶい黄褐色	杯部内外面ていねいなヘラ磨き。脚部内面絞り目。外面ナデ調整。	
ク -279	ク	ク	(2.1)	-	14.2	-	精選された胎土	にぶい黄褐色	外面細いタテヘラ磨き。内面タテヘラ磨き。	
ク -280	ク	壺口縁又は高坏	(2.8)	30.2	-	-	チャート他の粗粒を含む	橙色	内外面横ナデ調整	
ク -281	ク	脚	-	-	-	-	精選された胎土	にぶい橙色	端部横ナデ調整。内面横外面縦方向のハケ調整。	
ク -282	ク	高坏	-	-	-	-	細粒砂を含む		外面縦ハケ調整。内面横ナデ調整。	
ク -283	ク	高坏	-	-	-	-	赤色風化礫の粗粒を含む	橙色		器表の荒れが激しい
ク -284	ク	蓋	(3.0)	25.2	-	-	チャートの小礫、粗粒砂を多く含む	灰黄褐色	コウエン	
ク -285	ク	鉢	(3.8)	-	-	1.0	チャートの砂粒を含む	にぶい黄橙	外面縦ハケ、内面ナデ調整。	外面に大きな黒斑
ク -286	ク	底部	(3.15)	-	-	4.4	チャート、他の砂粒	にぶい黄褐色	外面縦ハケ、内面ナデ調整。	底部に黒斑
ク -287	ク	脚付鉢	(5.2)	-	-	7.0	チャートの粗粒砂を多く含む	にぶい橙色	外面縦ハケ、内面指頭圧痕顕著。	

表13 1区遺物観察表13

図版番号	出土地点	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	特徴	備考
Fig.27-288	ST-4	甕	(12.0)	—	—	4.7	チャート、他の粗粒砂を含む 叩き成形	にぶい黄橙	内面横ハケ調整。	
〃 -289	〃		5.3	—	—	10.0	チャートの砂粒を多く含む	鈍い橙色	外面ハケ調整、内面ナデ調整。	下胴部～底部に黒斑
Fig.28-290	〃		(2.5)	—	—	4.3	チャート、他の粗粒砂を含む	鈍い黄褐色	外面、縦ハケ、内面ナデ調整。	
〃 -291	〃		(2.9)	—	—	3.7	チャートの粗粒砂を含む	浅黄色	叩き成形。内面、蜘蛛の巣状のハケ目。	
〃 -292	〃		12.0	—	—	3.0	チャートの粗粒砂を多く含む	にぶい黄橙色	叩き成形。外面縦ハケ、内面下～上の削り+ナデ調整。	下胴部～底部に大きな黒斑有り。
〃 -293	〃		(4.4)	—	—	4.8	チャートの砂粒を含む	黄灰色	外面タテハケ、内面ナデ+ヘラミガキ調整。底部に焼成後穿孔有り。一つは径5mmで貫通、他は径3mmで貫通せず。	
〃 -294	〃		7.0	—	—	6.4	チャート他の粗粒を多く含む		叩き成形。外面タテハケ+ヘラミガキ、内面ナデ調整。	
〃 -295	〃		(9.75)	—	—	12.2	チャート、赤色風化礫の粗粒を含む	にぶい橙色	内面、ナデ外面タテハケ、外底もハケ調整。	
〃 -296	〃		(11.75)	—	—	6.6	チャートの粗粒差を多く含む	濁灰色	叩き成形。外面タテハケ、内面ナデ、凹凸が激しい。	
〃 -297	〃	甕	11.9	—	—	—	チャート、他の粗粒砂を含む	黄褐色	叩き成形外面撫で、内面ハケ+指頭によるタテナデ。	外面煤け
〃 -298	〃		15.2	—	—	—	チャートの砂粒を多く含む	にぶい黄橙色	外面撫で、内面右下がりハケ+私党によるタテ方向撫で調整。	内外面煤けるも直接火にあたった痕跡無し。
〃 -299	〃		21.8	—	—	5.0	チャートの粗粒砂を多く含む	浅黄色	叩き成形成形。外面強いナデ+タテヘラミガキ、下半タテハケ+タテナデ調整	下胴部に大きな黒斑
〃 -300	〃	転用円盤(甕)	—	—	—	—	チャートの砂粒を含む	にぶい褐色		3.5×3.1の楕円形
〃 -302	ST4-P12	土師器椀	(2.3)	—	—	5.4	精選された胎土		張り付け高台、高台径0.4cm、高5mm、外底糸切り	内外、器表の荒れが激しい。
〃 -303	ST-4	土師器皿	(1.8)	15.8	—	—	砂粒を含まず	浅黄色	口縁部つまみ出し、横方向に強いナデ調整	
〃 -304	〃	土師器皿	2.95	15.1	—	7.9	精選された胎土	浅黄褐色	ない外面ヨコナデ調整。ろくろ成形。糸きり。	
Fig.29-305	ST 5	小皿	2.0	8.6	—	4.0	チャート、長石の砂粒を含む	浅黄褐色	手づくね。灯明皿。	口縁に煤付着
〃 -306	〃	鉢	5.0	16.0	—	—	チャート、他の粗粒砂を含む	明褐色	叩き成形	
〃 -307	〃	甕	7.7	—	—	3.2	チャートの粗粒砂を多く含む	黒褐色	叩き成形。外面縦方向のハケ調整、内面ヨコハケ調整。	
Fig.32-309	ST6	壺	(5.6)	6.2	—	—	チャート、他の細、粗粒砂を含む	にぶい橙色	口縁内外横ナデ。外面縦、内面右下がりハケ調整。	
〃 -310	〃	壺	(3.1)	15.5	—	—	角閃石、長石、雲母を多く含む	にぶい黄褐色	口縁内外面強い横ナデ。口縁端部摘み上げ。胴部内面ヘラ削り	搬入品
〃 -311	〃	甕	(6.2)	11.2	—	—	チャート、他の粗粒を多く含む	にぶい褐色	叩き成形。口縁部叩き出し、口縁部内面横ハケ調整。胴部内面指頭による縦ナデ。	
〃 -312	〃	〃	(5.1)	13.0	—	—	チャート、赤色風化礫含む		叩き成形。口縁部内外面右下がりのハケ調整。胴部内面右下がりのハケ調整。	305
〃 -313	〃	〃	(4.0)	14.6	—	—	チャートの砂粒を多く含む	にぶい黄褐色	叩き成形。口縁部叩き出し+横ナデ、内面右下がりハケ調整。	
〃 -314	〃	〃	(5.9)	15.3	—	—	チャート、他の粗粒を含む	にぶい黄褐色	叩き成形。口縁部叩き出し、口縁部内面下右下がり。胴部内面指頭による縦ナデ。	

表14 1区遺物観察表14

図版番号	出土地点	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	特徴	備考
Fig.32-315	ST6	甕	(6.1)	15.1	-	-	チャート、他の粗粒を多く含む	にぶい橙色	叩き成形。口縁部叩き出し、胴部内面右上下がりのハケ調整。	
〃 -316	〃	〃	(7.85)	15.6	-	-	チャート、他の砂粒を少量含む	にぶい赤褐色	口縁内面ハケ調整。胴部外面ナデ、内面指頭による縦ナデ。叩き成形。	
〃 -317	〃	〃	(4.6)	19.2	-	-	チャート、長石の砂粒を含む	にぶい赤褐色	外面縦ハケ調整	
〃 -318	〃	〃	(6.0)	14.4	-	-	チャート、他の粗粒を含む	にぶい橙色	叩き成形。口縁外面ナデ、内面横ハケ調整。胴部内面縦ナデ。	
Fig.33-319	〃	〃	15.75	12.8	-	3.2	チャート、他の粗粒を含む	にぶい赤褐色	叩き成形。口縁部叩き出し、口縁部外面指押さえ。胴部内面右下がりがりハケ+指ナデ。	
〃 -320	〃	〃	17.7	-	-	3.7	チャートの砂粒を含む	にぶい橙色	叩き成形。口縁部叩き出し、口縁部外面ナデ、内面右下がりがりハケ調整。内面縦方向のナデ。	外面全面煤け。被熱赤変
〃 -321	〃	〃	19.3	16.0	-	3.0	チャートの砂粒を含む	橙色	叩き成形。口縁内面横ハケ調整、外面ナデ。胴部内面ナデ、外面縦ハケ調整。	底部焼成前穿孔(径1cm)
〃 -322	〃	〃	(15.25)	17.9	-	-	チャートの粗粒を含む	にぶい黄褐色	叩き成形。口縁部叩き出し、口縁部内面右下がりがり。胴部内面縦ハケ調整。	
〃 -323	〃	壺	(23.9)	14.2	-	-	チャートの砂粒を含む	にぶい橙色	胴部叩き成形。口縁叩き出しにあらず、口縁外面ナデ、内面右下がりがりハケ調整。胴部外面上部、下胴部縦ハケ調整。内面縦ナデ。	上胴部内面に粘土接合痕あり
〃 -324	〃	甕	15.0	-	-	-	チャートの砂粒を含む	にぶい黄褐色	叩き成形。内面上半右下がりがりハケ調整、下半縦ハケ調整。	内、外面煤け
〃 -325	〃	〃	(11.45)	-	-	3.0	チャートの粗粒を多く含む	にぶい黄褐色	叩き成形。外面縦ハケ調整、内面下→上のヘラ削り+荒い縦方向ナデ。	外面に大きな黒斑あり
〃 -326	〃	〃	22.9	-	-	-	チャートの砂粒を含む	黄褐色	叩き成形。外面縦ハケ調整、内面縦方向ナデ。	丸底
〃 -327	〃	〃	(16.5)	-	-	5.4	チャートの砂粒を含む	にぶい黄褐色	叩き成形。内面ナデ。	外面煤け
Fig.34-328	〃	〃	(9.7)	-	-	-	チャートの粗粒を多く含む	にぶい黄褐色	叩き成形。外面縦ハケ調整、内面ナデ。	
〃 -329	〃	〃	(4.6)	-	-	3.4	チャート、赤色粗細粒砂を含む	橙色	叩き成形。内面ナデ。	
〃 -330	〃	〃	7.5	-	-	2.0	チャート、他の粗粒を多く含む	灰黄褐色	叩き成形。内面ナデ。	
〃 -331	〃	〃	5.0	-	-	3.0	チャート、他の砂粒を含む	にぶい黄褐色	外面ナデ。内面右下がりがりハケ調整、底部付近ヘラ磨き	体部下半から底部に黒斑
〃 -332	〃	〃	(4.6)	-	-	3.2	チャート小礫、粗粒砂を多く含む	黄灰色	叩き成形。外面縦ハケ、内面縦ハケ調整。底部指頭圧痕。	
〃 -333	〃	〃	5.7	-	-	3.4	チャートの砂粒を多く含む	明赤褐色	叩き成形。外面縦ハケ調整、内面ナデ。	体部下半から底部煤け、被熱赤変
〃 -334	〃	〃	(8.6)	-	-	4.2	チャート、他の粗粒を多く含む	褐灰色	叩き成形。内面指頭による縦方向ナデ。	体部下半から底部外面煤け
〃 -335	〃	〃	6.0	-	-	3.6	チャートの砂粒を多く含む	にぶい橙色	叩き成形。外面縦ハケ調整、内面ナデ。	体部下半から底部外面煤け、被熱赤変
〃 -336	〃	鉢	(2.1)	-	-	2.2	チャートの砂粒を含む	にぶい橙色	外面ナデ。内面ハケ調整+ヘラ磨き	体部下半から底部外面煤け、被熱赤変
〃 -337	〃	〃	-	-	-	4.2	チャート、他の砂粒を含む	黄灰色	叩き成形。内外面ナデ。平底。	外面煤け
〃 -338	〃	〃	(4.1)	12.3	-	-	チャート、他の粗粒を含む	にぶい橙色	外面ナデ。内面右ハケ調整。外面ひび割れ状の亀裂が入る。	
〃 -339	〃	〃	(4.0)	16.2	-	-	チャートの砂粒を少量含む	橙色	口縁端部つまみ出して強い横ナデ。内面横ナデ。外面ひび割れ状の亀裂多い。	

表15 1区遺物観察表15

図版番号	出土地点	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	特徴	備考
Fig.34-340	ST6	鉢	6.6	10.7	-	-	チャートの粗粒砂を多く含む	にぶい橙色	叩き成形+ナデ。内面右下がりハケ調整。ほとんど丸底。	
〃 -341	〃	〃	5.6	8.8	-	2.0	チャート、他の粗粒を含む	橙色	外面ナデ。内面右下がりハケ調整	
〃 -342	〃	〃	(4.35)	14.5	-	-	チャート、他の粗粒を含む	にぶい黄橙色	口唇面有り。内面右下がりハケ。外面ナデ。	
〃 -343	〃	〃	(4.2)	14.0	-	-	チャート、風化礫の砂粒を含む	にぶい橙色	叩き成形。外面ナデ。内面右下がり。	
〃 -344	〃	〃	6.0	-	-	-	チャート、他の粗粒砂を多く含む	赤褐色	外面ナデ、ひび割れ状の亀裂が入る。内面ハケ調整。	
〃 -345	〃	〃	7.4	10.4	-	-	チャートの粗粒砂を多く含む。	鈍い橙色	口縁内外ヨコナデ体部内外面ナデ調整。丸底。	
〃 -346	〃	〃	6.6	14.6	-	-	チャート、他の砂粒を含む	橙色	叩き成形。外面ナデ調整。ヒビ割れ状の亀裂。内面右下がりハケ調整+ナデ調整。	
〃 -347	〃	〃	5.1	18.6	-	-	チャート、砂粒を含む。	明黄褐色	叩き成形。外面右下がりハケ調整。内面ナデ調整。	
〃 -348	〃	〃	-	13.2	-	-	チャート、他の砂粒を多く含む。	浅黄橙	外面ヒビ割れ状の亀裂顕著。ナデ調整。内面上半ハケ調整。下半ナデ調整。	
〃 -349	〃	〃	7.8	13.6	-	3.8	チャートの粗粒砂を多く含む	鈍い橙色	口縁部内外面ヨコナデ調整。体部外面縦調整。内面ヨコハケ調整。外面ヒビ割れ状の亀裂が多く走る。	
〃 -350	〃	〃	7.7	16.9	4.1	-	チャート、他の砂粒を含む	にぶい橙色	口縁内外面強いヨコナデ調整。外面ヒビ割れ状の亀裂顕著。タテハケ調整。	
〃 -351	〃	高杯脚部	(4.0)	-	-	-	チャートの砂粒を含む。	橙色	内面ハケ調整。外面ハケ調整。+ヘラミガキ調整。	
〃 -352	〃	〃	(2.4)	-	-	13.6	チャートの粗粒を多く含む	にぶい橙色	外面ハケ調整。	
〃 -353	〃	〃	(1.3)	-	-	8.1	精選された胎土	鈍い黄橙色	内面に叩き目顕著。	
〃 -354	〃	土師器杯	(2.6)	-	-	6.9	精選された胎土	灰黄色	底部糸切り。内外面ロクロ成形による目あと顕著。底部断面意円盤の張りつけ痕跡を認める。	
Fig.36-355	〃	壺	2.0	16.3	-	-	砂粒をほとんど含まない	灰黄褐色	口縁拡張し、3条ににぶい凹線。内外面強いヨコナデ調整。	
〃 -356	〃	〃	(1.25)	18.0	-	-	チャートの砂粒を含む。	橙色	外面、タテハケ調整。内面ヨコハケ調整。	
〃 -357	〃	〃	8.0	-	-	-	チャートの砂粒を多く含む。	赤褐色	内外器表面の剥離が激しい。被熱による赤変。	
〃 -358	〃	〃	(3.0)	17.5	-	-	チャートの砂粒を含む。	にぶい橙色	内外面ヨコナデ調整。	
〃 -359	〃	甕	(2.5)	17.0	-	-	チャート、赤色風化礫を多く含む。	にぶい黄橙色	内外面ヨコナデ調整。	
〃 -360	〃	壺	-	-	-	-	チャート、結晶変岩粒を含む。		口縁端部上下に拡張。口唇に3条の凹線。ハケ状原体による圧痕。口縁内外面強いヨコナデ調整。内面に2帯の櫛描波状文。	
〃 -361	〃	甕	5.3	17.4	-	-	チャートの粗粒を少し含む。	橙色	外面タテハケ調整。口縁内面ヨコハケ調整。胴部内面ヨコナデ調整。上胴部内面に粘土帯接合痕をみとむ。	
〃 -362	〃	〃	(6.1)	15.8	-	-	チャート、他の砂粒を多く含む。	にぶい橙色	口縁外面ナデ調整。内面ヨコハケ調整。胴部外面右下がりハケ調整。内面下から上へ削り。ヘラケズリ調整。東阿波模倣か？	
Fig.37-363	〃	鉢	5.7	-	-	18.0	チャート、他の砂粒を含む。	明赤褐色	叩き成形。外面ナデ調整。ヒビ割れ状の亀裂顕著。	
〃 -364	〃	蓋	(1.9)	-	-	21.0	チャートの砂粒を少量含む。	橙色	外面でいねいなヘラ磨き。内面右下がりハケ調整。	

表16 1区遺物観察表16

図版番号	出土地点	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	特徴	備考
Fig.37-365	ST6	鉢	5.0	20.6	—	—	チャートの砂粒を含む。	橙色	内外面ヨコナデ調整。	
〃 -366	〃	底部	(2.8)	—	—	7.0	チャートの砂粒を含む。	にぶい黄橙色	内外面ハケ調整。	
〃 -367	〃	〃	(4.4)	—	—	4.1	チャートの砂粒を含む。	にぶい黄橙色	外面ナデ調整。内面ハケ+ナデ調整。	
Fig.38-368	〃	壺	(4.8)	19.0	—	—	チャート、他の砂粒を含む。	明赤褐色	内面ヨコ、外面右ハケ調整。	
〃 -369	〃	鉢	6.2	11.4	—	3.9	砂粒をほとんど含まない。	にぶい橙色	外面ナデ、内面ヨコハケ調整。	
〃 -370	〃	〃	6.0	14.0	—	—	赤色風化礫の細粒を多く含む。	橙色	内面右ハケ、+一部へラ身が生き。外面ヨコハケ調整。	
〃 -371	〃	〃	(4.6)	24.6	—	—	チャートの砂粒を含む。	黒色	叩き成形。内外面右のハケ調整。外面黒斑。	
〃 -372	〃	〃	4.5	14.0	—	—	砂粒をほとんど含まない	にぶい橙色	内面、右のハケ調整。外面ナデ調整。	
〃 -373	〃	縄文晩期深鉢	—	—	—	—	チャートの砂粒を多く含む。	灰黄褐色	口唇部刻み目。外面横位条痕+ナデ調整。内面ナデ調整。	外面煤け
〃 -374	〃	鉢	(5.6)	19.4	—	—	チャートの砂粒を含む。	橙色	内面右ハケ、外面右ハケ調整の際に砂粒が上から直下に動いている。	
〃 -375	〃	〃	3.9	—	—	7.0	チャートの砂粒を含む。	にぶい黄橙色	叩き成形。内面ナデ調整。	
〃 -376	〃	〃	3.8	—	—	3.2	チャート、他の砂粒を含む。	にぶい黄橙色	内外面ナデ調整。	

表17 1区鉄器観察表

図版番号	出土地点	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
Fig.40-377	ST2	石鎌	4.5	1.6	0.9	5.5
〃 -378	ST1	〃	5.1	1.8	0.5	7.9
〃 -379	ST4	〃	8.2	2.4	0.4	16.5
〃 -380	〃	袋状斧	8.6	2.8	0.6	25.6
〃 -381	〃	摘み鎌	6.6	1.9	0.5	14.8

表18 II区遺物観察表1

図版番号	出土地点	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	特徴	備考
Fig.45-1	SD-1、 上層	土師器・坏	2.6			6.0	赤色風化礫を多く含む	にぶい褐色	ロクロ成形、内外面ヨコナデ、円盤状高台	糸切り
〃 -2	〃	〃	3.6			4.4	精選された胎土	〃	ロクロ成形、ヨコナデ、内外ススケ	〃
〃 -3	〃	〃	3.2	12.0		6.0	〃	内面、にぶい橙 外面、褐灰色	ロクロ成形、内外ヨコナデ	〃
〃 -4	〃	〃	3.8	9.7		4.8	チャートの粗粒砂を少し含む	内外面 橙	ロクロ成形、ヨコナデ	〃
〃 -5	〃	須恵器・壺		5.5		7.2	精選された胎土		内外面ヨコナデ、貼付高台、畳付けは凹状	
〃 -6	〃	備前・播り鉢	5.0			14.0	比較的精選された胎土	内外面 橙	条線は6状単位	
〃 -7	〃	瓦質・鍋	33.0	23.5			精選された胎土	灰色	内外面ヨコナデ	
〃 -8	〃	瀬戸・瓶子					白黄色で粗い		肩部外面に櫛描き波状文、黄黒色の釉	口縁、胴部が接合部から剥離
〃 -9	〃	須恵器・壺	3.0	13.2			精選された胎土	黒褐色	内外面ヨコナデ、内外面自然釉	
〃 -10	〃	青花・椀	2.1	11.2			白色やや粗い		釉は透明で貫入、呉順は暗緑色に発色、外面波濤文と芭蕉葉、内面	椀 C群 15C後半～16C前半
〃 -11	〃	白磁・椀					白色精緻な胎土		玉縁状口縁	
〃 -12	〃	瓦質・鍋					チャート他の粗細粒を含む	内外面灰色	口縁内外ヨコナデ、断面三角鋸状突帯	
〃 -13	〃	〃					精選された胎土	灰色	内外ヨコナデ、口唇凹状	
〃 -14	〃	白磁・椀					灰白色精緻		釉は白濁色、玉縁状口縁	
〃 -15	〃	須恵器・壺					精選された胎土	内外灰茶色	内外面ヨコナデ	
〃 -16	〃	瓦器 三足鍋の足	全長5.4 全幅2.1 全厚1.9				チャートの粗粒砂を多く含む	黄白色		
〃 -17	SD-1、 中層	土師器・椀	2.1			7.4	精選された胎土	にぶい橙	チャート、赤色風化礫を少し含む	内外面摩耗、高台欠落
〃 -18	〃	土師器・坏	2.2			9.0	チャート、雲母粒を多く含む	にぶい黄橙	ロクロ成形、内外ヨコナデ	糸切り
〃 -19	〃	須恵器・坏	9.0			10.0	精選された胎土		チャート、長石を含む	
〃 -20	〃	〃	8.0			9.5	〃		内外ヨコナデ、底ナデ	底部ヘラ切り
〃 -21	〃	土師器・坏	3.9			4.0	〃			
〃 -22	〃	〃	1.6			6.0	〃	にぶい黄橙	ロクロ成形、内外ヨコナデ	糸切り
〃 -23	〃	〃	1.4			8.0	〃	内外橙		
〃 -24	〃	〃	1.5			6.0	赤色風化礫を多く含む	明黄褐色	ロクロ成形、内外ヨコナデ	糸切り
〃 -25	〃	鉢	2.7			8.4	石英、長石の粗細粒を多く含む		外面粗雑なナデ	〃
〃 -26	〃	弥生後期・甕	5.1			4.0	チャートの粗粒砂を多く含む	にぶい橙	外面タテハケ、内面ナデ	
〃 -27	〃	〃	4.5			5.0	チャートの粗粒砂を多く含む	内面橙、外面に ぶい橙	外面叩きにタテハケ、内面ナデ	
〃 -28	〃	青花・小皿	1.6			4.6	白色精緻	灰白色	高台は細長い、外面に 圈線、釉は透明	
〃 -29	〃	備前・甕	4.0			18.6			内外面に自然釉	
Fig.46-30	〃	東播系 捏ね鉢	2.0			12.0	長石、石英粒を多く含む	暗灰色	内面摩耗が顕著、外面粗いナデ	

表19 II区遺物観察表2

図版番号	出土地点	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	特徴	備考
Fig.46-31	SD-1、 中層	瓦質・鍋	4.8	23.3			精選された胎土	灰色	口縁部内外ヨコナデ、 口唇凹状、胴部内面ヨ コナデ	
〃 -32	〃	青磁・皿	2.7	12.8			白色堅緻		外面に連弁、釉は青緑 色	
〃 -33	〃	瓦質・鍋	4.0	14.0			精選された胎土	灰色	口縁内傾、口唇は面取 り、は外面に粘土帯の 接合部有り	
〃 -34	〃	青磁・皿					白色でやや粗い		釉は青緑色、貫入、体 部内面に丸ノミによる 連弁	
〃 -35	〃	瓦質・鍋	3.3	20.8			チャート、他の 細粒砂を含む、		口縁部内外面ヨコナデ、 口縁下に断面三角の突 帯	
〃 -36	〃	瓦質・鉢	3.3	24.0			チャート、他の 粗細粒砂を含む	内面、白灰色 外面、灰色	胴部外面に指頭圧痕顕 著	
〃 -37	〃	須恵器・壺					石英、長石粒を 多く含む		内外ヨコナデ	
〃 -38	〃	土師器・坏	3.4	12.0			精選された胎土	橙色	リクロ成形、内外ヨコ ナデ	
〃 -39	〃	白磁・小皿	2.8	12.5			白色堅緻	内外面白色	口縁端部尖り気味	畳付け露胎
〃 -40	〃	白磁・皿	2.8	12.7			白色堅緻	内外面白色	内底に目跡有り	
〃 -41	〃	青磁・椀					灰色堅緻		釉は透明度の有るうす 緑色、外面は稿蓮弁文	
〃 -42	〃	〃					灰色堅緻		釉は透明度の有るうす い緑、外面稿蓮弁文	
〃 -43	〃	瓦質・鍋					チャート、他の 粗細粒砂を含む	内外面灰色	口縁部内外ヨコナデ、 口縁下に断面三角の突 帯有り	
〃 -44	〃	白磁・小皿					白色でやや粗い		釉は透明で細かな貫入	
〃 -45	〃	白磁・椀					〃		玉縁状口縁	
〃 -46	〃	土師器・土鍋					赤色風化礫を多 く含む	内外面浅黄橙	口縁部内外強い横ナデ	体部外面ススケ
〃 -47	〃	鉄器	全長4.9 全幅1.35 全厚0.85 重量5.59					赤茶色		錆が著しい
〃 -48	〃	〃	全長4.4 全幅1.4 全厚1.05 重量7.45 孔径0.45					〃		〃
〃 -49	〃	〃	全長6.8 全幅2.0 全厚1.6 重量16.12					〃		〃
〃 -50	SD-1下層	弥生後期・鉢	1.9			4.0	チャートの粗粒 砂を含む	内面黒褐色 外面にぶい橙	内面黒斑	
〃 -51	〃	青磁・椀	3.0			6.0	灰色でやや荒い	釉は緑濁色でや や厚くかかる	外底は蛇の目状にかき とる、露胎部褐色に発 色、畳付も施釉	
〃 -52	〃	須恵器・壺	5.0			12.6	チャートの砂粒 を含む		内外面ヨコナデ、しっ かりした高台がハ字状、 畳付け凹状	
〃 -53	〃	青磁・椀					灰白色堅緻		釉は緑濁色、外面稿蓮 弁文	
〃 -54	〃	須恵器・甕					精選された胎土	内外面 灰色	口縁ハ肥厚しやや下垂 気味、内外面強いヨコ ナデ	
〃 -55	〃	白磁・椀	3.4	17.8			灰白色堅緻		胴部外面左から右に削 り	

表20 II区遺物観察表3

図版番号	出土地点	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	特徴	備考
Fig.46-56	SD-1下層	瓦質・鍋	4.4	29.0			砂粒をほとんど含まない	内外面 灰色	口縁部内外面ヨコナデ、胴部内面ヨコハケとナデ、口唇凹状	
〃 -57	〃	須恵器・甕					チャートの小礫を含む		外面強いヨコナデ、内面右⇔左の削り	
〃 -58	〃	〃	6.0				チャートの細粒砂を含む	内外面 灰色	口縁内外ヨコナデ、胴部内面青海波をナデ消す	
Fig.47-59	SD-1床	土師器・坏	1.7			8.0	精選された胎土	内外面 橙色	ロクロ成形、内外ヨコナデ	糸切り
〃 -60	〃	〃	2.4			7.4	〃	〃	〃	〃
〃 -61	〃	〃	3.7			6.0	〃		ロクロ成形、内外ヨコナデ 外面ロクロ目顕著	
〃 -62	〃	須恵器・坏					〃	内外面 灰色	体部内外面ヨコナデ、貼付高台	外底ヘラ切り
〃 -63	〃	白磁・椀	2.3			5.0	白色堅緻な胎土		断面台形の削りだし高台、内底に圈線有	
〃 -64	〃	青磁・椀	1.5			5.3	灰色堅緻な胎土		釉は透明度の有るうすいブルー、高台外面畳付けまで施釉	
〃 -65	〃	須恵器・甕					精選された胎土	内外面 灰褐色	内外面 ヨコナデ、外面自然釉	
〃 -66	〃	瓦質・鍋	4.5	14.4			チャート 他の細粒砂	内外面 暗灰色	口縁下に断面三角の太い突帯、口縁部内外突帯上下ヨコナデ、胴部外面ナデ	
〃 -67	〃	須恵器・甕	4.5				精選された胎土	〃	内面 ヨコナデ、外面平行叩き	
〃 -68	〃	瓦質・鍋	3.5	18.0			チャート 他の砂粒を多く含む	内外面 灰白色	口縁部外面肥厚、口縁内外面ヨコナデ、胴部外面指頭圧痕有り	
〃 -69	〃	須恵器・甕					精選された胎土	内外面 灰色	内外面 ヨコナデ、内面に自然釉	
〃 -70	〃	瓦質・鍋	3.0	19.0			〃	内外面 灰白色	口縁内外面ヨコナデ、胴部外面指頭圧痕	
〃 -71	SD-1上層	土釜		14.5	29.8		石英 他の細粒砂を含む	内外面 淡茶色	口縁は垂直に近く立ち上がり、胴部中位に幅2cmのしっかりした鐔がめぐる、口縁部内外に丁寧なヨコナデ、体部外面ヨコハケとヨコナデ、内面ナデ	
〃 -72	SD-1埋土	備前・甕	47.2	19.0		22.0	石英 他の粗粒砂を含む	内外面 赤茶色	肩部に櫛描き波状文、口縁から上胴部に自然釉	
〃 -73	SD-1上層	土錘	全長4.5 全幅1.5 全厚1.4 重量8.3							
〃 -74	SD-1中層	〃	全長4.9 全幅1.9 全厚1.9 重量8.3							
〃 -75	SD-1下層	〃	全長4.0 全幅1.2 全厚1.3 重量5.12							
〃 -76	〃	〃	全長4.3 全幅0.9 全厚0.9 重量2.34							
Fig.48-77	SD-1埋土	瀬戸・瓶子	3.0			10.5	精選された胎土、堅緻		外面、外底灰釉	
〃 -78	〃	白磁・椀					灰色 堅緻	内外面 灰色	高台は断面台形の削り出し高台、釉は濁っている	

表21 II区遺物観察表4

図版番号	出土地点	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	特徴	備考
Fig.48-79	SD-1埋土	須恵器・壺	2.7			10.2	精選された胎土	内外 灰色	左←右の弱い削り、内外ヨコナデ	
〳-80	〳	備前・甕	9.0			14.7	長石 石英の粗粒砂を多く含む	内面 灰褐色 外面 橙色	外面タテハケ 内面ヨコナデ	
〳-81	〳	青花・小皿	1.3			6.0	白色精緻	内外面灰白色	高台は内傾し、畳付けは釉剥ぎ、高台脇に1条の圏線、釉は透明、内面玉取獅子文、外面唐草文	
〳-82	〳	瓦質・鍋	5.0	23.0			チャートの細粗粒砂を含む	内外面灰色	口縁部内湾、口縁下に鐔を意識した弱い肥厚有り	
〳-83	〳	瀬戸・卸皿					黄白色でやや粗い		口縁内外面施釉	
〳-84	SK-1	弥生後期・甕	3.1	20.0			チャート他の粗細粒砂を多く含む	内外面 茶色	内外面ナデ調整	外面ヒビ割れ状の亀裂
〳-85	〳	弥生後期・壺					赤色風化礫の粗細粒砂を多く含む	内外面 橙色	外面縦ハケ、内面横ハケ	
〳-86	P4	土師器・坏	1.8	10.7			精選された胎土	内外にぶい橙	ロクロ成形 内外ヨコナデ	
〳-87	P1	弥生後期・壺		5.5		6.8	チャートの粗粒砂を多く含む	内面 橙色、外面にぶい橙色		
〳-88	包含層	土師器・坏底	2.1			3.0	赤色風化礫を含む全体に精選された胎土	内外面 橙色	ロクロ成形 内外ヨコナデ 円盤状高台	糸切り
〳-89	〳	土師器・坏	1.3			4.4	精選された胎土	内外面 橙色	ロクロ成形、内外ヨコナデ	〳
〳-90	〳	須恵器・壺	2.3			12.0	〳	内外面 灰色	しっかりした高台がハ字状に踏ん張る、畳付けは凹状、外底部はナデ	〳
〳-91	〳	青花・椀	1.2			7.0	白色 精緻	内外面 灰白色	高台畳付けは露胎 釉は透明、高台内施釉 畳付けは釉剥ぎ取り、外面草花文、内面山水人物	16C末~17C初頭
〳-92	〳	弥生後期・甕	2.0	14.0			チャートの粗粒砂を含む	内外面にぶい橙	口縁外面 縦ハケ、ヨコナデ 内面 ヨコハケ、ヨコナデ	
〳-93	〳	須恵器・坏		14.0			精選された胎土	内外断面 灰色	内外 ヨコナデ	
〳-94	〳	須恵器・壺				14.5	〳	内外面 灰色	内外面 ヨコナデ、外面自然釉	
〳-95	〳	瓦質・播り鉢					灰白色精緻な胎土	内面 灰白色 外面 灰色	口唇と口縁内面強いヨコナデ、内面に糸線	
〳-96	〳	瓦質・鍋	4.1	17.5			チャートのその他の粗粒砂を多く含む	内外面 灰白色	口縁外面三角突帯、口縁内外面ヨコナデ	

写真図版



I 区調査前全景 (南から)



同上 (南西から)



ST1・2土器集中(1~3群)の土器出土状況



ST2土器集中(2群)出土状況



ST1セクションベルト(南から)



ST2セクションベルト(南から)



ST2完掘状況(東から)



ST1・2完掘状況(北西から)



ST3セクションベルト・土器出土状況（東から）



ST3完掘状況（東から）



ST4セクションベルト (南から)



ST4床面中央集石検出状況 (東から)



ST4床面集石検出状況



同上



ST4床面集石検出状況



同上



ST5セクション (南から)



ST5完掘状況 (南から)



ST6集石とセクションベルト (東から)



同上 (北から)



ST6完掘状況 (北から)



同上 (東から)



ST7完掘状況(北から)



I区完掘状況(南から)



I 区遺物出土状況



Ⅱ区調査前全景(南から)



同上(北から)



SD1集石検出状況



同上



SD1セクションベルト



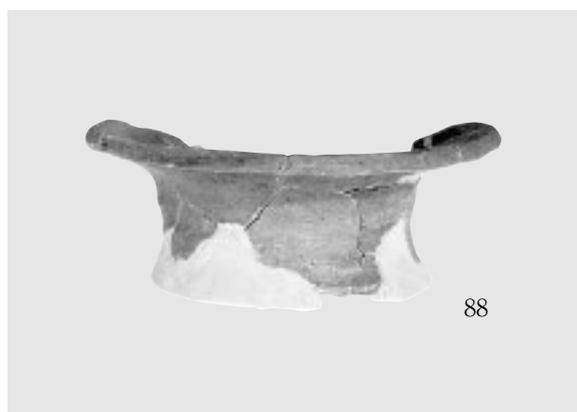
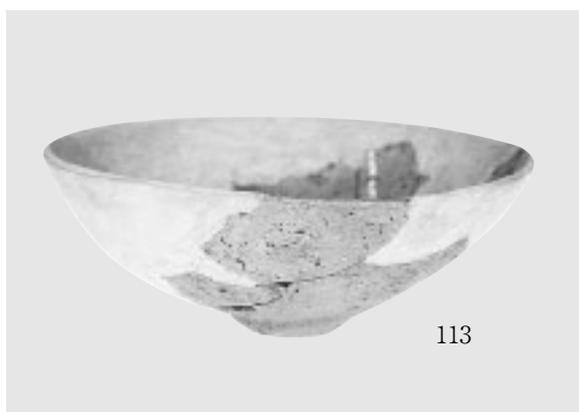
SD1セクションベルト



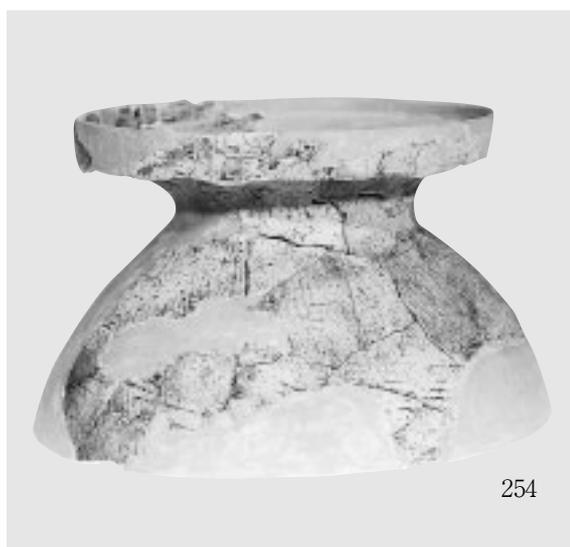
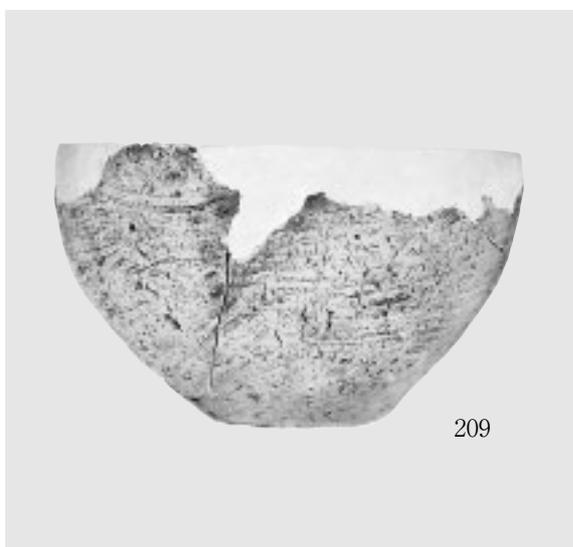
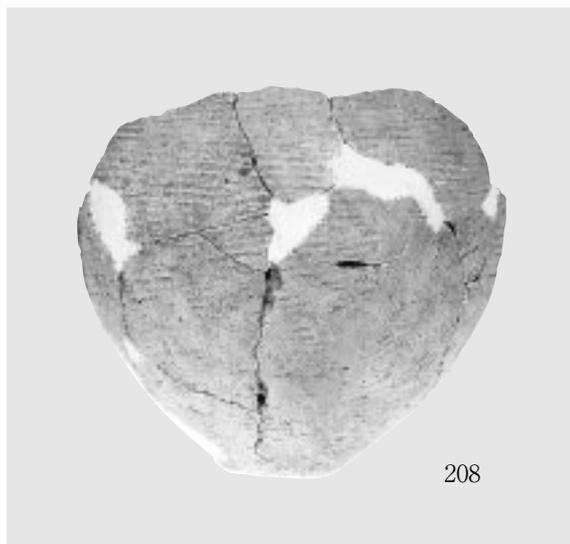
Ⅱ区完掘状況(北から)



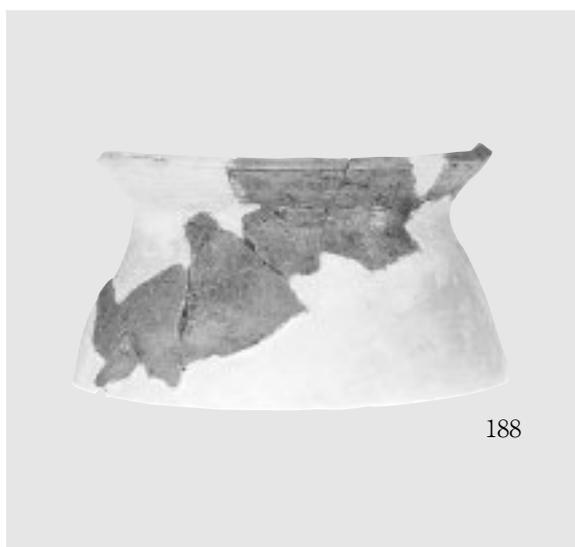
Ⅱ区SD1完掘状況(北から)



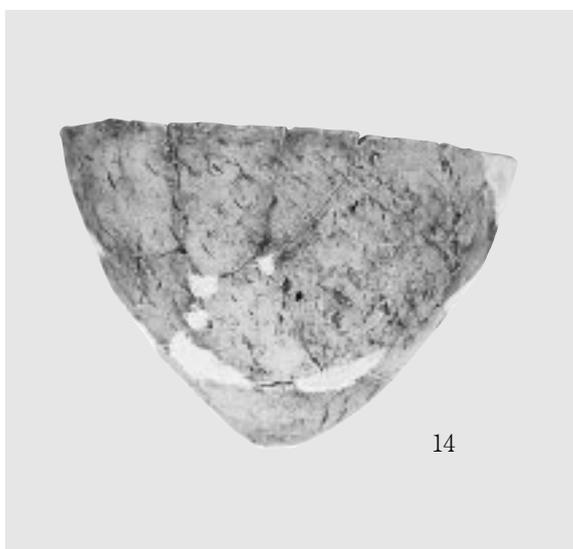
I 区出土遺物 (弥生後期土器)



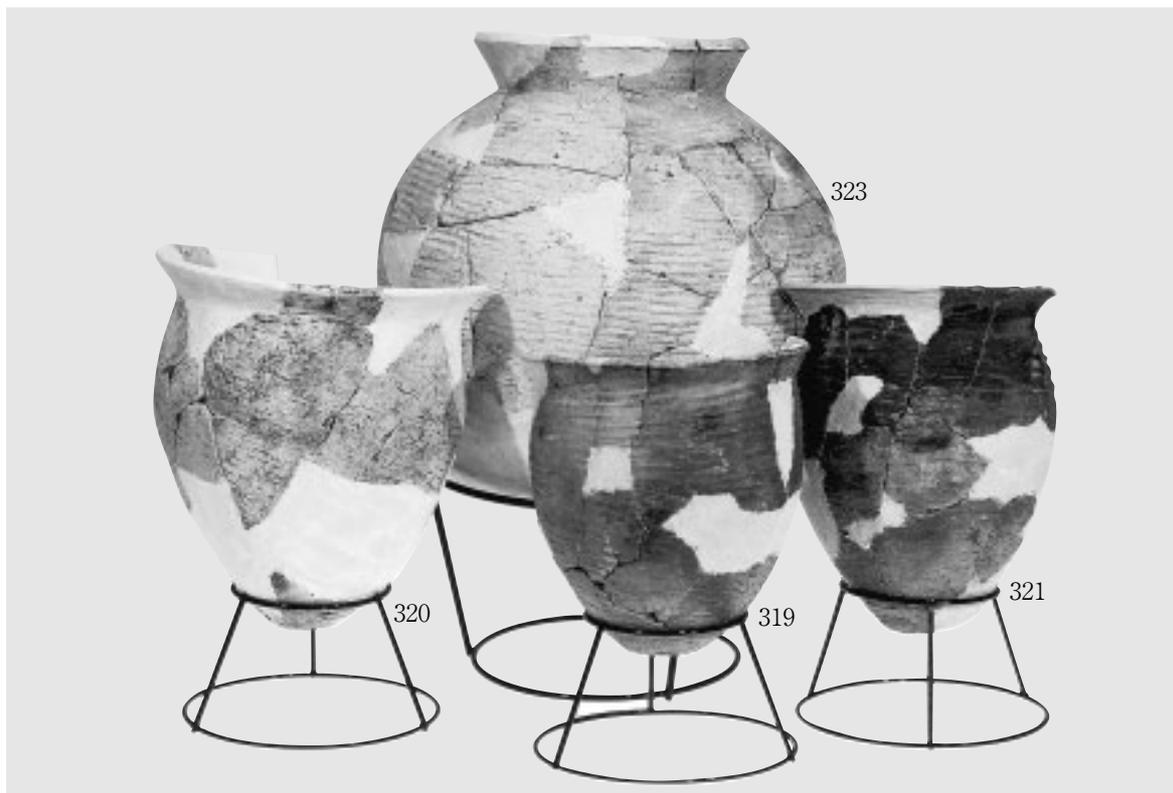
I 区出土遺物 (弥生後期土器)



I 区出土遺物 (弥生後期土器)



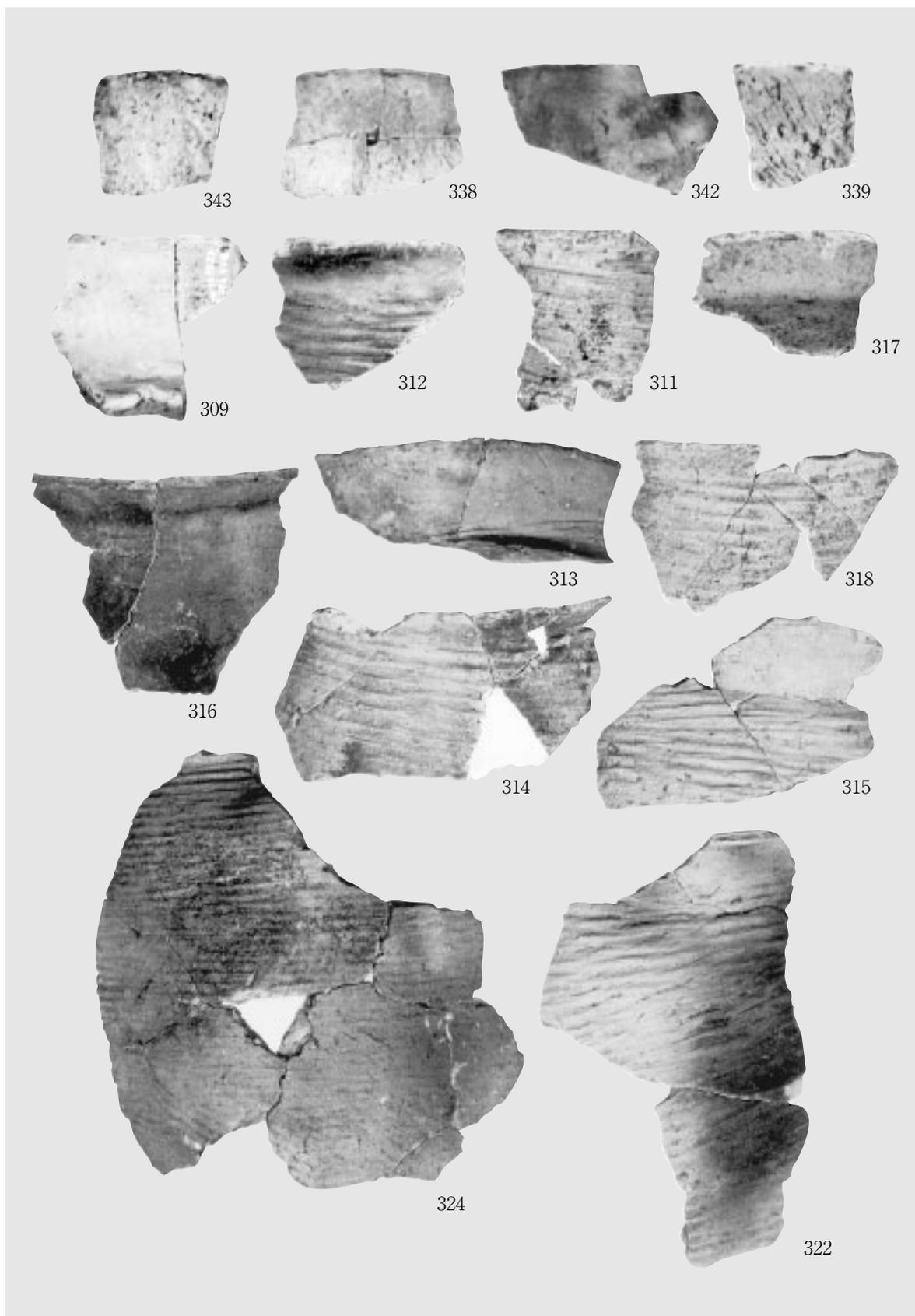
I 区出土遺物 (弥生後期土器)



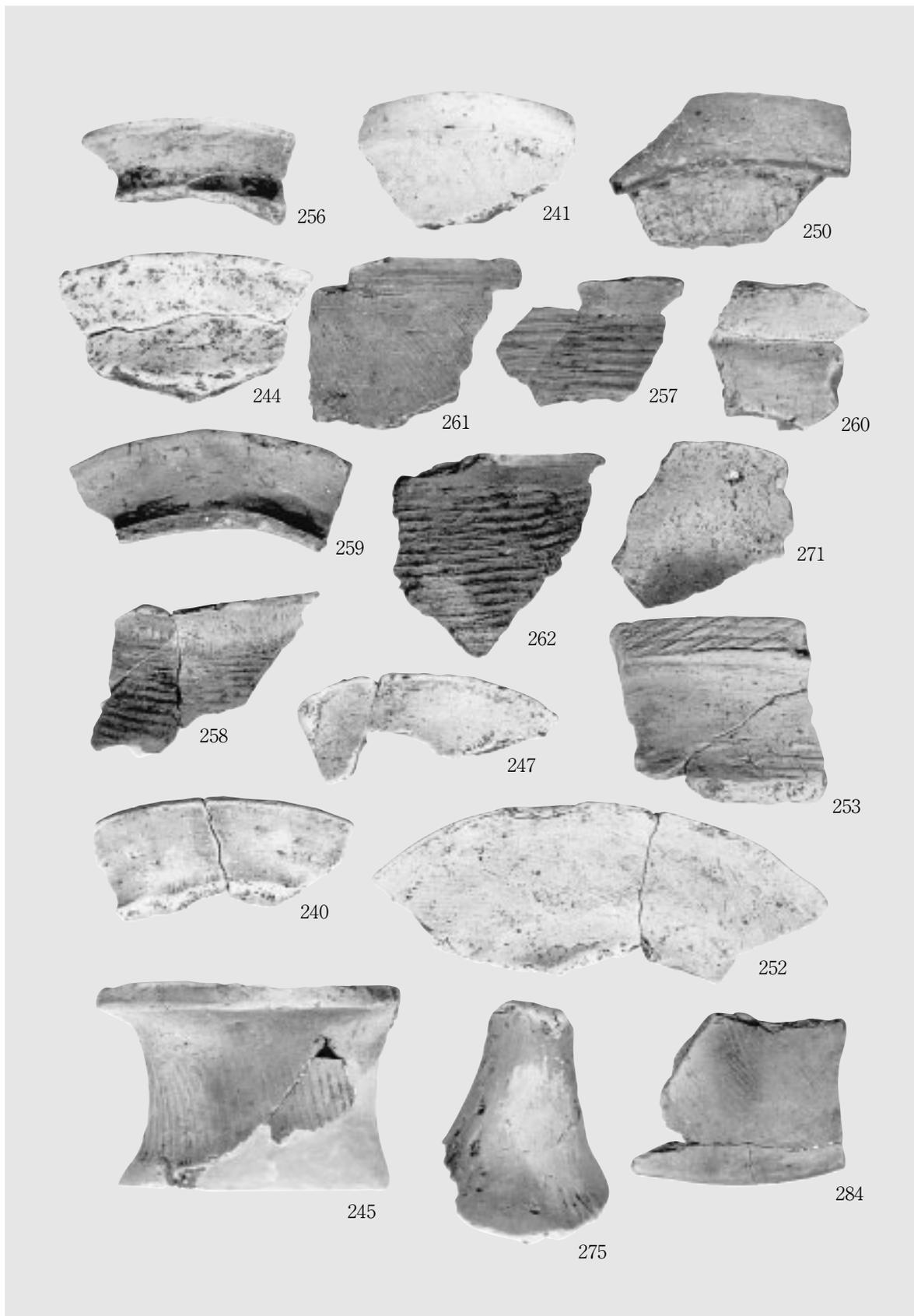
I 区出土遺物 (ST6出土の古式土師器)



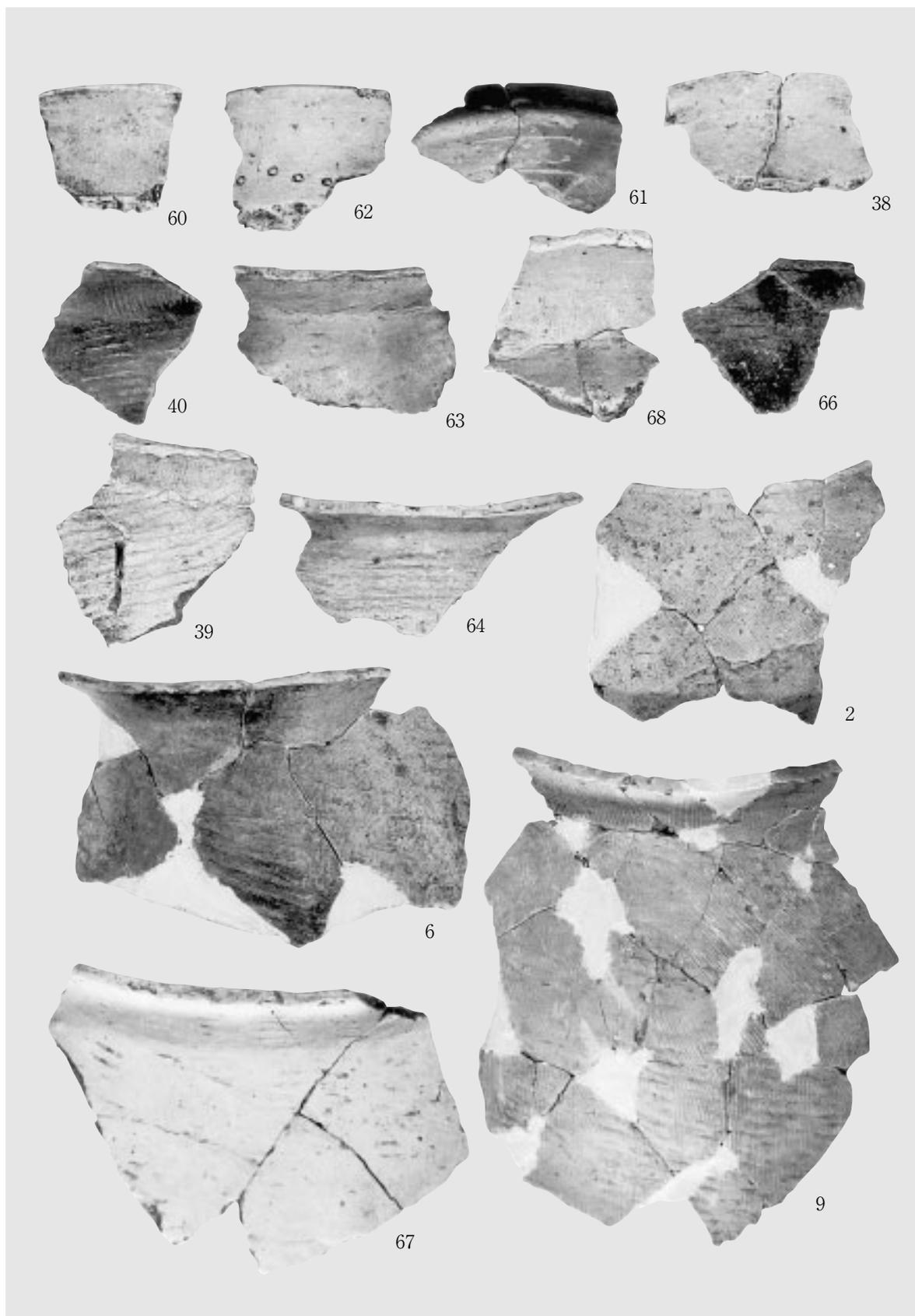
I 区出土遺物 (ST3出土の弥生後期土器)



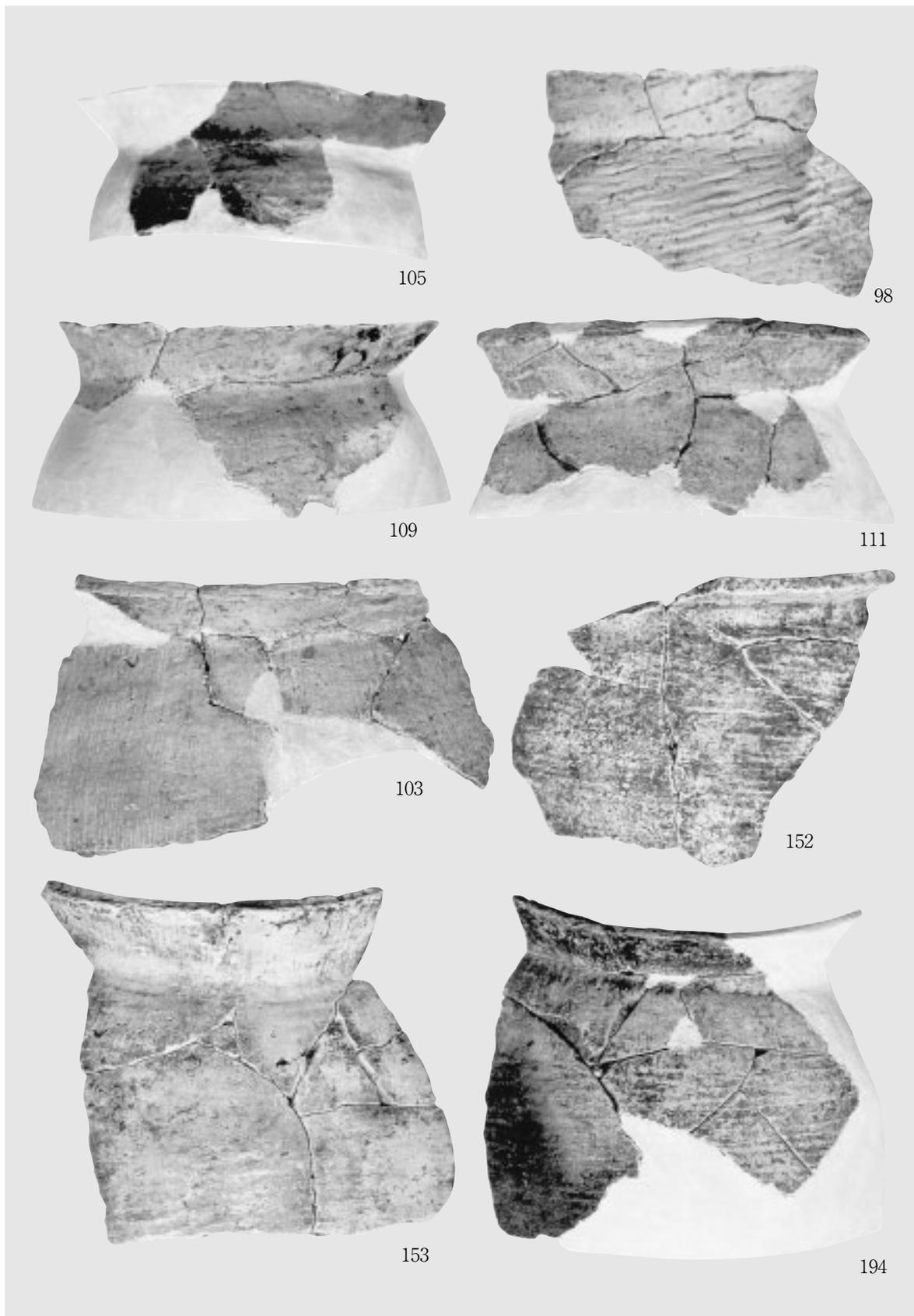
I 区出土遺物 (弥生土器・古式土師器)



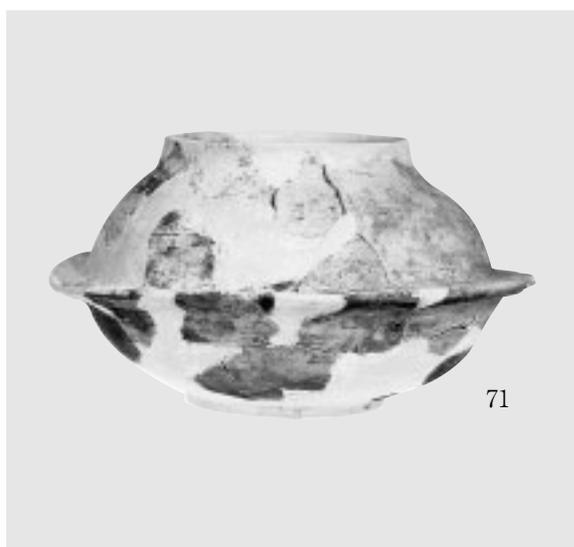
I 区出土遺物 (弥生後期土器)



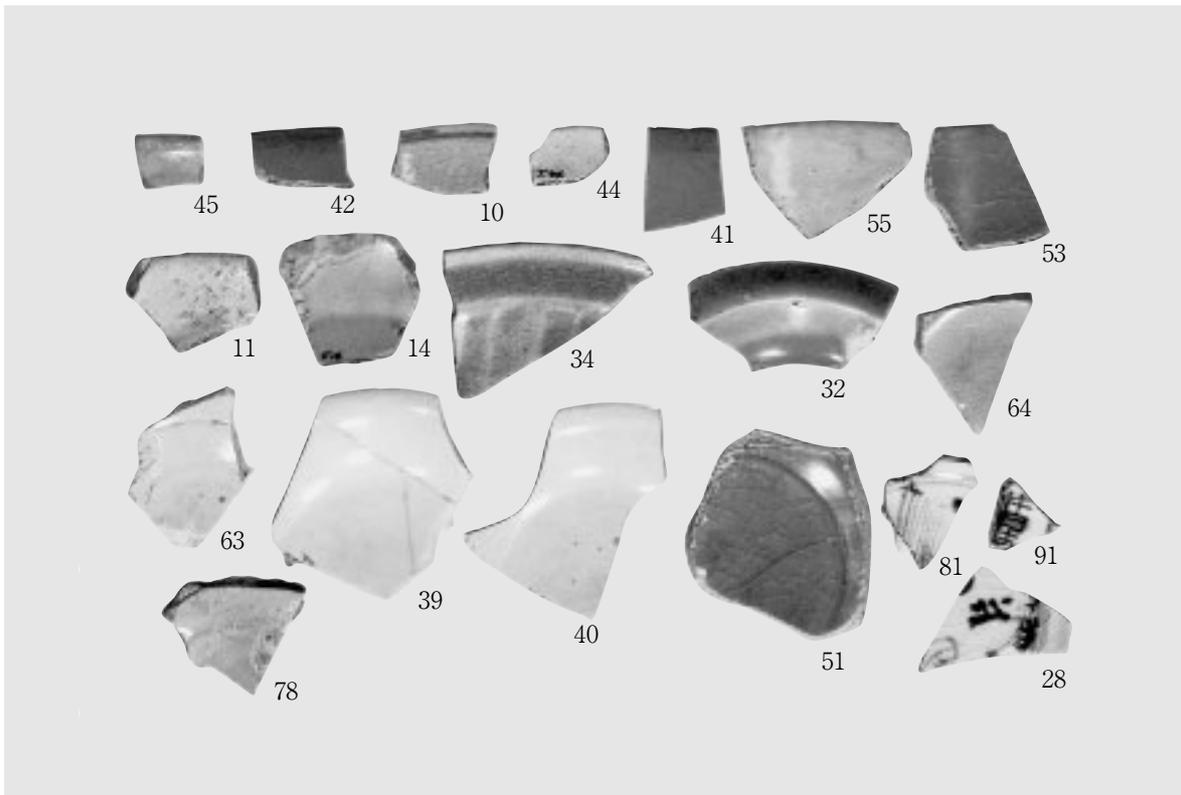
I 区出土遺物 (弥生後期土器)



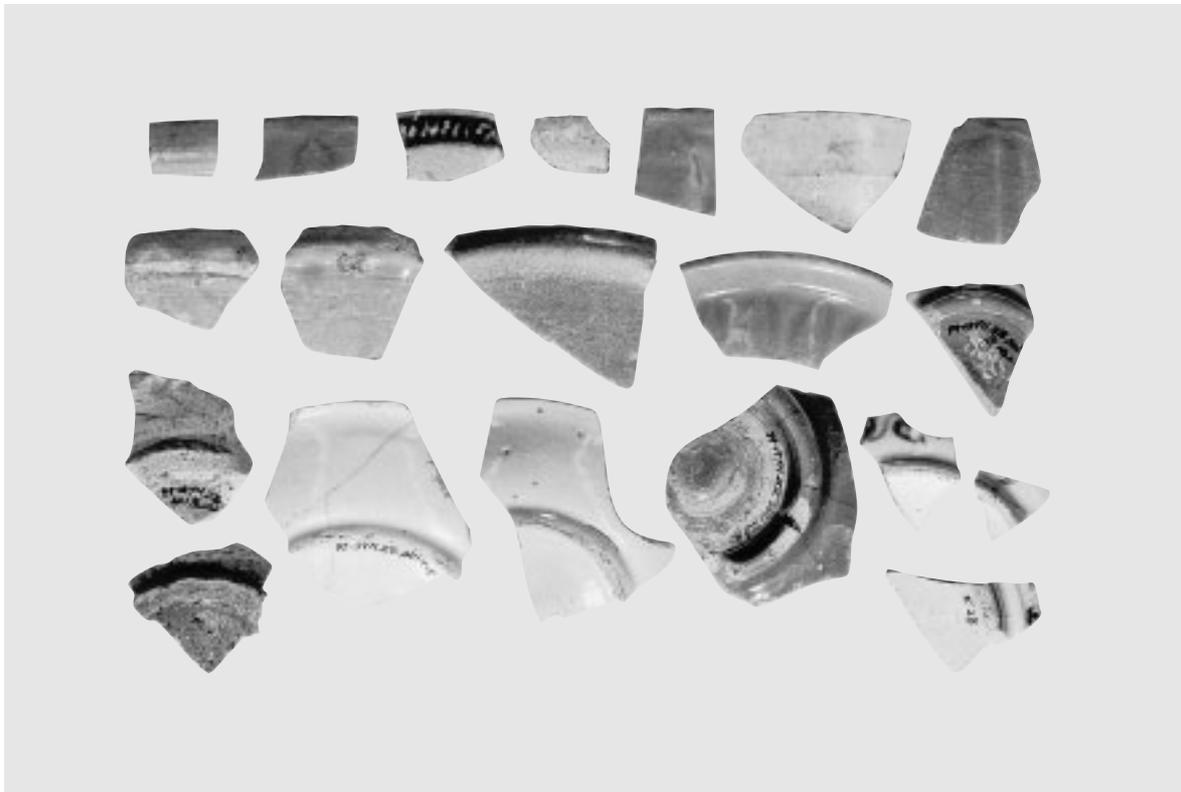
I 区出土遺物 (弥生後期土器)



Ⅱ区出土遺物(土師器杯:3・4、備前播鉢:6、同甕:72、瀬戸瓶子:8、茶釜:71)



Ⅱ区出土遺物(貿易陶磁器)表



同上 裏

報告書抄録

ふりがな	はやしだいせき							
書名	林田遺跡 I							
副書名	緊急地方道整備事業による県道宮ノ口深淵線改良工事に伴う林田遺跡発掘調査報告書							
巻次	1							
シリーズ名	高知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第71集							
編著者名	出原恵三							
編集機関	(財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター							
所在地	〒783-0006 高知県南国市篠原1437-1 TEL. 088-864-0671							
発行年月日	2002年2月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
はやしだいせき 林田遺跡	こうちけん 高知県 とさやまだちょう 土佐山田町 はやしだかも 林田・加茂	39323	190181	33度 37分	133度 42分	1999年 9月7日 ～ 11月23日	2,000	緊急地方道 整備事業に よる県道宮 ノ口深淵線 改良工事に 伴う調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
林田遺跡	集落跡	弥生時代 後期	竪穴住居		弥生土器 鉄器			

林田遺跡 I

2002年2月

発行 (財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター
高知県南国市篠原1437-1

Tel. 088-864-0671

印刷 共和印刷株式会社